

岩手県文化財調査報告書 第116集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

(平成14年度)

平成15年3月

岩手県教育委員会



序 文

埋蔵文化財は、私たちの祖先により築かれた貴重な歴史的財産であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等により厳しい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整を図るために、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以來遺跡の分布調査を実施しているところですが、現在確認されている遺跡数は1万ヶ所余りにも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成14年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位から御指導御協力を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成15年3月

岩手県教育委員会

教育長 五十嵐 正

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成14年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレント配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が担当した。
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目 次

序文

例言

I 発掘調査

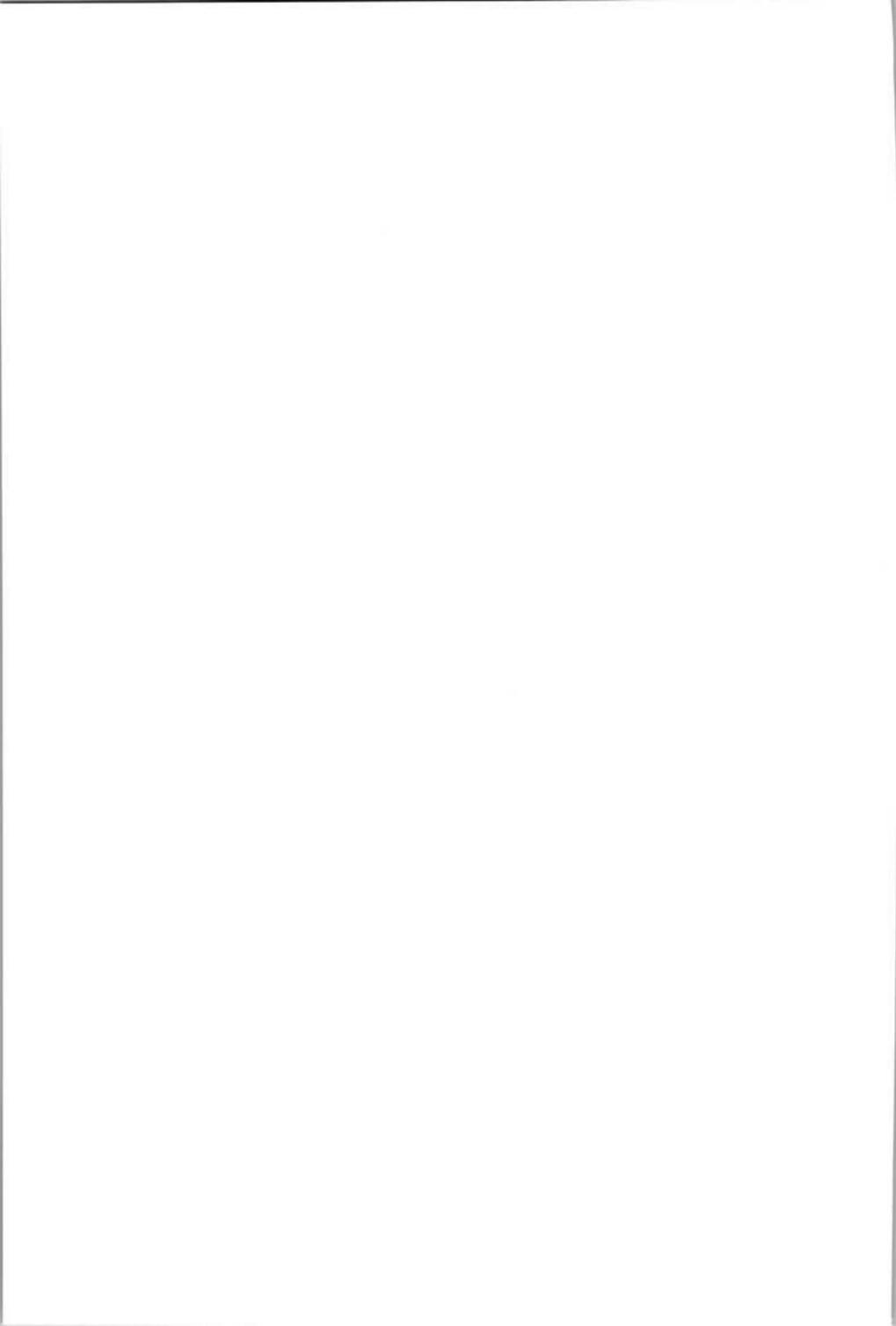
1 一般国道4号浜民バイパス改築工事（大森I・III遺跡）	3
2 国営いさわ南部農地整備事業（二の台遺跡）	6
3 国営いさわ南部農地整備事業（NE34-2172）	7
4 地方特定道路整備事業（蔵屋敷遺跡）	8
5 は場整備事業跡地地区（島田IV遺跡）	11
6 は場整備事業跡地地区（島田II遺跡）	17
7 は場整備事業跡地地区（根蕪遺跡）	24
8 は場整備事業跡地地区（水ノ口前東遺跡）13年度	26
9 は場整備事業跡地地区（寺ヶ前遺跡）13年度	31
10 は場整備事業寺領小林地区（九郎館跡）	34
11 は場整備事業寺領小林地区（寺ノ上遺跡）	35
12 は場整備事業姥沢上野地区（明後沢遺跡）	37
13 は場整備事業満倉地区（中半入遺跡）	38
14 は場整備事業猫川左岸地区（林崎館遺跡）	40
15 土地改良総合整備事業伊手西部地区（大中田遺跡）	42
16 煙帯総合整備事業盛岡西部地区（月ヶ森II遺跡）	44
17 一般農道整備事業日向川西地区（NE65-1163）	46
18 北上警察署立花駐在所庁舎新築事業（立花南遺跡）	48
19 宮古測候所構内宿舎排水施設改修工事（鍬ヶ崎館山貝塚）	50
20 は場整備事業下門岡地区（金附遺跡）	52

II 試掘調査

1 一般国道4号北上拡幅工事（滝の沢地区遺跡）	57
2 一般国道4号花巻東バイパス改築工事（上台II遺跡）	58
3 一般国道4号水沢東バイパス改築工事（杉の堂遺跡・跨呂井遺跡）	59
4 一般国道4号浜民バイパス改築工事（芋田II遺跡）	60
5 一般国道4号浜民バイパス改築工事（芋田V遺跡）	61
6 一般国道4号浜民バイパス改築工事（芋田VI遺跡）	62
7 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（熊堂B遺跡）	63
8 砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業（河崎の橋擬定地）	64
9 地域活性化支援道路整備事業（里古屋遺跡）	65
10 山本川筋通常砂防事業（中屋敷遺跡）	66
11 緊急地方道路整備事業（Bタイプ）（ME96-0249）	67
12 は場整備事業八重畑地区（宿・宿館遺跡）	68
13 は場整備事業八重畑地区（高畑遺跡）	69
14 は場整備事業八重畑地区（蛇鰐塀遺跡）	70
15 は場整備事業八重畑地区（大西遺跡）	72

16	ほ場整備事業八重畠地区（大西橋Ⅱ遺跡）	73
17	ほ場整備事業二子地区（堰向Ⅱ遺跡）	74
18	ほ場整備事業二子地区（西川目遺跡）	75
19	ほ場整備事業二子地区（中島遺跡）	76
20	ほ場整備事業新里地区（香取根館遺跡）	77
21	ほ場整備事業満倉地区（中半入遺跡）	78
22	ほ場整備事業満倉地区（兵法田遺跡）	79
23	ほ場整備事業寺領小林地区（古城上野遺跡）	80
24	ほ場整備事業寺領小林地区（NE46-0198）	81
25	ほ場整備事業寺領小林地区（NE46-0165）	82
26	ほ場整備事業姥沢上野地区（明後沢遺跡群）	83
27	ほ場整備事業一関第1地区（高玉遺跡）	84
28	ほ場整備事業渋民地区（水無I遺跡）	85
29	ほ場整備事業渋民地区（伊勢堂Ⅲ遺跡）	86
30	ほ場整備事業渋民地区（佐野脇遺跡）	87
31	ほ場整備事業大川目地区（外里遺跡）	88
32	中山間地域総合整備事業鹿踊の郷地区（和野ソマナイ遺跡）	89
33	中山間地域総合整備事業鹿踊の郷地区（和野新龜神社遺跡）	90
34	畑地帯総合整備事業舌崎地区（釜沢館遺跡）	91
35	畑地帯総合整備事業舌崎地区（雨滝遺跡）	93
36	土地改良総合整備事業江刺西部地区（大文字遺跡）	94
37	土地改良総合整備事業江刺西部地区（鶴羽衣遺跡）	95
38	土地改良総合整備事業戸沢地区（田屋館遺跡）	96
39	地域振興支援道路ネットワーク整備事業（清田台遺跡）	97
40	試掘調査出土遺物図版	98
41	分布調査一覧	104
42	試掘調査一覧	106
III	写真図版	115

I 発掘調査



1 一般国道4号渋民バイパス改築工事関連調査

大森I遺跡（KE67-0029）試掘及び発掘調査

大森III遺跡（KE67-0121）試掘調査

所在地：玉山村大字渋民字狐沢153ほか

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日

試掘調査：平成14年6月24日（1日間）

発掘調査：平成14年7月15日～16日（4日間）

平成14年7月29日～30日（4日間）

遺跡は、IGRいわて銀河鉄道株式会社渋民駅の東北東約1.3kmに位置し、北上川東岸の館石川によって開析された扇状地形の扇央部に立地している。現況は、水田及び農作業用道路である。標高は、202～204m前後を測る。

試掘調査を大森I遺跡及び大森III遺跡で行い、大森III遺跡では、埋蔵文化財が確認されなかったが、大森I遺跡で縄文時代後期の土器を主体とする包含層が確認されたことから、包含層が確認された範囲を調査区に設定し、発掘調査を実施したものである。調査区の基本土層は次のとおりである。第I層：耕作土15cm前後、第II層：上面にオレンジバミスを含む黒褐色シルト質土25cm前後、第III層：オレンジバミスを含む黒色シルト質土40cm前後、第IV層：暗褐色シルト質土（漸移層）30cm前後、第V層褐色土（地山）層厚不明。

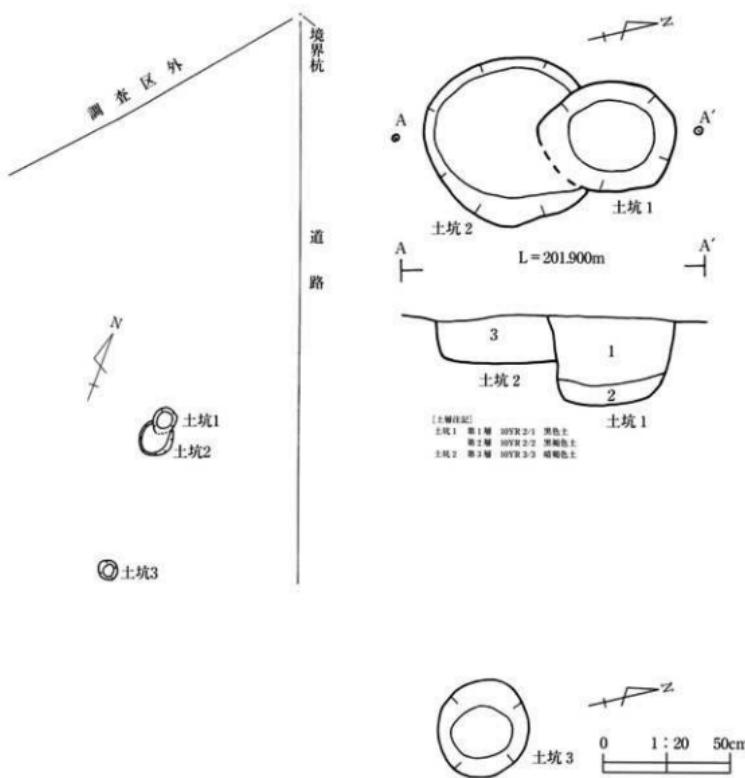
調査の結果、土坑が3基検出された。土坑1の平面形は円形であり、断面形はビーカー状を呈していた。規模については、開口部径50cm、底部径30cm、深さは検出面から35cmであった。この土坑1の埋土第1層から縄文土器が1点出土している。土坑2の平面形は円形で、開口部径が66cm、底部径51cm、深さ21cmの規模であった。土坑2の埋土には、地山の褐色土が小ブロック状に混入していることから、人為的に埋め戻され



第1図 大森I・III遺跡位置図



第2図 大森I・III遺跡調査区位置図

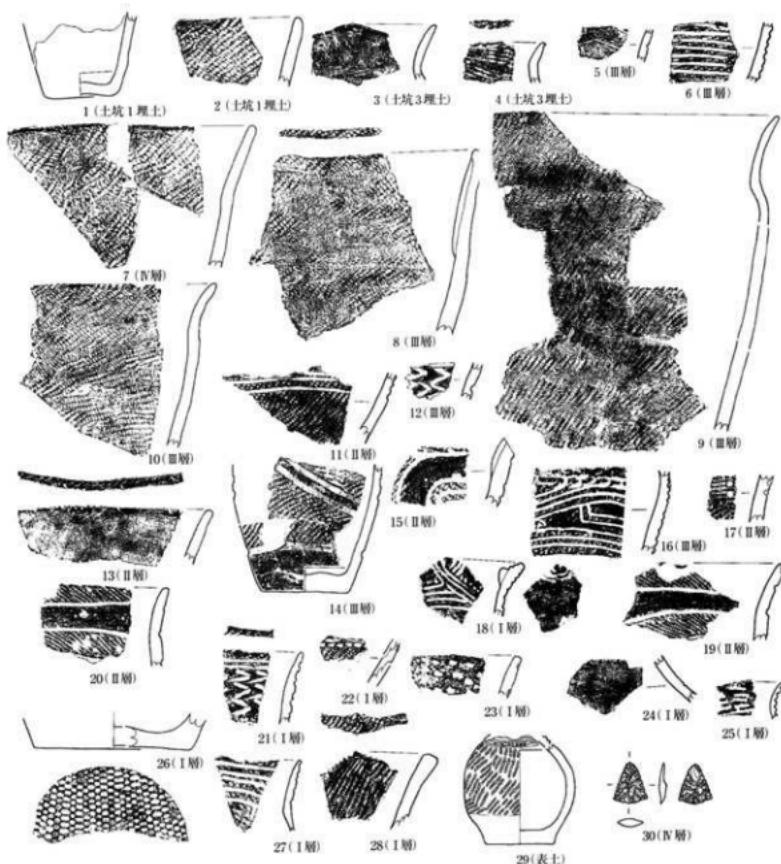


第3図 大森I遺跡遺構図

ている可能性があると思われる。土坑1と土坑2は重複しており、土坑1の方が構築時期は新しい。土坑3は平面形が円形で、規模については、開口部径が36cm、底部径が27cm、深さ25cmである。土坑2からは遺物は出土しなかったが、土坑3からは縄文土器が1点出土している。土坑1からは、縄文土器の底部1点、深鉢の口縁部と思われる破片1点が出土している。従って、土坑1及び土坑3の構築時期は、縄文時代と考えられる。

遺構外からは、主に包含層と思われる第3層の黒色土から、縄文時代後期の土器が小コンテナ1個相当分出土している。第4層下で、一部が破損した平基無茎の黒曜石製石鏃1点が出土した。また、表土内からではあるが、頸部に二重の沈線があり、沈線と沈線の間に刺突列点文が施されたミニチュア土器が出土している。ただ、表土である第1層からは、近・現代のものと考えられるガラス製おはじき等も縄文土器と混じて出土していることから、耕作時に攪乱をうけていると思われる。

今回の調査区における遺構は、土坑3基のみであり、遺構に結びつく遺物はわずかに4点であった。住居跡等の遺構は、今回の調査区内では確認できなかったため、この遺跡の性格等は不明である。



29(表上)

番号	外表面特徴	内部の特徴	備考	番号	外表面特徴	内部の特徴	備考	番号	外表面特徴	内部の特徴	備考
1	土色	土色		12	表面粗粒化織文	土色		23	網文		
2	織文(LR)	ナガ	外表面に炭化物付着	13	ナガ			24	織文(LR)→平行織文	ナガ→1ガホ	
3	空芯、ナガ	ナガ		14	織文(LR)→平行織文	ナガ	外表面に炭化物付着	25	1ガホ→織文(LR)、 上縁部に粗粒化織文	ナガ→1ガホ	
4	LH形、口縁部に無筋し	1ガホ		15	織文(LR)→平行織文	ナガ		26	ナガ→1ガホ	ナガ→1ガホ	外表面は無筋で、既往 (5.5cm)
5	織文(LR)→山形文	1ガホ		16	織文(LR)→平行織文、 ナラシ文	ナガ	外表面に炭化物付着	27	織文(LR)→平行織文	1ガホ	
6	織文(LR)→平行波織文	1ガホ		17	織文(LR)→斜面	ナガ		28	1ガホ、1ガホに織文	1ガホ	外表面に炭化物付着
7	織文LR	1ガホ	外表面に炭化物付着	18	粗目、網文、平行波	ナガ、火炎		29	織文(LR)→斜面	1ガホ	既往 4cm
8	織文(LR)	1ガホ		19	織文(LR)→平行波織文 に立った丸窓	1ガホ	外表面に本筋				
9	織文LR	1ガホ		20	織文(LR)→平行波織文	1ガホ		30	石器	既往 5.5cm、既往 3cm、 既往 5.5cm	
10	織文(LR)	1ガホ	外表面に炭化物付着	21	織文(LR)→平行波織文、 火炎部粗粒化織文	1ガホ		0	1:3	10cm	
11	織文(LR)→平行波織文	1ガホ		22	織文(LR)→斜面	ナガ					

第4図 大森I遺跡出土遺物

2 国営いさわ南部農地整備事業

二の台遺跡 (NE 44-0230)

所在地：胆沢町小山字二の台地内

事業者：農林水産省東北農政局

いさわ南部農地整備事務所

調査日：平成14年7月10日～12日（3日間）

遺跡は、JR東北本線前沢駅の北西約8.3kmに位置し、標高は165m前後である。

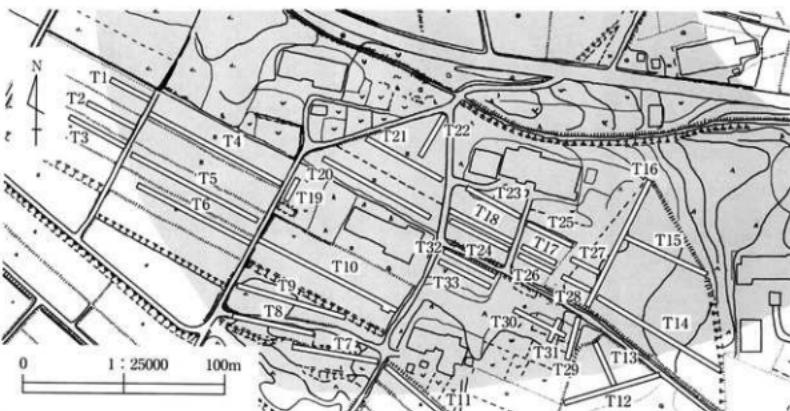
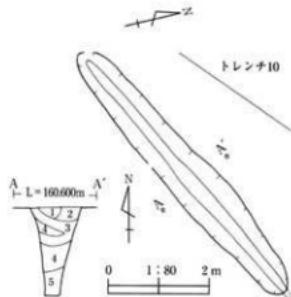
今回の発掘調査はほ場整備事業に伴うもので、昨年度、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った試掘調査の結果、遺構が確認された箇所（T10）を発掘調査した。調査面積は約660m²である。試掘時に発見されていた1基の陥穴状遺構の周囲を括げる形で、調査を行った。

基本層位は第1層：表土、層厚は5～10cm、第2層：黒褐色シルトと明黄褐色粘土質シルトの混合土、層厚10～30cm、第3層：明黄褐色粘土、地山、層厚不明となっている。

調査の結果、試掘調査時の陥穴状遺構を半裁し、精査したところ、風倒木痕であることが判明した。この風倒木痕の南側に黒色土の落ち込みがあり、精査した結果、第3層上面で北西～南東方向を向いた陥穴状遺構が1基発見された。遺物は出土していない。



第5図 二の台遺跡位置図



第6図 二の台遺跡調査区位置図

3 国営いさわ南部農地整備事業

新規遺跡（N E34-2172）

所在地：胆沢郡胆沢町小山字中沢地内

事業者：農林水産省東北地方整備局

いさわ南部農地整備事務所

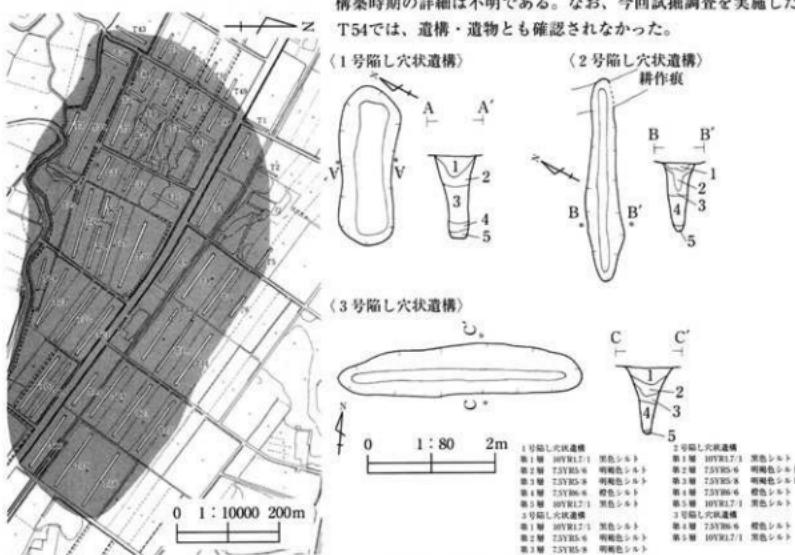
調査期日：平成14年7月2日～7月5日（5日間）

本遺跡は、JR東北本線前沢駅の北西約9.4kmに位置し、胆沢扇状地の高位段丘面にある石坂段丘の段丘崖縁付近に立地する。標高は170m前後で、白鳥川との比高は約15mである。現況は主に水田である。

今回の発掘調査は、昨年度、磐岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した試掘調査により遺構を検出した箇所の中で、排水路等でやむを得ず遺構が消滅する箇所を対象に、発掘調査による記録保存を行った。併せて、昨年度、諸事情により調査未了になっていた箇所について、試掘調査を実施した。

今回発掘調査を行った遺構は、縄文時代の陥し穴状遺構3基である。T12で検出された陥し穴状遺構は、平面形が溝状を呈し、規模は幅が80cm、長さが250cmで、深さは検出面から130cm程度であった。検出面は水田耕作土直下の黄褐色ローム面であり、遺構の断面形はT字状を呈していた。T8及び今回設定したT53で検出した陥し穴状遺構も同様の形状で、規模はT8のものが幅50cm、長さ320cmで、深さは検出面から110cmであった。T53で検出した遺構は幅80cm、長さ382cmで、深さは検出面から106cmであった。

検出された陥し穴状遺構は、形状から縄文時代の遺構と推定されるが、遺物等が出土していないことから構築時期の詳細は不明である。なお、今回試掘調査を実施したT54では、遺構・遺物とも確認されなかった。



第8図 NE34-2172 遺跡調査区位置図・遺構図



第7図 NE34-2172 位置図

4 地方特定道路整備事業関連調査

蔵屋敷遺跡 (ME64-0148)

所在地：北上市和賀町長沼地内

事業者：北上地方振興局土木部

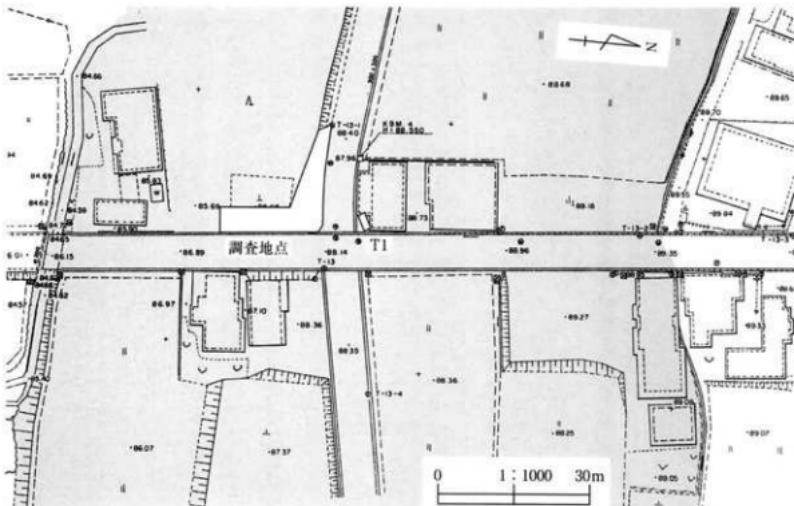
調査期日：平成14年5月7日～10日

本遺跡は、JR北上線藤根駅の南西約1.0kmにあって、和賀川左岸の河岸段丘縁辺部に立地する。遺跡が載る低位段丘上には、縄文時代以降、各時代の遺跡が数多く確認されているが、本遺跡の西側には、国の指定史跡の江釣子古墳群に属する長沼古墳が隣接する。遺跡の標高は88m前後で、周辺の状況は宅地・水田・畑地として利用されるほか、一部は山林となっている。

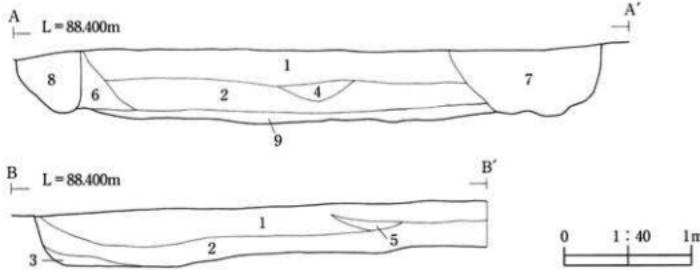
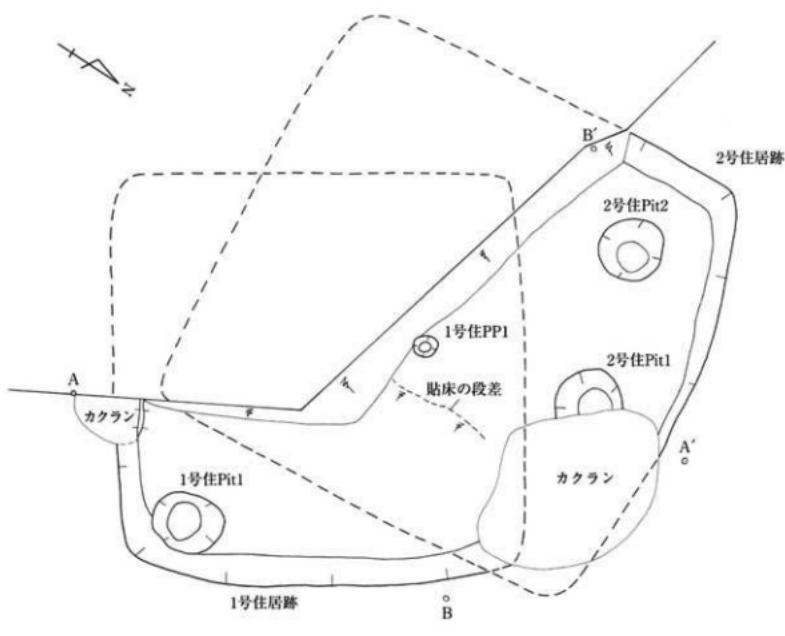
今回は、平成13年5月に実施した試掘調査で確認されていた古代の竪穴住居跡について発掘調査を行った。精査の結果、当初1棟と予想していた住居跡は、2棟重複していることが明らかとなった。新旧関係は、第11図の南北断面図にあるとおり、2号住居跡が1号住居跡を切っている状況である。1号住居跡の規模は、一边が3.5m前後と推定され、軸方向は南北方向から30°ほど振れている。検出面からの深さは50～60cm、壁の立ち上がりは直立気味で、床面の一部は、厚さ10cm前後の貼床となっていた。付属施設は、東隅コーナーに貯蔵穴と思われる深さ20～30cmあまりの土坑が1基確認されている。一方、2号住居跡の推測される規模は3.8m前後で、軸方向はほぼ南北方向である。検出面からの深さは40cmほどで、1号住居跡よりも浅い。床面で土坑が2基検出されているが、規模は1号住居



第9図 蔵屋敷遺跡位置図



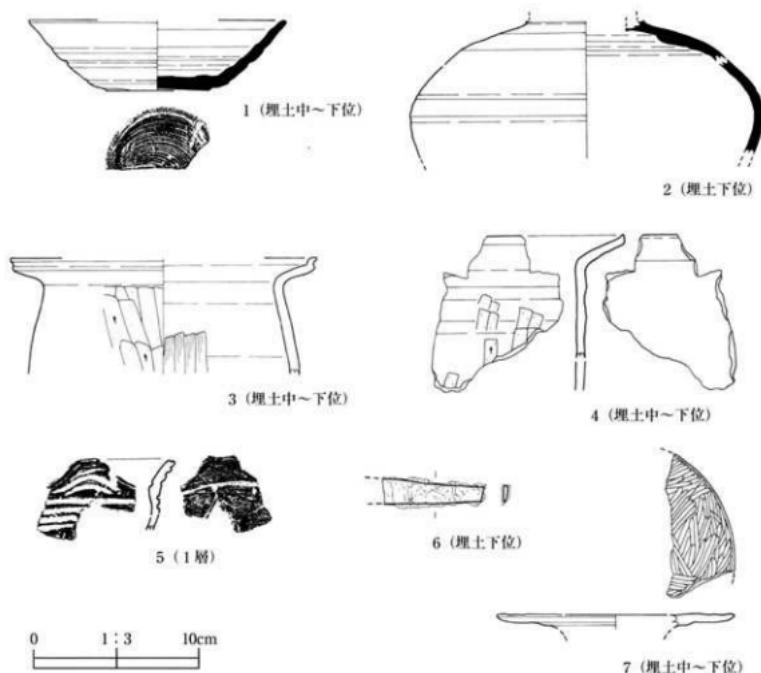
第10図 蔵屋敷遺跡調査区位置図



(A-A' : B-B')	(しまり)	(軸)	(備考)
1. HYR3-2 黒褐色 シルト	前	前	褐色の小ブロック (3~10mm) 含む
2. HYR3-2 黒褐色 シルト	後	後	明黄褐色のブロック及び褐色小ブロック多く含む
3. HYR2-1 黒 シルト	前	前	明黄褐色土を含む
4. HYR3-1 黒褐色 シルト	前	前	褐色の小ブロックを含む
5. HYR2-1 黒 シルト	前	前	褐色の小ブロックを含む
6. HYR2-1 黒褐色 シルト	前	前	明黄褐色土をばらに含む
7. HYR2-1 黒 シルト	前	前	堆山の崩落ブロック等含まずカクランか?
8. HYR4-1 黒褐色 サイロシルト	前	前	草地を伴した即の現れを呈した土と思われる
9. HYR2-1 黒色 サイロシルト	前	前	明黄褐色土との境合土

(古い住居跡の範囲)

第11図 蔽屋敷遺跡遺構図



第12図 蔵屋敷遺跡出土遺物

跡のそれとほぼ同じである。なお、重複する2棟の中央に柱穴と思われる小ピットが検出されたが、いずれに属するものは不明確である。また、1号・2号住居跡ともカマドは確認されなかったが、新しいほうの2号住居跡に付属するカマドについては、今回の調査区域外に存在するものと思われる。

出土遺物には、土師器の壺・甕類、須恵器の壺・甕、繩文土器、鉄製品などがあり、出土量は容積14%のコンテナ1箱弱である。前述したように、調査開始時の不手際から1号住居跡と2号住居跡の出土遺物を区別できていない。掲載した7点の遺物も、どちらに帰属するものか不明である。

1は須恵器の壺で、底部に回転糸切り痕が明瞭に残る。法量は口径15.1cm、底径6.0cm、器高4.1cmである。2は同じく須恵器の甕で、破片2点から作図した。最大径は体部上端にある。3・4はロクロ成形された土師器の甕で、いずれも体部外面にはヘラケズリ調整が加わる。3は口唇部の上部への引き出しが明瞭である。推定口径は18.2cmである。5は繩文時代晩期の土器片で、埋土上位から出土した。6は刀子と思われる鉄製品である。7は器台が付くと思われる皿状の土師器の破片で、第2層下位から出土している。推定径は14.0cmで、中心部に向かってわずかに厚みを増し、台が付く様相である。内面は黒色処理後、丁寧にヘラミガキされている。

5 は場整備事業姉体地区関連調査

島田Ⅳ遺跡 (N E 37-0181)

所在地：水沢市真城字島田地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年3月22日・25日

4月15日～19日（7日間）

遺跡は、JR東日本東北本線陸中折居駅の北東約2kmに位置し、胆沢扇状地の低位段丘である水沢段丘上に立地している。遺跡の標高は34m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地となっている。

今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、平成13年10月に試掘調査を実施したところ、構造が確認された水路になる部分と切り土になる部分について発掘調査を実施した。調査面積は、約816m²である。

調査の結果、調査区域中央部付近を中心に、堅穴住居跡・溝跡・土坑・柱穴状土坑が検出された。堅穴住居跡は、出土した土師器・須恵器等の遺物から平安時代の構造と推定される。住居跡の上部が削平を受けているほか、南北方向に延びる2条の溝跡と重複しているため残存状態が悪く、貼床の一部が検出されたのみである。検出された部分から推定すると、平面形は古代の住居跡に多い隅丸方形を呈し、規模は、一辺が2.5mほどと考えられる。南側の床面の一部に焼土と炭化物の広がりが確認されたことから、カマドは南側に設けられていたが溝によって消滅した可能性が高い。

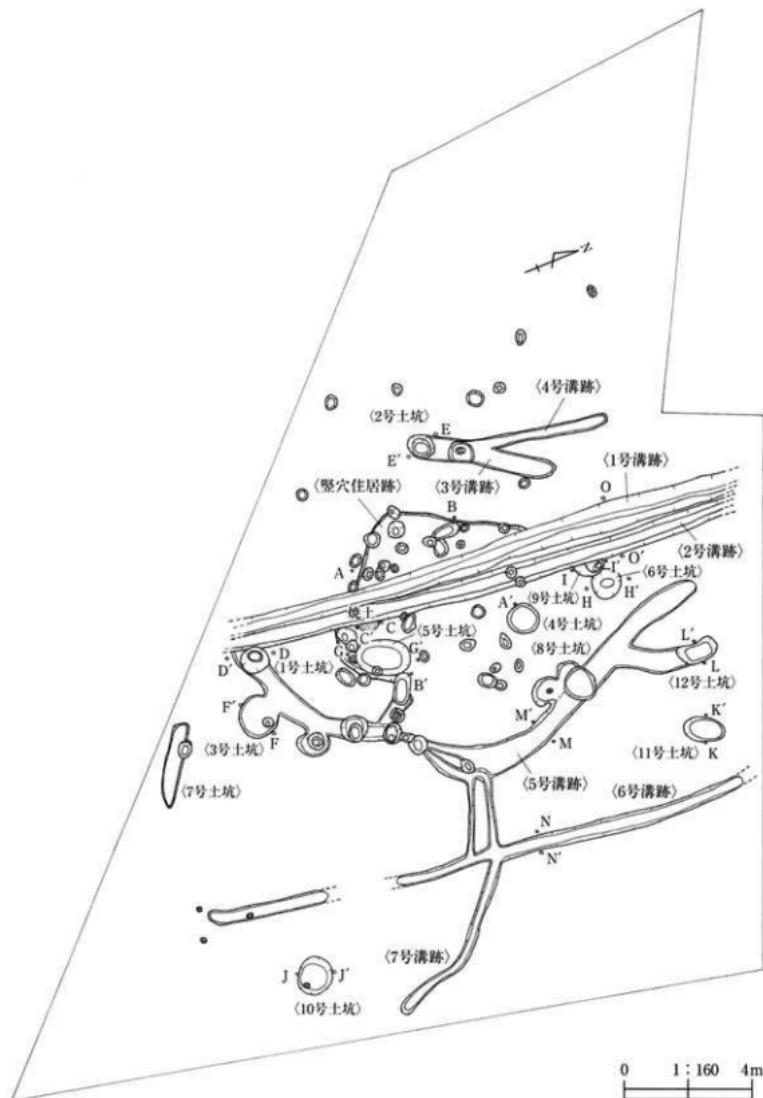
溝跡は7条検出され、うち4条はほぼ南北方向に延びている。住居跡と重複する1号溝跡と2号溝跡は、規模が上幅40～50cm、底部幅10～20cmで、深さは30～40cmである。1号溝跡と2号溝跡は調査区中央部付近で重複しており、埋土の状況から1号溝跡の方が構築時期は古いと考えられる。この2条の溝跡からは土師器と須恵器が出土しているが、後世の流れ込みの可能性もあり、構築時期は不明である。



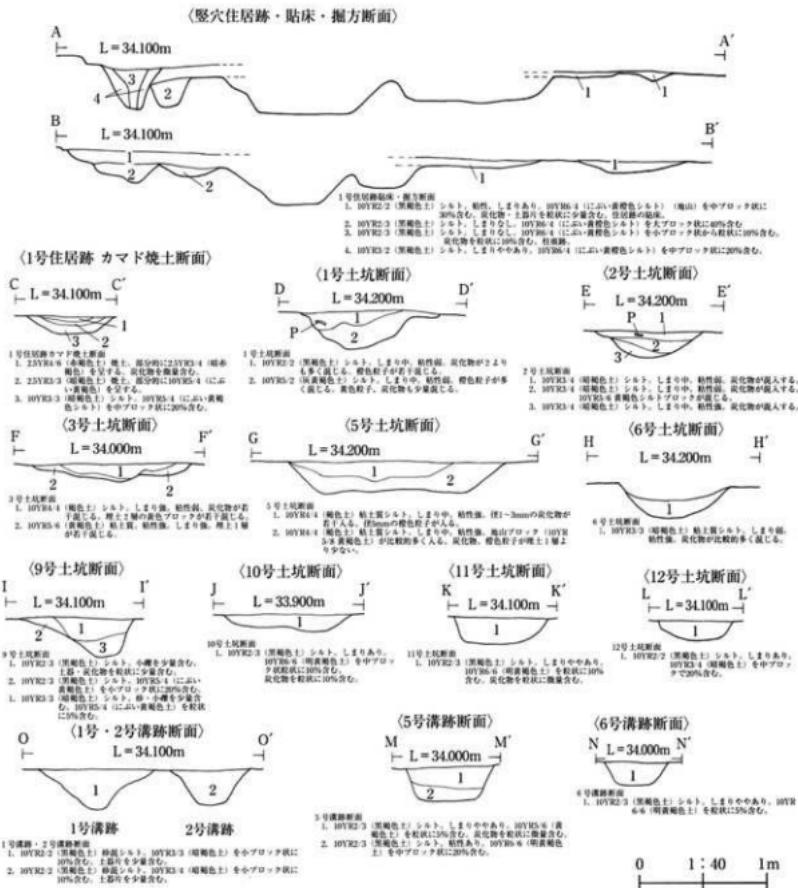
第13図 島田Ⅳ遺跡位置図



第14図 島田Ⅳ遺跡調査区位置図

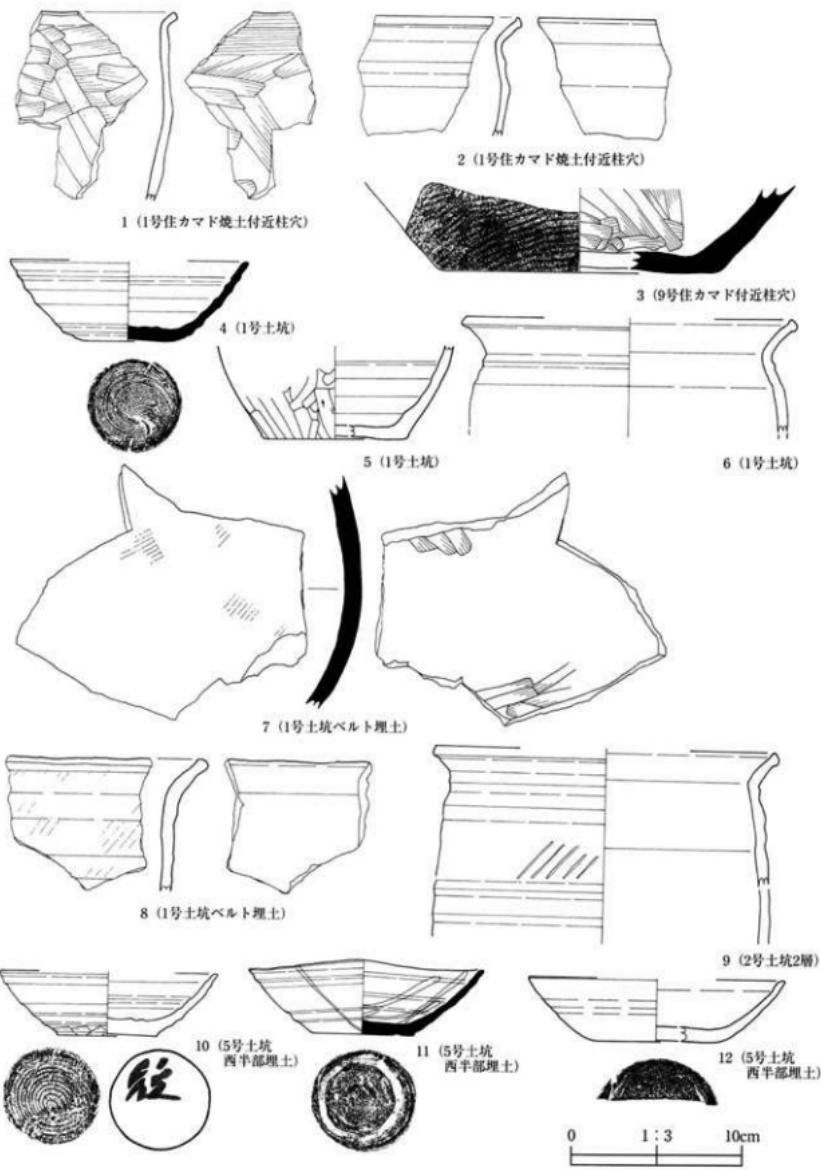


第15図 島田IV遺跡遺構配置図

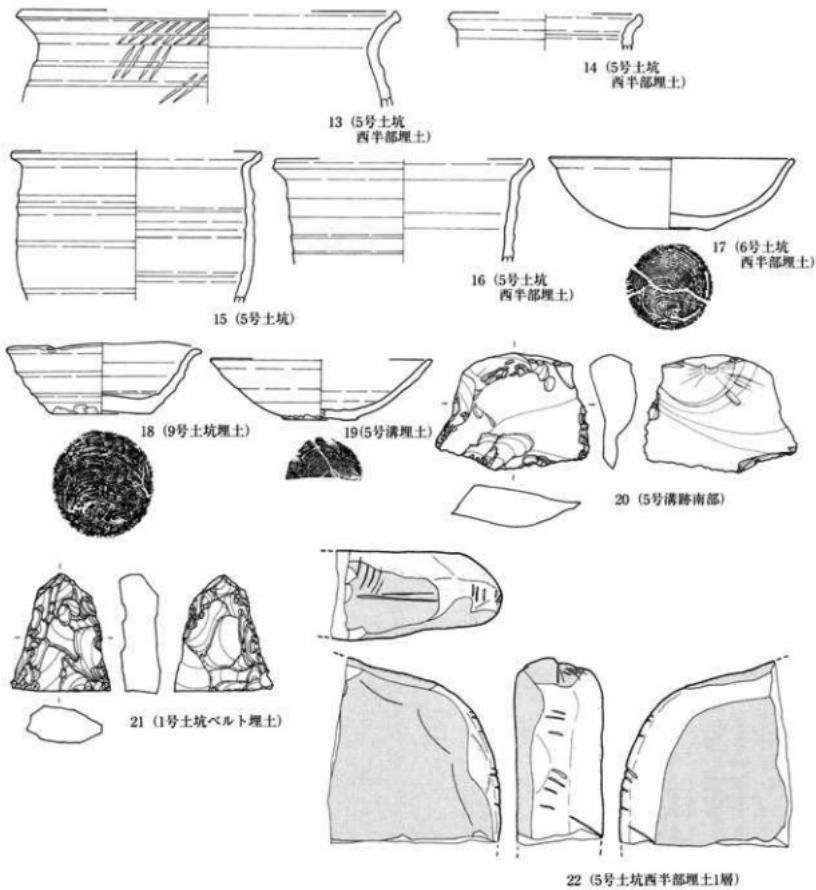


第16図 島田IV遺跡遺構図

土坑・柱穴状土坑は合わせて65基検出されている。検出された土坑は平面形が円形あるいは楕円形を呈するものが多く、断面形は浅鉢状のものが多い。規模は径40~50cm、深さ30~40cmのものがほとんどである。1号土坑の埋土からは、焼土粒・炭化物とともに土師器・須恵器が比較的まとまって出土しており、住居跡と同時期の平安時代の遺構と考えられる。柱穴状土坑は径が20cm前後のものがほとんどである。この中には住居跡に伴う柱穴も含まれると思われるが、削平・重複等のため特定することはできない。



第17図 島田IV遺跡出土遺物1



0 1 : 3 10cm

第18図 島田IV遺跡出土遺物 2

出土遺物観察表1

団体ナンバー	出土地区、層位	種別	成形	外面調整	内面調整	法量(cm)	底面
17-1	1号住居跡カマ ド焼土付近柱穴	土師器甕	ロクロ	ナデ、荒れ	不明		
17-2	1号住居跡カマ ド焼土付近柱穴	土師器甕	ロクロ	不明	不明		
17-3	9号住居跡カマ ド付近柱穴	須恵器甕	ロクロ	タタキ	ナデ	(底径 16.4cm)	
17-4	1号土坑	須恵器環	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	(口径 14cm)、器高 4.7cm、 底径 5cm	回転糸切り
17-5	1号土坑	須恵器甕	ロクロ	ケズリ	ロクロナデ	(底径 8.4cm)	
17-6	1号土坑	土師器甕	ロクロ	不明	不明	(口径 19.8cm)	
17-7	1号土坑	須恵器甕	ロクロ	タタキ	ナデ		
17-8	1号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ、 ハケメ	ロクロナデ		
17-9	2号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ、 ハケメ	ロクロナデ	(口径 20cm)	
17-10	2号土坑	土師器環	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	(口径 12.8cm)、器高 3.8cm、 底径 5.8cm	回転糸切り、底 面に墨書き「牧」 力
17-11	5号土坑、1層	須恵器環	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	口径 13.8cm、器高 4.4cm、 底径 6 cm	回転糸切りの後、 調整
17-12	5号土坑	土師器環	ロクロ	ロクロナデ	不明	(口径 14.8cm)、器高 3.7cm、 (底径 7.2cm)	
18-13	1号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ、 ハケメ	ロクロナデ、 ハケメ	(口径 22cm)	
18-14	5号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	(口径 11cm)	
18-15	5号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	(口径 14.8cm)	
18-16	5号土坑	土師器甕	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	(口径 15cm)	
18-17	6号土坑	土師器環	ロクロ	ロクロナデ	不明	口径 14.2cm、器高 4.3cm、 底径 5.2cm	回転糸切り
18-18	9号土坑	土師器環	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	口径 11.4cm、器高 4.3cm、 底径 6cm	回転糸切り、ヘ ラケズリ
18-19	5号溝	土師器環	ロクロ	不明	ロクロナデ	(口径 12.8cm)、 (器高 3.6cm)、 (底径 4.2cm)	回転糸切り

出土遺物観察表2

団体ナンバー	出土地区、層位	種別	法量(cm)	重量	備考
18-20	5号溝	二次加工ある剥片	長さ4.6cm、幅6.1cm、厚さ1.25cm	41.18g	
18-21	1号土坑	石甕	長さ4.6cm、幅3.9cm、厚さ1.8 cm	33.4 g	
18-22	5号土坑	台石	(長さ11.1cm)、(幅10.2cm)、(厚さ5.2cm)	806.32g	滑らかな擦り面が2面、側面に直線 状の擦り痕あり。

6 県営は場整備事業姉体地区

島田Ⅱ遺跡 (N E37-0079)

所在地：水沢市姉体字島田地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年4月22日～5月9日（9日間）

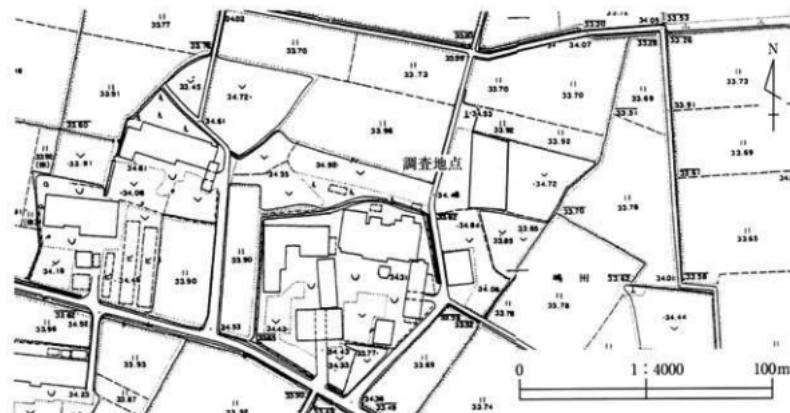
本遺跡はJR東北本線陸中折居駅の北東約2kmに位置し、胆沢扇状地の水沢段丘低位面に立地している。遺跡の調査地の標高は34m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。今回は前年度の試掘調査で遺構が検出された排水路・農道予定箇所を対象に発掘調査を実施した。

南東-北西方向の溝跡は、検出された遺構の中で最も新しい時期のものである。溝跡の上幅は120～140cmで断面形は逆台形状を呈していた。この溝跡の北側から更に南北方向の小規模な溝跡3条を検出した。溝跡のある箇所は柱穴状土坑群が分布しており、その中には径60cm前後の隅丸方形を呈し、柱痕跡の明確なものが含まれていた。また、径が小さな土坑でも、完形の内黒土師器が底面に置かれてあるものがあった。

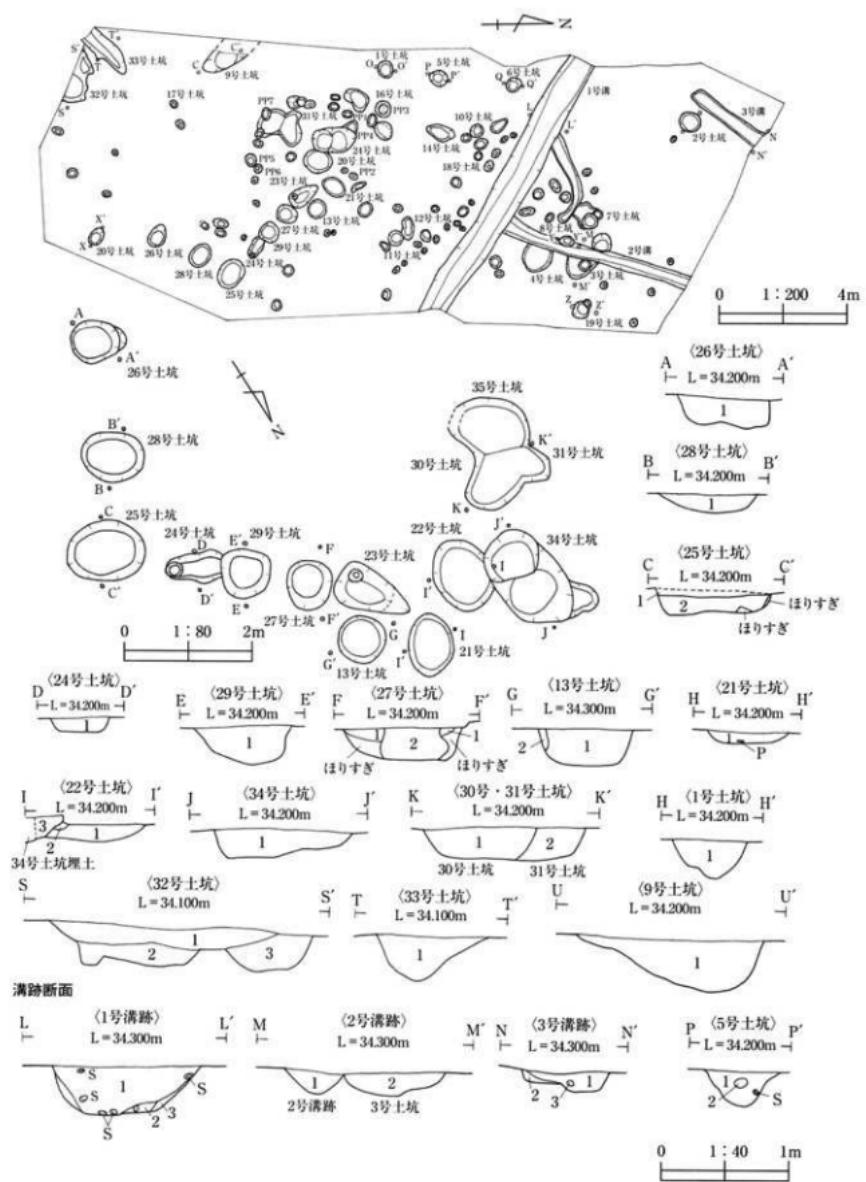
南東-北東方向の溝跡の南側からは、コの字状に並ぶ土坑群を14基検出している。平面形は円形ないし梢円形を呈しており、円形のものは直径70～100cm、梢円形のものは長軸が100～120cmである。深さは検出面から50cm前後で、底面はほぼ平坦である。土坑群の検出面及び埋土上部では、焼土・炭化物粒と土師器片が多量に含まれていたが、埋土下部では希薄であった。埋土上部は自然堆積、埋土下部については人為堆積と考えられる。この土坑群は、遺構の形状と埋土の状況から、平安時代前期頃の土坑墓群と推定される。西側の円形の土坑は、柱痕跡は明確ではないものの掘立柱建物跡を構成する柱穴群と推定される。土坑墓と推定される遺構を切る形で小規模な柱穴群が分布していたが、埋土中に土師器片が含まれていることから、いずれも平安時代前期頃の遺構と推定される。



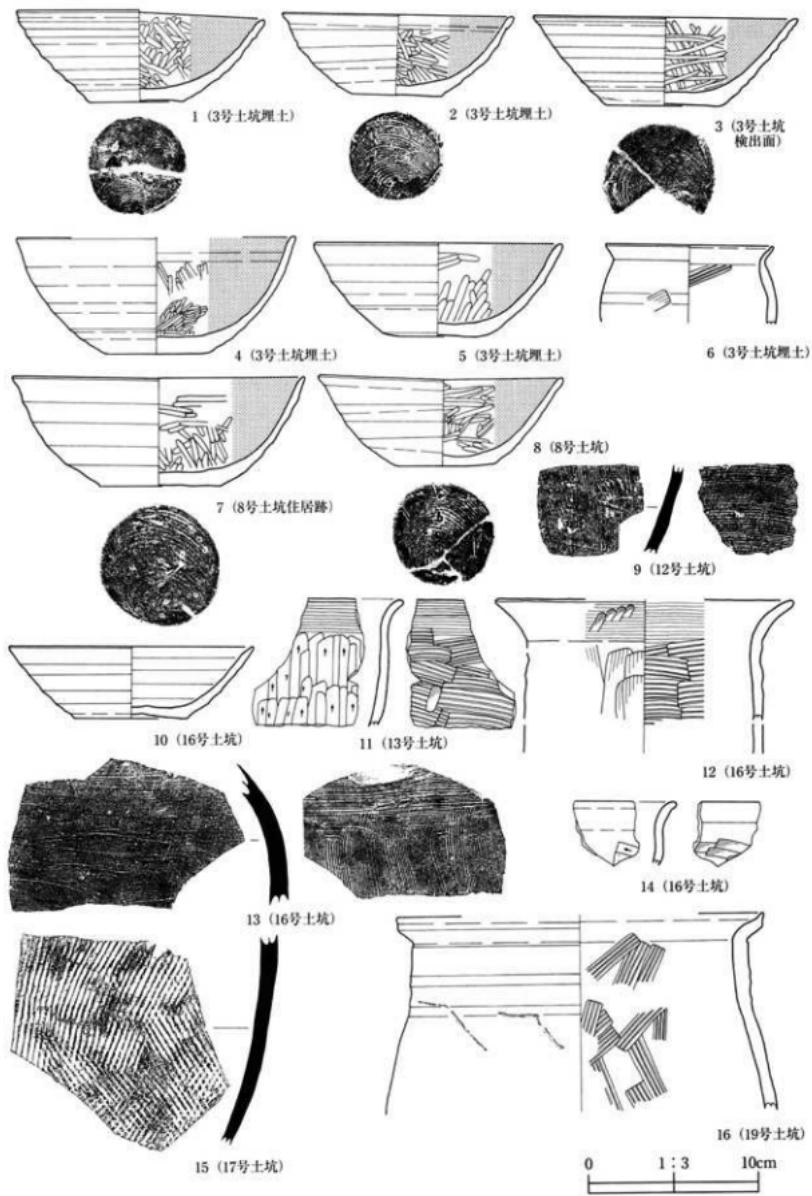
第19図 島田Ⅱ遺跡位置図



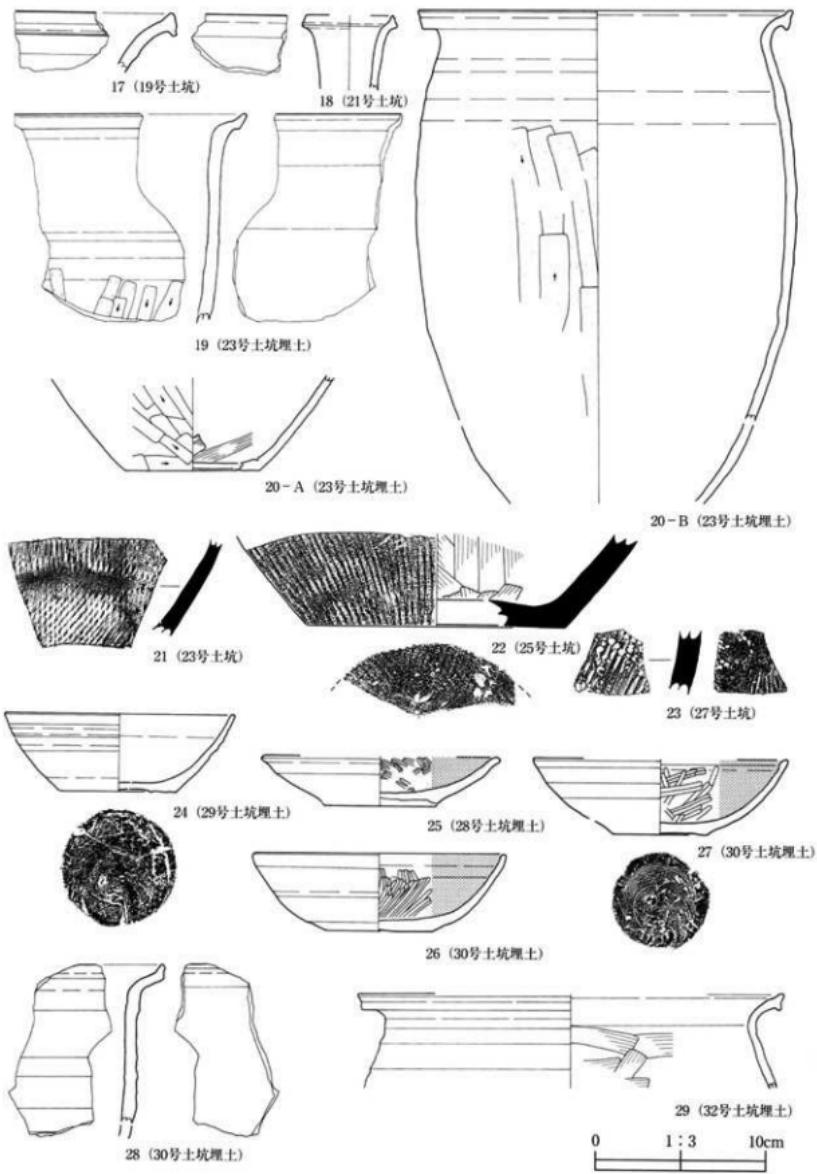
第20図 島田Ⅱ遺跡調査区位置図



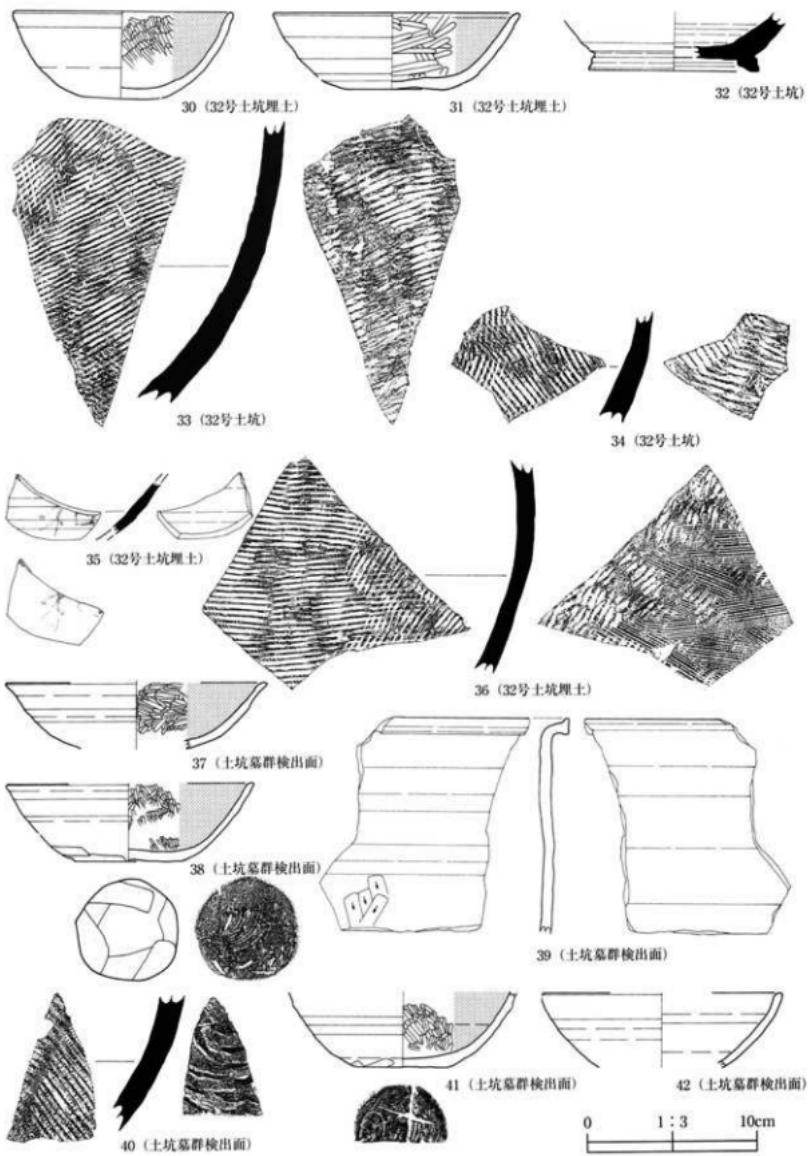
第21図 島田II遺跡遺構図



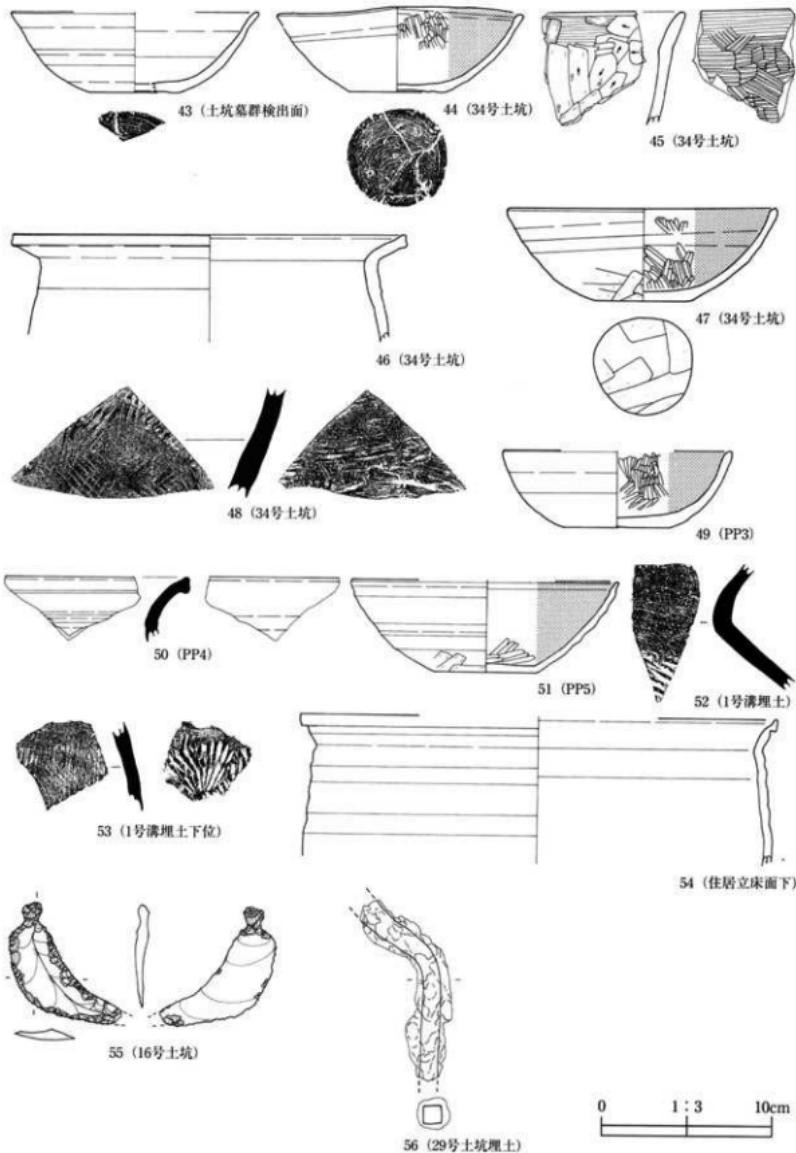
第22図 島田Ⅱ遺跡出土遺物1



第23図 島田II遺跡出土遺物2



第24図 島田II遺跡出土遺物 3



第25図 島田II遺跡出土遺物4

発掘調査・島田Ⅱ遺跡〔出土遺物観察表〕

番号	出土遺構	出土位置	器種	技法	外面調整	内面調整	法量(cm)			備考
							口径	器高	底径	
1	3号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	底面再調整	黒色処理、ミガキ	14.6	5.6	5.4	回転系切削
2	3号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	底面再調整	黒色処理、ミガキ	14.5	5.3	4.8	回転系切削
3	3号土坑	被出面	土師器壺	ロクロ	底面再調整	黒色処理、ミガキ	(15.6)	6.8	5.2	回転系切削
4	3号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ				回転系切削
5	3号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ				回転系切削
6	3号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	ヘラナデ	ハケメ	(9.8)			小型器
7	8号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ				回転系切削
8	8号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	底部再調整	黒色処理、ミガキ				回転系切削
9	12号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				
10	16号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ			(14.4)	4.2	6.6	回転系切削
11	16号土坑	埋土	土師器壺		ヘラナデ	ハケメ				東口縁部・側部
12	16号土坑	埋土	土師器壺		ヘラナデ	ハケメ	(17.6)			長胴壺口縁・側部
13	16号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板	(14.4)	6.6	4.2	
14	16号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	ヘラナデ	ハケメ				
15	17号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	ハラナデ				
16	19号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		ハケメ	(21.6)			輪積み痕あり
17	19号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ		ハラナデ				東口縁部
18	21号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ		(5.1)				長胴壺口縁・頭部
19	23号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	ヘラケズリ	ハラナデ				長胴壺口縁・頭部
20	23号土坑	埋土	土師器壺		ヘラケズリ	ハラナデ	(21.8)	(29.1)	(7.8)	長胴壺、底面ケズリ
21	29号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ		あて具板				直の可塑性もあり
22	25号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	ハラナデ、ヘラケズリ				大變底部
23	27号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	ハラナデ				須恵器口要
24	29号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		(13.3)	4.6	6.8		底面再調整
25	28号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	14.0	2.2	6.5	盤型、器厚 5.5mm
26	30号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	(14.6)	4.6	6.1	回転系切削
27	30号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	(15.0)	4.4	5.6	回転系切削
28	30号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ	ヘラナデ	ハラナデ				長胴壺口縁・頭部
29	32号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		ヘラナデ				大變口縁・頭部
30	32号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	12.7	5.15	4.5	底面再調整
31	32号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	(14.5)	4.5	5.5	回転系切削後、ナデ
32	32号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ						(10.0) 須恵器部底部
33	32号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				須恵器大變
34	32号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				須恵器口要
35	32号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ						外曲筋青・和
36	32号土坑	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				須恵器口要
37	土師片縫出面		土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	15.1	3.9	6.2	底面不明
38	土師片縫出面		土師器壺	ロクロ	底部ハラケズリ	黒色処理、ミガキ	(14.4)	4.6	6.1	回転系切削、ヘラケズリ
39	土師片縫出面		土師器壺	ロクロ	ヘラケズリ	ハラナデ				長胴壺口縁・頭部
40	土師片縫出面		須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				須恵器口要
41	土師片縫出面		土師器壺	ロクロ	底部ハラケズリ	黒色処理、ミガキ	(13.4)	(4.45)	(5.4)	回転系切削
42	1号坑縫出面		土師器壺	ロクロ			(7.1)	4.45		底部不明
43	30号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ			(14.4)	4.7	(5.3)	回転系切削
44	34号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	14.3	5.05	5.7	回転系切削
45	34号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ						
46	34号土坑	埋土	土師器壺	ロクロ						
47	1号坑縫出面		土師器壺	ロクロ	ヘラケズリ	黒色処理、ミガキ	15.7	5.5	5.6	底面ハラケズリ再調整
48	1号坑縫出面		須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				須恵器口要
49	P P 3	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ	(13.3)	4.5	(6.2)	
50	P P 4	埋土	須恵器壺	ロクロ						
51	P P 5	埋土	土師器壺	ロクロ		黒色処理、ミガキ				
52	1号通路	埋土	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				
53	1号通路	埋土下部	須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				
54	1号坑縫出面		須恵器壺	ロクロ	叩き具抜	あて具板				
55	16号土坑	石器	石器	石器						
56	29号土坑	埋土	鉄製品	鉄針?	画面はば方形、15×12cm					

〔上層住居〕

- 1号土坑 第1層 10YR3/3 帽褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。
- 1号土坑 第1層 10YR6/4 にじや黄褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。
- 3号土坑 第1層 10YR3/2 黑褐色色シルト、粘性なし、しまりあり。炭化物・焼土を粒状に含む。
- 5号土坑 第1層 10YR3/2 帽褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。黄褐色土を小ブロック状に含む。
- 9号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。
- 13号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。黄褐色土・焼土を少々含む。
- 21号土坑 第1層 10YR4/3 黄褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。黄褐色土・焼土を少々含む。
- 22号土坑 第1層 10YR2/2 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。黄褐色土・焼土を少々含む。
- 24号土坑 第1層 10YR3/3 黑褐色色シルト、しまりあり、やや粘性あり。焼土・炭化物を粒状に含む。
- 25号土坑 第1層 10YR2/2 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性ありやあり。炭化物・焼土・黒褐色土を少々ブロック状に含む。
- 26号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性ありやあり。焼土・焼土粒を含む。
- 27号土坑 第1層 10YR3/2 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。焼土・焼土粒を含む。
- 27号土坑 第2層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。焼土・焼土粒を含む。
- 27号土坑 第2層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。焼土・焼土粒を含む。
- 28号土坑 第1層 10YR3/2 黑褐色色シルト、しまりややあり、粘性ややあり。焼土小ブロックを多量に含む。上部は多少粘土。
- 29号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、やや粘性あり。焼土・炭化物を含む。褐色土・明褐土色ブロックを含む。
- 30号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性ややあり。褐色土を小ブロック状に含む。
- 31号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性ややあり。褐色土・炭化物を含む。
- 32号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性ややあり。褐色土を小ブロック状に含む。焼土・炭化物粉を少々含む。
- 32号土坑 第2層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりなし、やや粘性あり。褐色土小ブロックを多量に含む。
- 32号土坑 第2層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりなし、やや粘性あり。褐色土小ブロックを多量に含む。
- 33号土坑 第1層 10YR2/3 黑褐色色土質シルト、しまりあり、やや粘性あり。褐色土小ブロックを少々含む。
- 34号土坑 第1層 10YR3/2 黑褐色色土質シルト、しまりあり、粘性ややあり。褐色土・焼土粒を全体に含む。
- 1号溝 第1層 10YR3/2 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。焼成土を含む。
- 1号溝 第2層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、やや粘性あり。褐色土・焼土粒を少々含む。
- 2号溝 第1層 10YR4/6 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。褐色土を小ブロック状に含む。
- 3号溝 第1層 10YR2/3 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。褐色土を小ブロック状に含む。
- 3号溝 第2層 10YR3/2 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。褐色土を含む。
- 3号溝 第3層 10YR3/6 黑褐色色シルト、しまりあり、粘性なし。褐色土を含む。

7 県営は場整備事業跡地地区

根蕪遺跡 (NE37-0113)

所在地：水沢市真城字根蕪地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

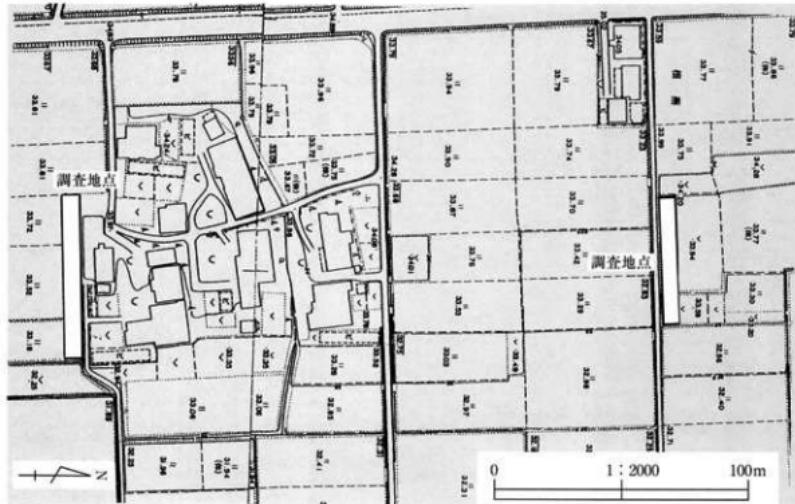
調査期日：平成14年5月20日～5月22日

本遺跡はJR東北本線水沢駅の南南東約4kmに位置し、胆沢扇状地の水沢段丘低位面に立地している。遺跡の調査地の標高は34m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、平成13年10月に実施した試掘調査において遺構が確認された支線道路（砂利敷道路）部分について、内容確認調査を実施したものである。調査対象区は支道22号と26号の一部で、便宜上前者を北側調査区、後者を南側調査区と呼称した。

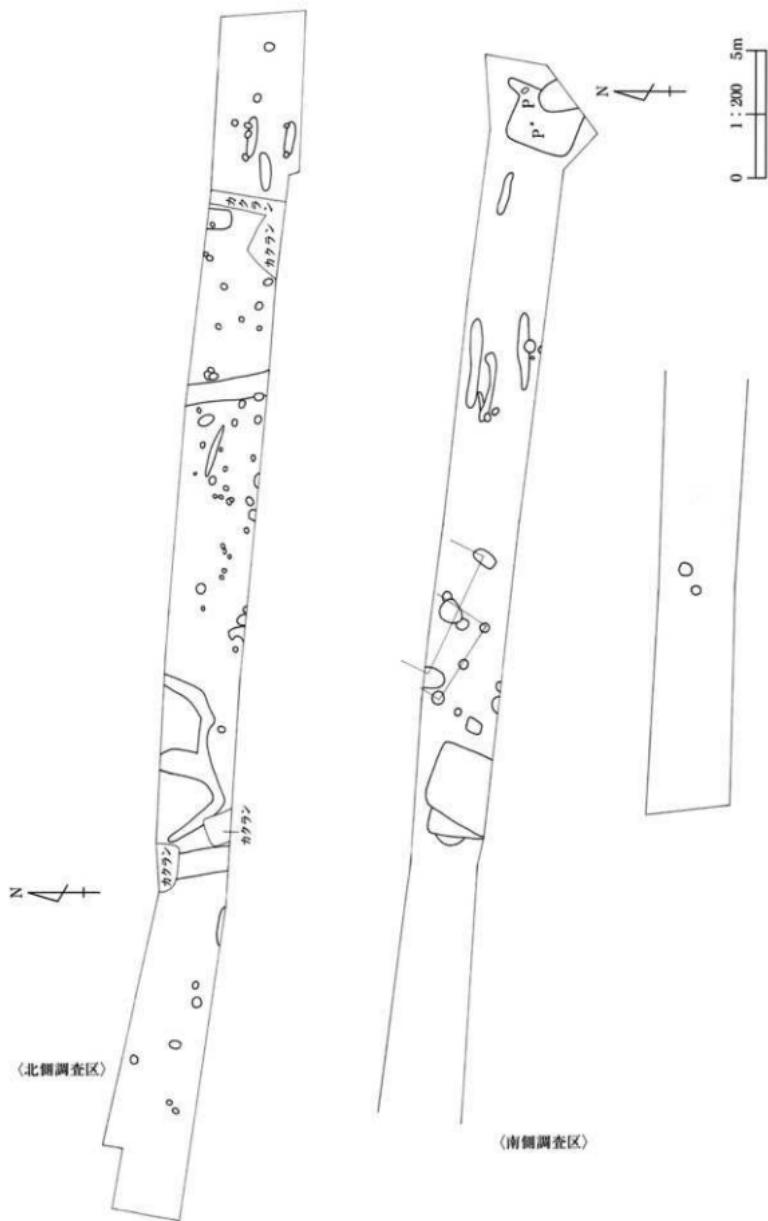
調査の結果、北側調査区からは、溝跡・柱穴状土坑・土坑・陥し穴状遺構が検出された。陥し穴状遺構は溝状を呈して、縄文時代の遺構と推定される。方形の土坑からは、土師器片が出土しており、古代の遺構と推定される。南側調査区からは、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・陥し穴状遺構・土坑・柱穴状土坑が検出された。竪穴住居跡は方形を呈すると推定され、規模は一辺が2.5m前後である。土師器・須恵器が出土していることから、平安時代前期の遺構と考えられる。掘立柱建物跡は2棟想定したが、うち1棟は抜き取り痕を有する大型の柱穴からなるが、規模等は調査区域外に統くため不明である。土坑・柱穴状土坑は時期が不明なものが多いが、土師器が出土しているものもあり、竪穴住居跡と同時期のものも数基含まれているようである。



第26図 根蕪遺跡位置図



第27図 根蕪遺跡調査区位置図



第28図 根茎遺跡遺構図

8 ほ場整備事業 姉体地区

水ノ口前東遺跡 (N E 27-2079)

所在地：水沢市字水ノ口地内

事業者：水沢地方振興局

水沢農村整備事務所

調査日程：平成14年3月11日～25日（11日間）

遺跡は、JR東日本東北本線水沢駅の南東約3kmに位置し、北上川右岸に接する沖積平野中の微高地に所在する。

遺跡付近の標高は36m前後であり、現況は畠地、水田、宅地である。

平成12年11月17日の試掘調査の際、水路屈曲部分予定地内で遺構が確認されたので、今回、発掘調査を実施することになった。調査面積は約35m²である。

基本層位は第1層；表土、耕作土、層厚は25cm、第2層；黄褐色土（地山）、層厚不明となっており、上面で遺構が確認された。

調査の結果、竪穴状遺構1基が発見された。平面は不整形で、中央部が膨らみ、両脇に張り出しが付き、中央部が最も深くなっている。規模は長径4.8m、短径3.5m、深さ0.3mである。長軸は北西、南東方向を向いている。壁は緩やかに立ち上がっている。カマドはなく、床面にも柱穴、ピット等はなかった。埋土は7層に細分され、レンズ状堆積をしており、須恵器甕、土師器甕、擦り石、土鍤が出土している。発掘時、埋土を平面的に4分割して取り上げた。出土した壙から9世紀前半から中頃のものと考えられる。

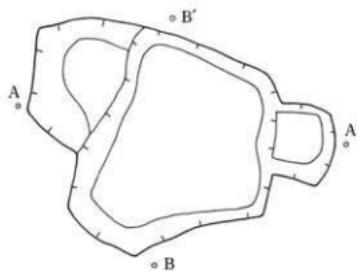


第29図 水ノ口前東遺跡位置図



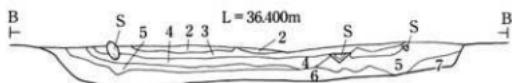
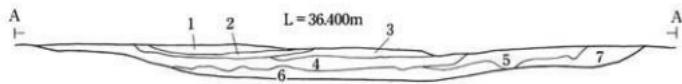
第30図 水ノ口前東遺跡調査区位置図

水
路



1号堅穴状遺構

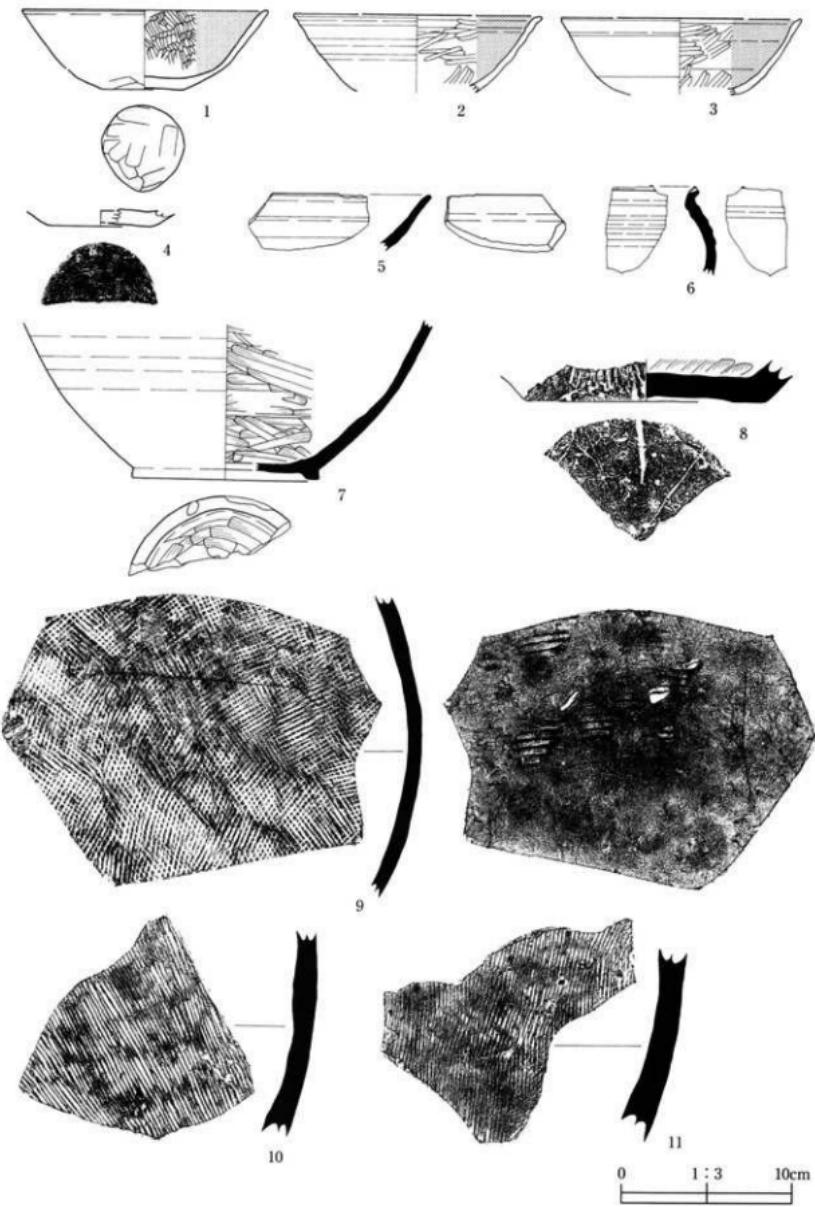
0 1 : 80 2m



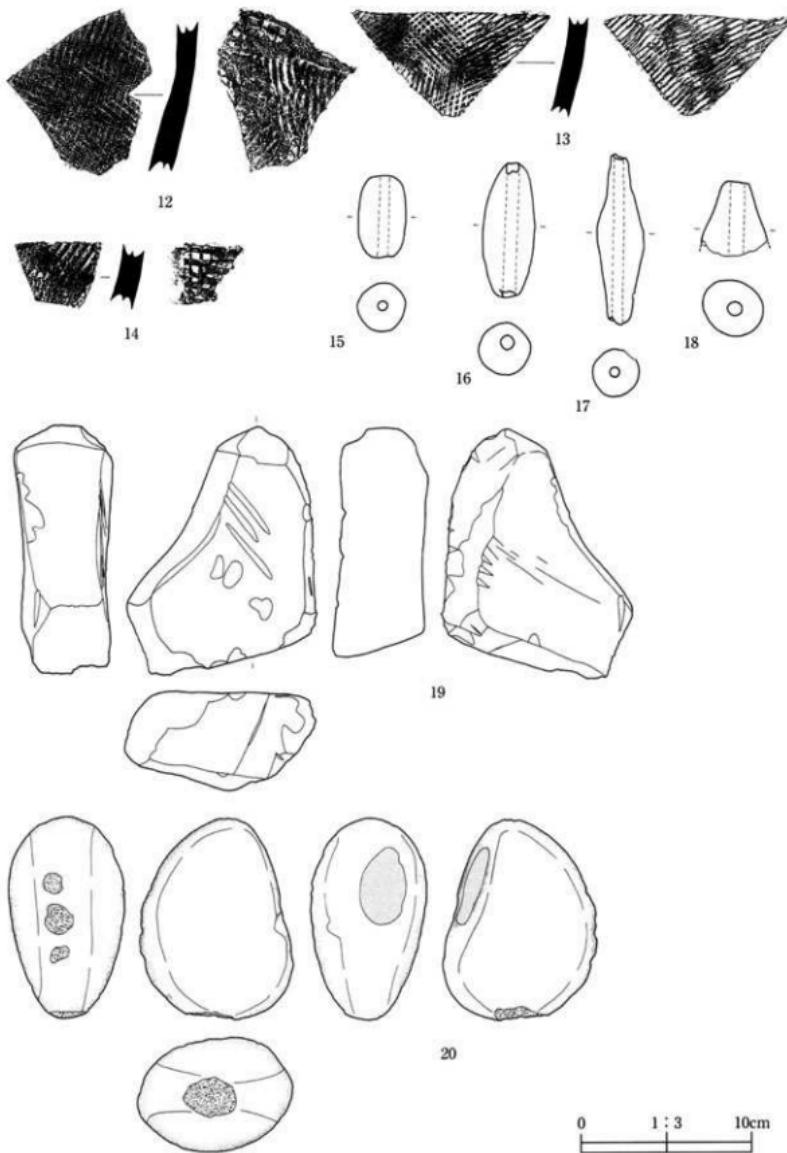
- 1 10Y32/3. 黒褐色。粘性シルト。しまり強。粘性中。褐色・赤色粒子を多く含む。
- 2 10Y21/7. 黒色。しまり強。粘性強。
- 3 10Y32/4. 黒褐色。しまり強。粘性強。粘性シルト。無化鉄を含む。
- 4 10Y35/1. 褐褐色。粘土。粘性強。しまり強。部分的に砂が多い場所がある。細密な粘土である。
- 5 10Y34/3. 褐褐色灰。粘土。粘性強。しまり強。0cm 粘化鉄を多く含まれる。
- 6 10Y34/4. 黒褐色灰。粘土。粘性強。しまり強。0cm 粘化鉄を多く含まれる。
- 7 10Y37/6. 明黄褐色が主体。無化鉄が多い。
- 8 10Y33/1. 黑褐色が主体。粘性強。しまり強。6層より全体的に黄色い。粘土。
- 9 10Y36/1. 黑褐色。赤質粘土。粘性強。しまり弱。無化鉄多い。

0 1 : 40 1m

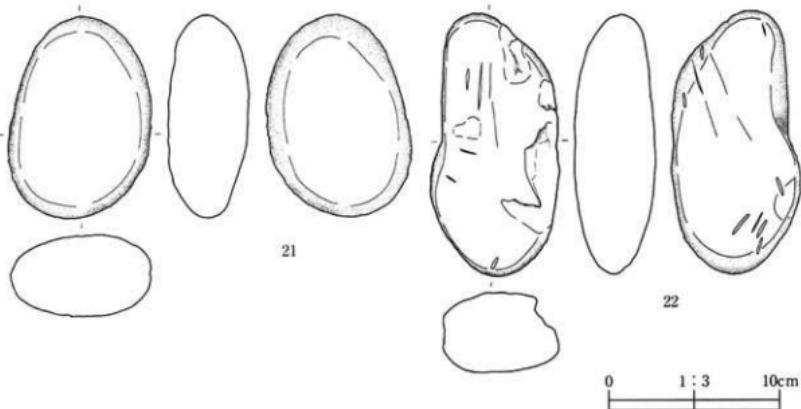
第31図 水ノ口前東遺跡遺構図



第32図 水ノ口前東遺跡出土遺物 1



第33図 水ノ口前東遺跡出土遺物 2



第34図 水ノ口前東遺跡出土遺物 3

水ノ口前東遺跡出土遺物観察表 1

図版ナンバー	出土地区、層位	種別	成形	外面調整	内部調整	法量(cm)	底面
33-1	北東、2層	土師器、环	ロクロ	ロクロナデ	ヘラミガキ、内里 (口縁14.2)、底径4.7、 器高4.7	回転糸切り、再調整	
33-2	南西、埋土上部	土師器、环	ロクロ	ロクロナデ	ヘラミガキ、内里 (口縁14.6)	—	
33-3	南ベルト、埋土中	土師器、环	ロクロ	ロクロナデ	ヘラミガキ、内里 (口縁14)	—	
33-4	南東、埋土上部	土師器、环	ロクロ	—	—	(底径6)	回転糸切り
33-5	南東、4層	須恵器、环	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
33-6	南ベルト、埋土中	須恵器、甕	ロクロ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
33-7	北東、2層	須恵器、壺	ロクロ	ロクロナデ	横ナデ	(底径10.8)	ナデ
33-8	南東、2層	須恵器、甕	—	タタキ	粗いナデ	(底径14)	—
33-9	南東、2層	須恵器、甕	—	タタキ	一部タタキ	—	—
33-10	北西、2層	須恵器、甕	—	タタキ	オサエ	—	—
33-11	北西、2層	須恵器、甕	—	タタキ	—	—	—
33-12	北西、2層	須恵器、甕	—	タタキ	タタキ	—	—
33-13	北東、2層	須恵器、甕	—	タタキ	タタキ	—	—
33-14	北東、2層	須恵器、甕	—	タタキ	タタキ	—	—

水ノ口前東遺跡出土遺物観察表 2

図版ナンバー	出土地区、層位	種別	長さ	幅	厚さ	特徴
33-15	南西、埋土上部	土錐	3.2	1.9	1.9	
33-16	南東、4層	土錐	5.3	2.0	2.0	
33-17	北東、4層	土錐	6.6	1.8	1.8	両端一部欠損
33-18	南ベルト、埋土中	土錐	(2.9)	(2.6)	(2.6)	欠損している。
33-19	南東、2層	砥石	14.2	11.2	5.5	6面のスリ面あり
33-20	北西、埋土上部	スリ石	11.8	6.7	6.5	側面に4.5×2.7cmのスリ面あり
33-21	北西、埋土上部	スリ石	11.9	8.3	4.7	
33-22	西ベルト、埋土中	砥石	15.4	7.6	4.7	

9 県営ほ場整備事業跡地地区

寺ヶ前II遺跡（NE37-0072）

所在地：水沢市真城字寺ヶ前地内

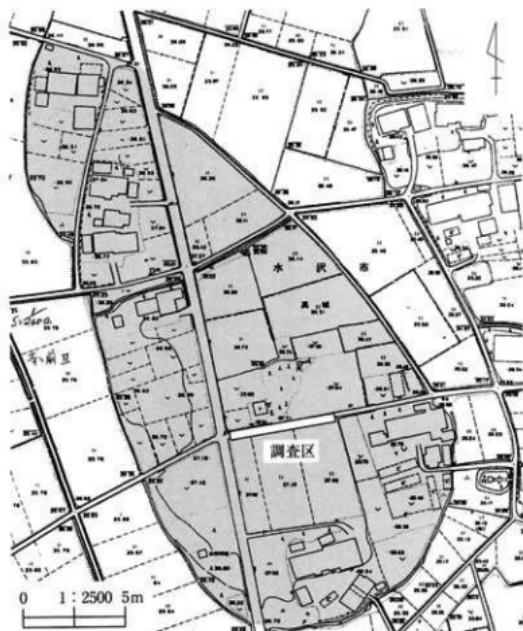
事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年3月11日～3月25日（6日間）

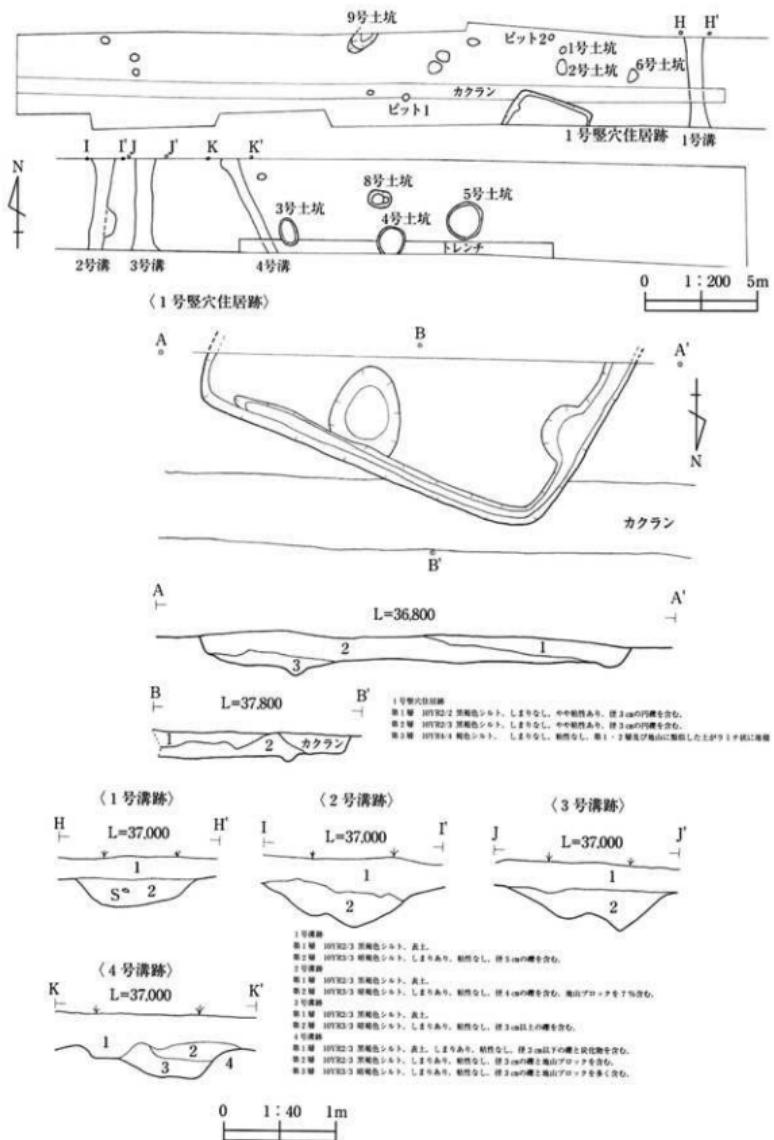
本遺跡はJR東北本線陸中折居駅の北東約1.6kmに位置し、胆沢扇状地の水沢段丘低位面に立地している。遺跡の調査地の標高は35～37mを測り、現況は水田・畑地・宅地等となっている。今回の調査はほ場整備事業に伴う農道（舗装道路）建設が予定されている箇所である。平成12年11月の試掘調査結果から遺構の存在が確認されていた。なお、調査区北側の既設水管管の箇所については、調査区から除外し調査面積は約252m²となった。調査区西にはコンクリートト畦畔があり擾乱を受けていた。

調査の結果、竪穴住居跡1棟、土坑9基、柱穴状小土坑2基、溝跡4条を検出した。遺構は調査区中央付近に多く分布し、調査区両端に近づく程遺構が少なくなる傾向があった。竪穴住居跡は調査区に一部がかかる形で検出された。一辺は約3mであり、壁際に周溝を伴い、内部に浅い土坑も存在した。壁高は20～30cm

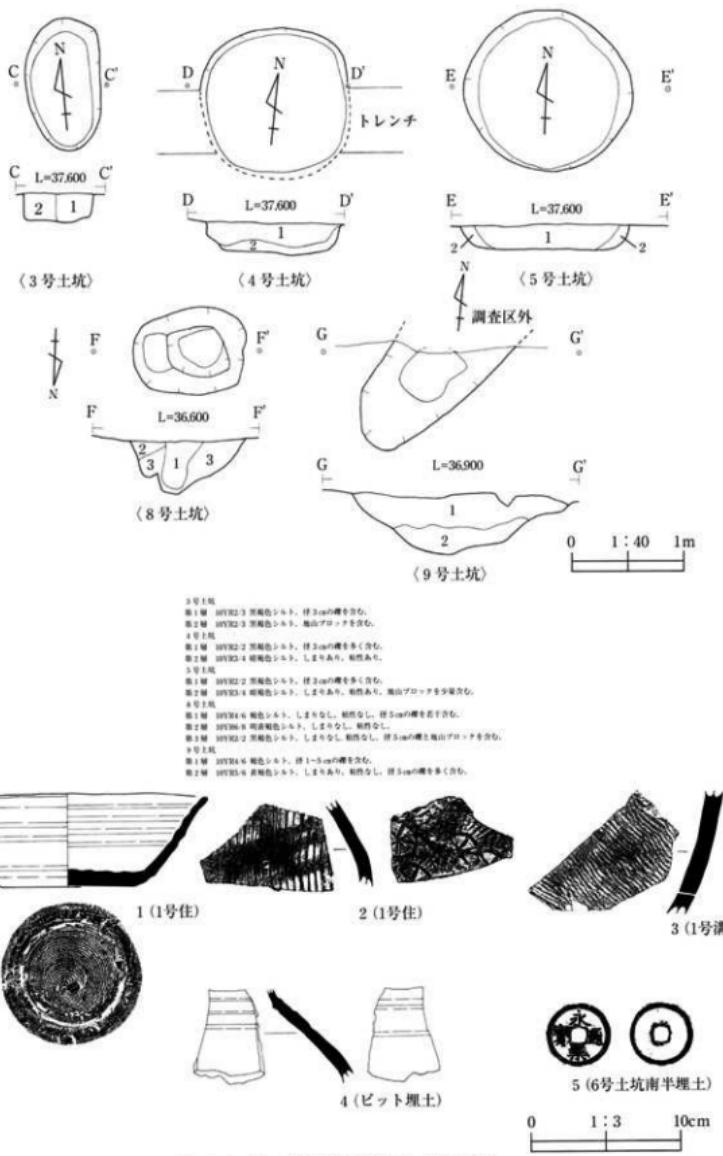
で、遺構上部は削平を受けていると推測された。埋土は3層に分かれるが、出土遺物は土師器壺が1片のみであった。9基の土坑のうち、4号・9号土坑以外は完掘することができた。7号土坑は2号溝に切られしており、全体形は不明である。その他の土坑は径が0.4～1.8mのものであるが、径1m前後のもののが多かった。年代・用途等は不明である。深さも0.1～0.4m程度の深いものであった。土坑のうち、2号土坑の埋土には焼土が含まれていた。6号土坑は深さが8cmと浅いものであったが永楽通寶（ビタ錢）1枚が出土している。柱穴状のピットからは須恵器片が出土しており、平安時代の竪穴住居跡等の柱穴の可能性が考えられる。



第36図 寺ヶ前II遺跡調査区位置図



第37図 寺ヶ前II遺跡遺構図



第38図 寺ヶ前II遺跡遺構図・出土遺物

10 ほ場整備事業寺領小林地区間連調査

九郎館跡（N E46-0222）確認調査

所在地：前沢町古城字南上野

事業者：水沢地方振興局農政部

調査日：平成14年5月13日（1日間）

遺跡は、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘である胆沢段丘の東の縁部にあたり、北側には明後沢川が東流している。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い昨年度試掘調査で遺構が確認されている農道建設予定箇所が対象である。岩手県教育委員会編『岩手県中世城館跡分布調査報告書』p.165（1986）によると、「…標高約70mの平坦な本丸が主体を占め、…。本丸西縁部には土塁痕跡が残る。…」とあるが、今回の調査区は、本丸西縁部の土塁痕跡よりさらに西側にある現農道脇の水田である。

調査区の層序であるが、第Ⅰ層現耕作土、第Ⅱ層黒色粘土質シルト、第Ⅲ層は地山である褐色ローム層となっている。第Ⅰ層及び第Ⅱ層からは、遺構及び遺物が確認されなかったため、掘り下げるに第Ⅲ層上面で径20cm大の柱穴状土坑10基、溝3条が検出された。今回の調査では、遺物を確認することができなかったために、柱穴状土坑の性格及び明確な構築時期を確定することは困難ではあるが、平成13年度の試掘調査時で、柱穴状土坑群の1基から縄文時代の剥片石器が出土している。

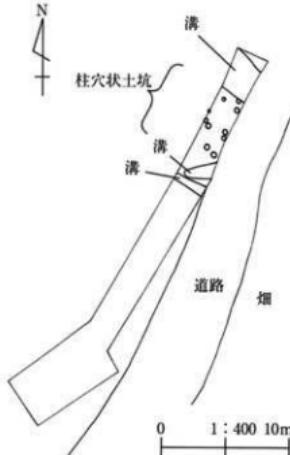
溝3条の構築時期及び性格についても、遺構と結びつく遺物が確認できなかったため不明である。



第39図 九郎館跡位置図



第40図 九郎館跡調査区位置図遺構図



11 ほ場整備事業寺領小林地区関連調査

寺ノ上遺跡（NE46-0242）確認調査

所在地：前沢町古城字南上野

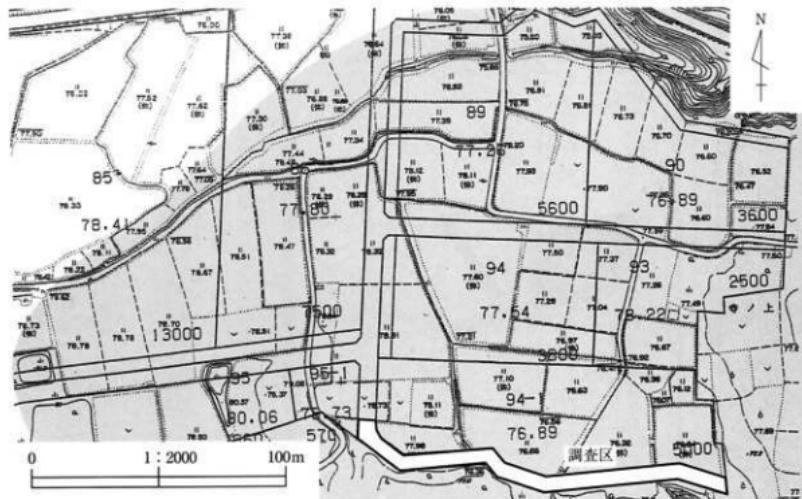
事業者：水沢地方振興局農政部

調査期日：平成14年5月14～16日（2日間）

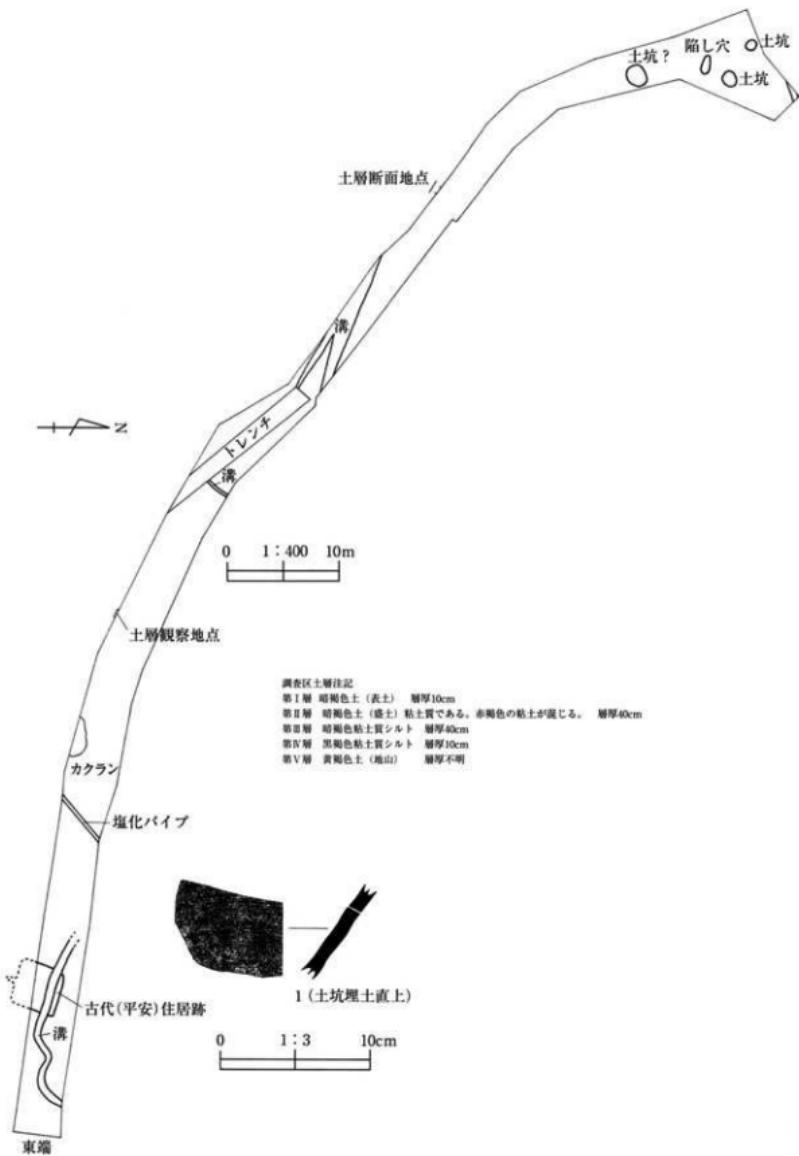
遺跡は、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘である胆沢段丘の縁辺部にあり、標高は77～79m前後を測る。現況は、主に水田と畑地となっており、遺跡の東には寺ノ上経塚遺跡と隣接している。今回の調査は、ほ場整備事業に伴う農道設置箇所が対象であり、昨年度に実施された試掘調査の結果を受けての確認調査である。調査区全体の地形は、西側から東側にかけて緩やかに傾斜している。調査区の西端部では、径90～120cmの大土坑3基、300×180cmの規模を持つ階下穴状造構1基が検出されている。今回の調査では遺物は確認できなかったが、試掘調査時に土坑の埋土から繩文土器が出土していることから、同時期に構築されたものと伺える。調査区中央部では溝2条が検出されているが、遺物等が確認されていないため、遺構の性格及び時期は不明である。調査区東側では、かく乱を受けた箇所がいくつかあったが、住居跡1棟、溝1条が検出された。住居跡は約4mの規模で、その埋土上面に須恵器片が含まれていた。また、その埋土には、2cmの大焼土ブロックと炭化物粒がかなりの量が混じっていた。



第41図 寺の上遺跡位置図



第42図 寺ノ上遺跡調査区位置図



第43図 寺ノ上遺跡遺構図・出土遺物

12 ほ場整備事業施設上野地区関連調査

明後沢遺跡群 (N E 36-2175)

所在地：胆沢郡前沢町古城施設上野地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年6月18日～19日（2日間）

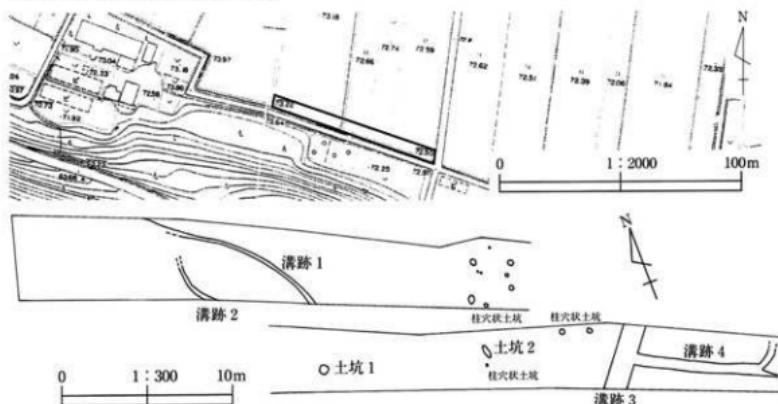
遺跡は、JR東日本東北本線陸中折居駅の南西約1kmに位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地している。調査区域の標高は73m前後を測り、現況は水田及び農道である。

今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、平成14年10月に試掘調査を実施したところ、遺構が確認された砂利敷きの支線道路になる部分について遺構内容の確認調査を実施した。確認調査面積は約420m²で、調査区の基本層序は以下のとおりである。第1層：表土（耕作土）25～40cm、第2層：暗褐色土20～80cm、第3層：褐色土0～30cm、第4層：黄褐色～にぶい黄褐色土（地山）層厚不明。

調査の結果、調査区の西側と東端で溝跡が4条、中央部付近と東側で柱穴状土坑13基、中央部からやや東側に寄った地点で土坑が2基検出された。調査区西側で検出された2条の溝跡は幅が20cm前後で、深さは15cmほどである。東端の溝跡は、東西方向に延びる溝が幅60cm、長さ7.5mで、南北方向に延びる溝跡とほぼ直角に交わっている。この溝跡の東側は、2つに枝分かれし、調査区域外に続く。東西方向に延びる溝跡は幅130cmほどで、調査区域外に続くことから詳細は不明である。柱穴状土坑は径が15～30cmで、柱痕は確認されなかった。土坑は楕円形を呈し、規模は中央部付近のものが50×60cm、東寄りで検出されたものが30×90cmである。これらの遺構及び今回調査した区域からは遺物が出土せず、構築時期を特定することはできなかった。今回の調査区は、南側が沢に向かって落ち込む部分であることから遺跡の端にあたり、遺跡の中心は今回の調査区の北東側と推定される。



第44図 明後沢遺跡群位置図



第45図 明後沢遺跡群調査区位置図・遺構配置図

13 ほ場整備事業満倉地区関連調査

中半入遺跡 (N E 15-0264)

所在地：水沢市佐倉河字半入地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年5月27日～28日

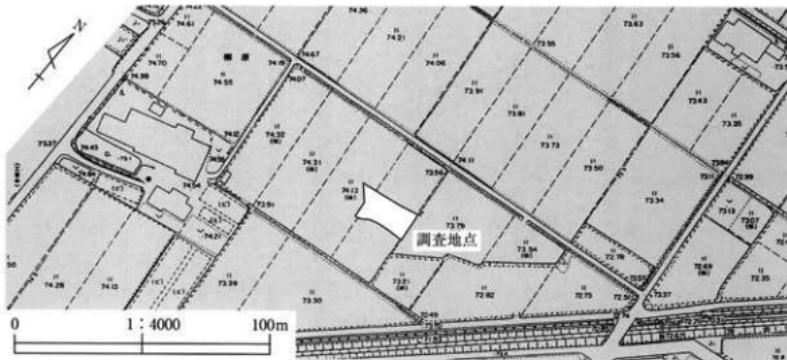
本遺跡は、JR東北本線水沢駅の北西約6kmにあって、胆沢扇状地の北端、東流する胆沢川南側の水沢段丘低位面に立地する。現況はそのほとんどが水田であるが、遺跡内には、敷地の周辺に立木を巡らした住居が点在し、この形態は散居集落と呼ばれている。遺跡の標高は72.5～78m前後で、今回の調査区は遺跡の南端部にあたり、その地点の標高はおよそ74mである。

今回の調査は、昨年度実施した試掘の際にT79において確認された、溝跡2条の記録保存を目的として実施した。対象面積は約210m²である。調査区域内の基本層序は、第1層が耕作土で層厚20cm前後、第2層が水田床土で層厚10cm、第3層が層厚25cmほどの暗褐色土層で遺構検出面となる層、第4層が灰黄褐色土で層厚20～25cm、第5層が暗褐色土で層厚25cm、第6層は砂層である。

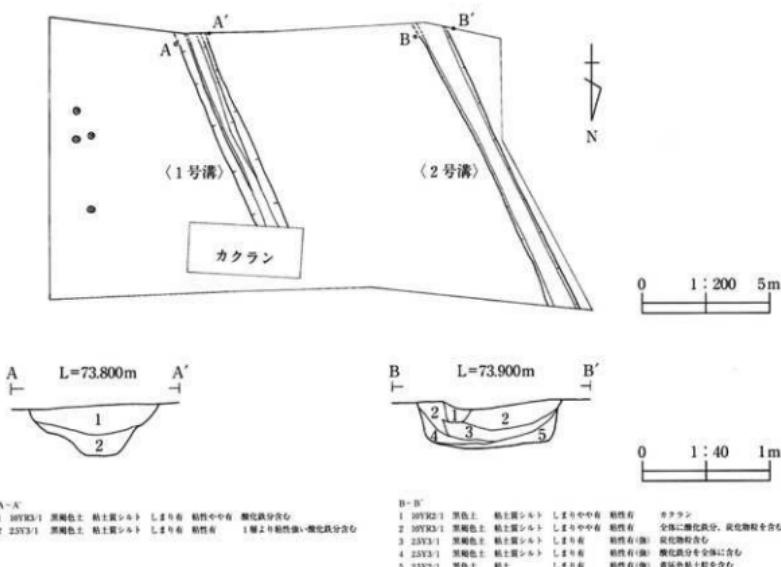
調査の結果、2条の溝跡は北西～南東方向に並行して延びていることが確認された。これらの軸方向は、南北方向から20～25°ほど西側に振れている。1号溝は、上幅1.0～1.2m、下幅35～55cmの規模を有し、深さは50～65cm、精査した長さは8.5mである。断面形はU字状で、壁の両側にわずかな段がみられた。埋土は黒褐色土からなるが、粘性の違いから二つに分層され、下層には酸化鉄を含んでいた。2号溝では、上幅0.75～1.1m、下幅55～70cm、深さは30～35cm前後、精査した長さは12.5mである。断面形は逆台形状を呈し、埋土は5層に分層される。それは、黒色土と黒褐色土を基調とするが、3層黒褐色土中には炭化物が、5層黒色土中には黄灰色土粒が含まれていた。なお、1号溝・2号溝のいずれにも、灰白色火山灰の混入は認められなかった。



第46図 中半入遺跡位置図



第47図 中半入遺跡調査区位置図



第48図 中半入遺跡遺構図

遺物は、1号溝の埋土下位から $4.0 \times 1.5\text{cm}$ ほどの動物遺存体（獣骨片か）が1点出土したのみである。いずれの溝跡からも土器等は出土しておらず、時期を特定することはできない。なお、その遺存体については鑑定を受けておらず、種・部位等は不明である。

この2条の溝跡の性格については、時期を特定できる遺物が出土しない等、調査から得られた情報が少なく、詳細を明らかにすることはできなかった。前回の試掘調査報告では、水田耕作に関わる水路との推測がなされているが、本調査を終えてもそれ以上のことには言及できることとなった。ただし、二つの溝跡の断面形状・埋土の堆積状況の違いから、両者には時期差がある可能性は高いと思われた。

なお、今回の調査において、調査区東側に新たに柱穴状の小土坑が4個検出されている。いずれも、平面形は円形で、直径は20~30cm、深さは30~40cmである。これらの時期・性格については不明である。

14 ほ場整備事業猫川左岸地区

林崎館跡 (MF 66-2134)

所在地：遠野市上郷町地内

事業者：遠野地方振興局

遠野農村整備事務所

調査期日：平成14年5月14日、15日（2日間）

遺跡は、JR東日本釜石線遠野駅の南東約8kmに位置し、早瀬川右岸の沖積平野に接する丘陵端部に立地している。現況は山林、畑地、水田、宅地である。

今回の発掘調査は、ほ場整備事業に伴うもので昨年度の試掘調査の結果、水路予定箇所で遺構が確認された範囲の発掘調査を行った。調査面積は約60m²である。

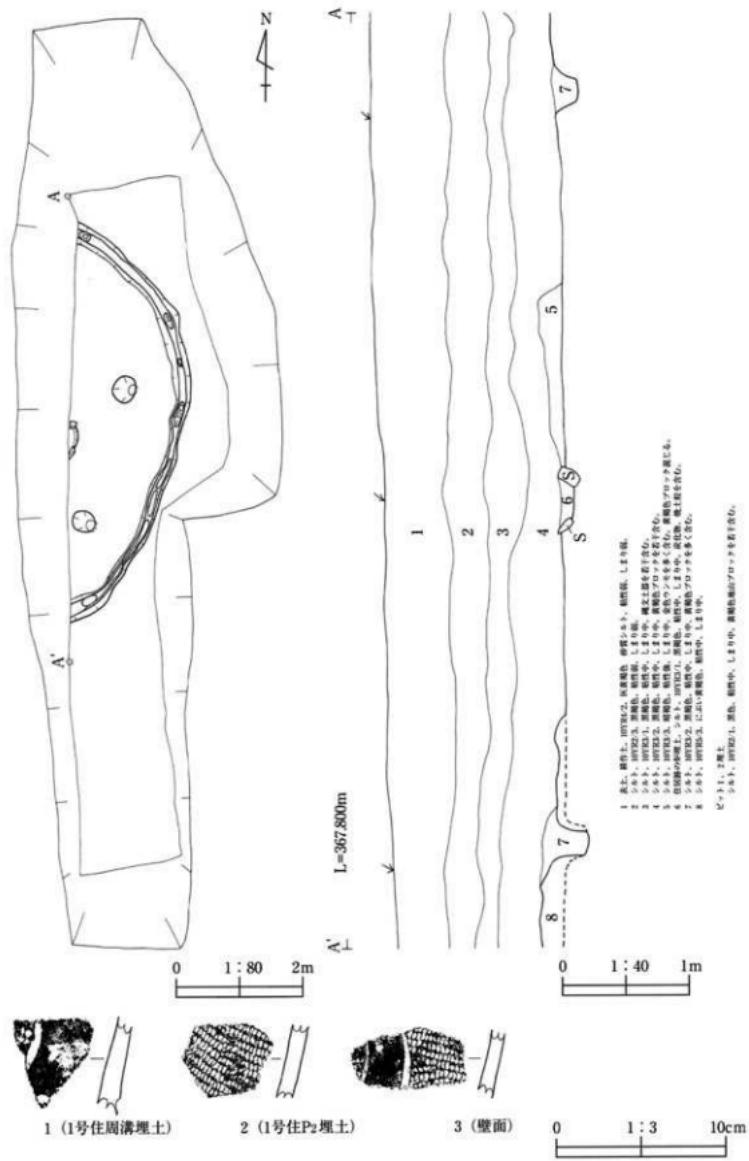
調査の結果、調査区中央で竪穴住居跡1棟が検出された。住居跡は6層上面で確認された。過去に削平を受けており、遺構埋土は石窯炉内部でのみ残存していた。西側半分以上は調査区外に延びている。形状は円形、直径は6m程で、0.2~0.3m幅の周溝の内部にピット2基、中央に1辺0.5mの石窯炉1基が確認されている。ピット2基は配置から柱穴になるものと考えられ、直径0.4mで深さは0.5~0.7mである。遺物は柱穴、周溝埋土、基本層位から若干の土器片が出土し、縄文時代中期のものと判断された。



第49図 林崎館跡位置図



第50図 林崎館跡調査区位置図



第51図 林崎館跡遺構図・出土遺物

15 土地改良総合整備事業伊手西部地区関連調査

大中田遺跡 (N F 00-2003)

所在地：江刺市伊手地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年6月25日～26日

本遺跡は、JR東北新幹線水沢江刺駅の東北東約9.0kmに位置し、伊手川左岸に突き出した丘陵の東向き緩斜面に立地する。標高は140～150m前後を測り、今回の調査区のそれはおよそ151.5mである。現在は、遺跡のほとんどが水田・畑地として利用されている。

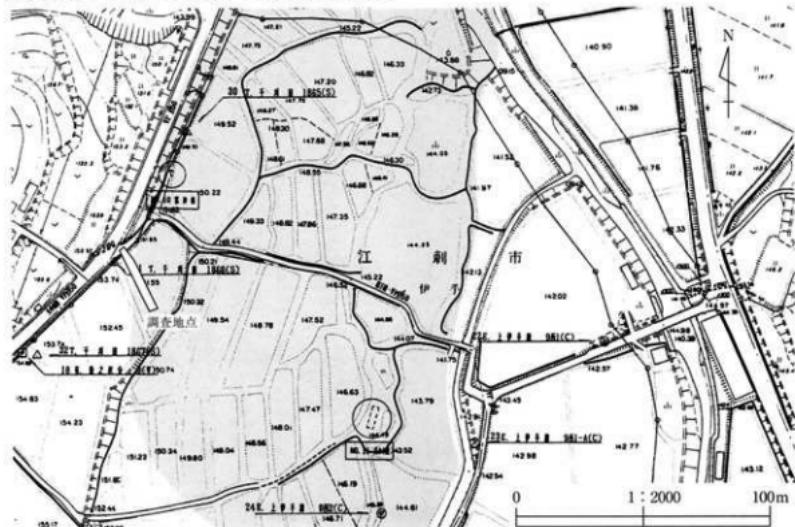
今回の調査は、平成13年10月に実施した試掘調査を受けて、砂利敷きとなる農道建設箇所について、遺構確認調査を行った。対象面積は約150m²である。

調査区内の基本層序は、第1層が盛土（畦畔）で層厚20cm、第2層が水田耕作土で層厚30cm、第3層が黄褐色土粒をまばらに含む黒色土で、縄文時代の遺物を包含する層厚5～10cmの層、第4層が層厚10cm前後の褐色土層（漸移層）、第5層が大小の礫を含む黄褐色土の地山である。

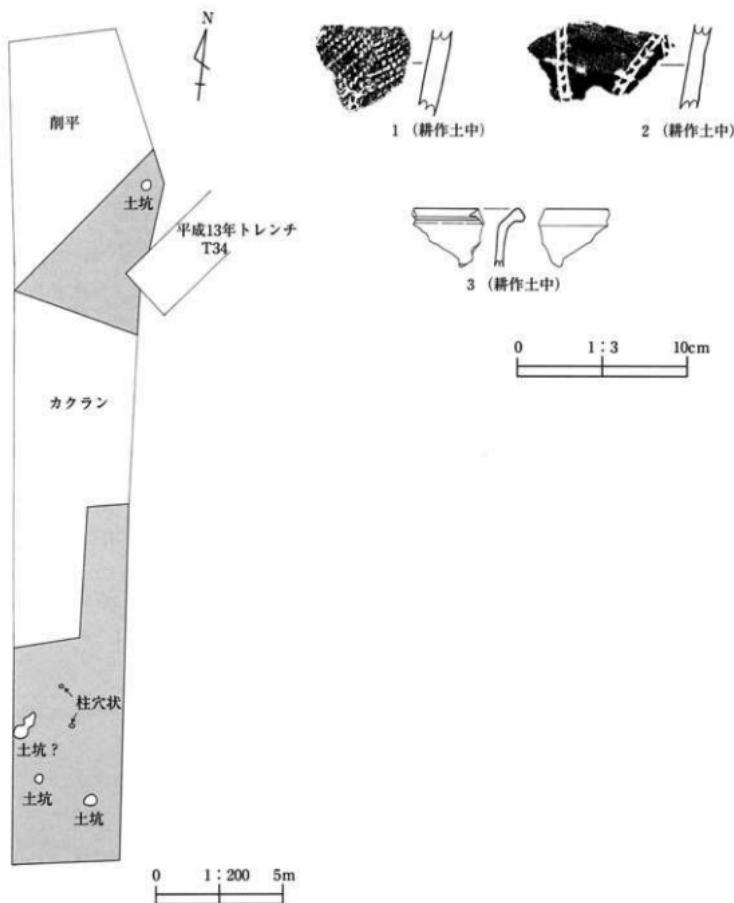
調査の結果確認された遺構は、円形の土抗3基、不整形の土抗1基、柱穴状の小土抗が2基であった。円形土抗1基を除いては、いずれも調査区南端部の第3層が比較的厚く残る部分において検出された。検出面は第4層上面である。円形土抗の規模は直径35～50cm前後、不整形の土抗は平面形がひょうたん形で、長さは1.2m、幅は20～50cmほどである。柱穴状の土抗は2基とも直径20cmあまりである。これら検出された遺構の所属時期・性格については、いずれも明確でない。



第52図 大中田遺跡位置図



第53図 大中田遺跡調査区位置図



第54図 大中田遺跡遺構図・出土遺物

なお、第54図に示したように、調査区北側および中央部では、かつての水田造成による掘削が地山まで及んでおり、遺構は全く確認できなかった。

遺物は、縄文時代前・中期の土器片が十点あまりと土師器壺の口縁部片が1点、第2層から出土したのみである。2は竹管の押し引きによる文様が観察される土器片である。

今年度この大中田遺跡は、河川改修に伴う緊急発掘調査が(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって行われ、遺跡の北西端、伊手川に張り出す丘陵先端部が縄文時代中期の集落跡となっていたことが明らかにされた。

16 煙地帯総合整備事業盛岡整備地区関連調査

月ヶ森II遺跡（L E 45-1210）

所在地：矢巾町大字煙山字和味地内

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日：平成14年3月1日、6日（試掘調査）

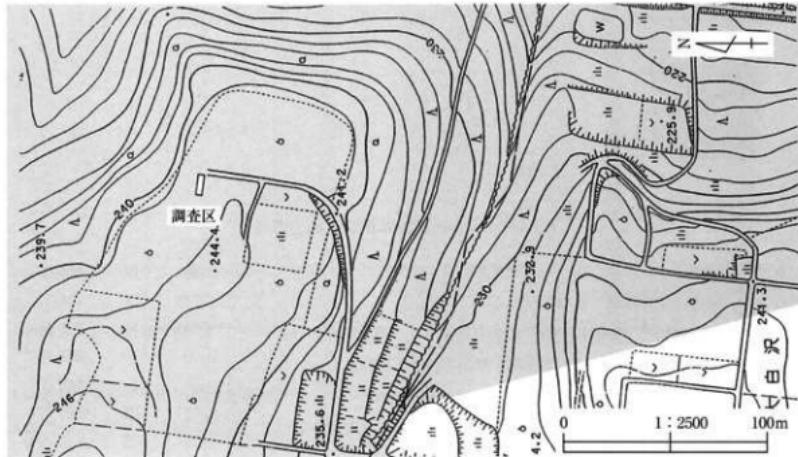
平成14年7月1日（発掘調査）

遺跡は、JR東日本東北本線矢幡駅の西約4.6kmに位置し、金岱山から延びる尾根の南向き緩斜面に立地している。遺跡の標高は、200m前後を測り、現況は果樹園及び畠地が主である。調査は、煙地帯総合整備事業に伴う配水管設置箇所及び給水栓設置箇所が対象であり、平成13年度に試掘調査、14年度には給水栓設置箇所の試掘調査及び発掘調査を実施した。精査の結果、平成13年度調査では、竪穴住居跡6棟、ピット類3基、陥し穴1基、柱穴状土坑1基が検出され、住居跡の埋土から縄文時代前期～中期の土器が出土していることから、遺構の構築時期は同時期であると考えられる。平成14年度の試掘調査では住居跡3棟、ピット類4基が検出され、そのうち発掘調査の対象となったのは、ピット類1基であった。

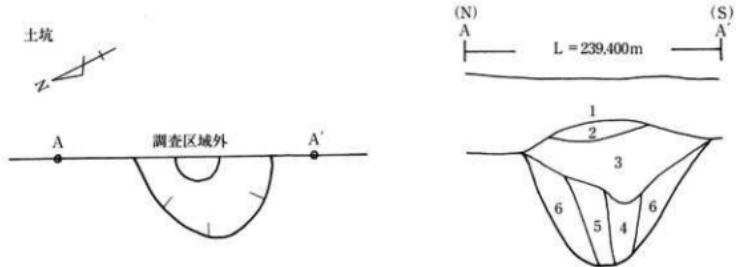
ピットの平面形は円形で、その規模は径70cm、深さ60cm程度断面形は、やや不整形なビーカー状を呈している。その埋土には、炭化物粒及び焼土粒を含むなど、人為的に埋め戻された形跡がみられた。出土した土器は、縄文時代中期のものであることから、このピットの構築時期も縄文時代中期の遺構であると判断できる。また、試掘調査時で検出された焼土を伴う竪穴住居跡の上面は、耕作時と思われる削平を受けていた。



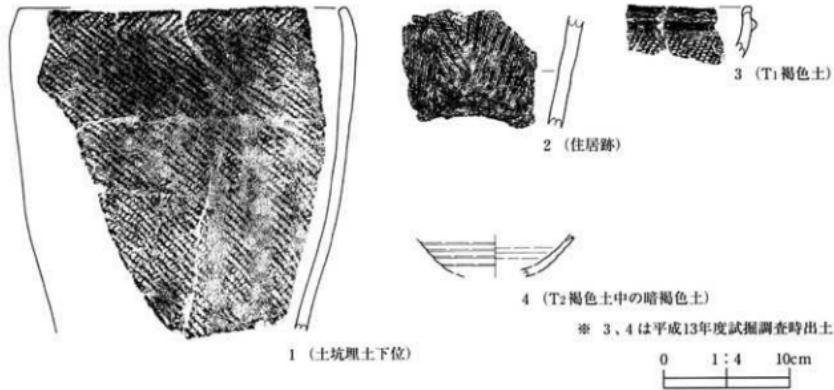
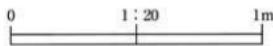
第55図 月ヶ森II遺跡位置図



第56図 月ヶ森II遺跡調査区位置図



- 1 75YR2-3 棕褐色褐色土
 2 75YR2-2 黑褐色 シルト 繊まりあり 黏性なし
 3 75YR2-2 黑褐色 繊まりあり 黏性なし 塗化物粒がわずかに混じる
 4 3YR2-1 黑褐色 繊まりややあり やや粘性あり 土器、塗化物をわずかに含む
 5 75YR4-4 黑褐色 繊まりなし 黏性なし 黒褐色土を少量含む
 6 75YR2-2 黑褐色 繊まりあり 黏性あり 地山崩落土を含む



第57図 月ヶ森Ⅱ遺跡遺構図・出土遺物

17 一般農道整備事業日向川西地区関連調査

新規遺跡 (N E65-1163)

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川字金成地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年6月11日～12日（2日間）

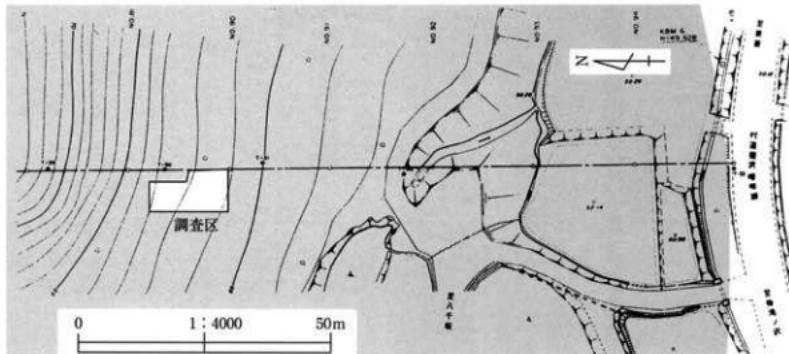
遺跡は、JR東日本東北本線前沢駅の南西約5.8kmに位置し、流ノ沢川に向かって延びる尾根の裾部に立地している。遺跡の標高は62m前後を測り、現況は水田及び山林となっている。

今回の調査は、一般農道整備事業に伴うもので、平成12年7月に試掘調査を実施したところ、遺構が確認された道路新設部分について発掘調査を実施した。調査面積は、約200m²である。

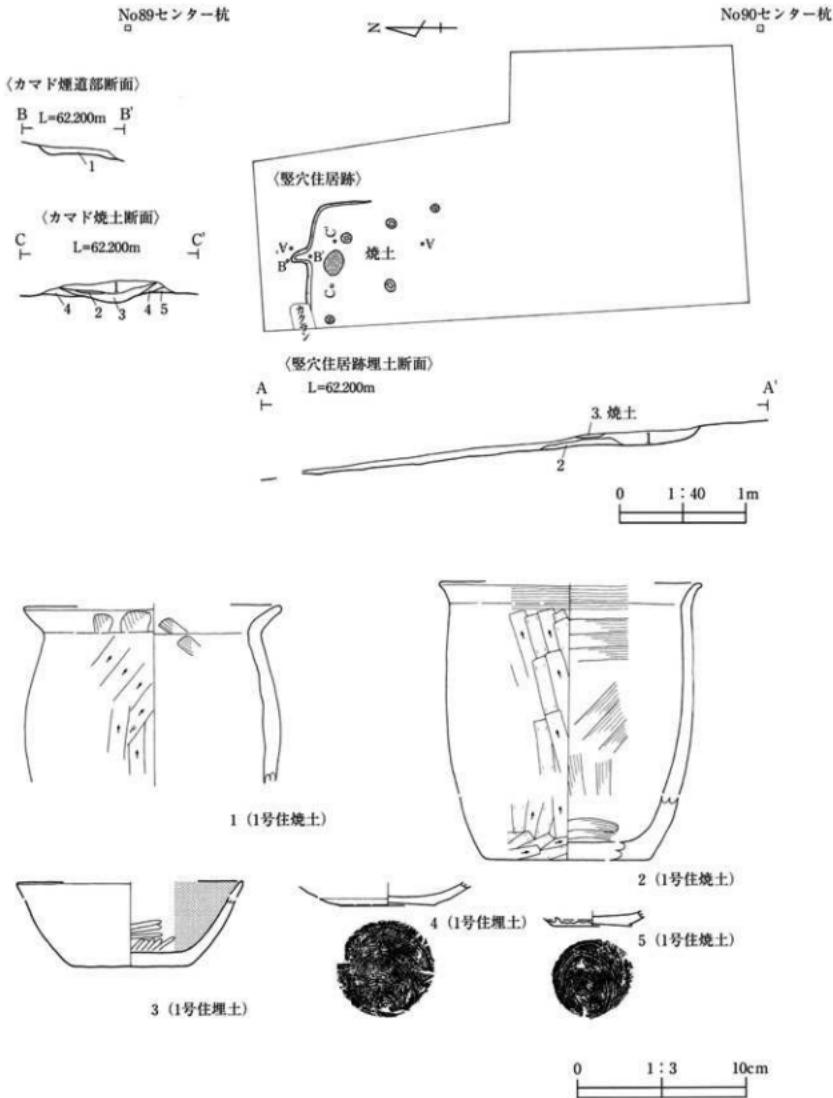
調査の結果、調査区域北側で竪穴住居跡が1棟検出された。検出された竪穴住居跡は、斜面下方に当たる南側が流失しており、西側は調査区域外に続いている。また、北壁の一部が搅乱を受けており残存状況は不良である。このため住居跡の規模や形状の詳細については不明な点が多いが、残存する部分から推定すると、平面形は隅丸方形を呈し、規模は1辺が4m前後と考えられる。残存する北壁は、ゆるやかに外傾して立ち上がる。カマド及び煙道は北壁中央部付近に構築されているが、北壁の残存状態も15cm前後と悪く、詳細は不明な点が多い。カマドの燃焼部と考えられる焼土は80×60cmの範囲に楕円形に広がっており、焼土上部から土器片がまとまって出土している。煙道は北壁から55cmほど北側に延びる。埋土の状況から掘り込み式の煙道の可能性が高い。床面は地山の黄褐色土を掘り込んでおり、ほぼ平坦でしまっている。床面からは5基の柱穴状土坑が検出されている。柱穴の規模は径が30cm前後、深さが12～15cmで、円形あるいは楕円形を呈する。いずれの柱穴からも柱痕は確認されなかった。なお、最も南側の柱穴については、東壁の推定線にかなり近い位置にあることから、この住居跡に伴うものか不明である。この竪穴住居跡の構築は、形状や出土した土器片などから平安時代の遺構と推定される。



第58図 NE65-1163 位置図



第59図 NE65-1163 遺跡調査区位置図



第60図 NE65-1163 遺構図・出土遺物

18 北上警察署立花駐在所庁舎新築事業関連調査

立花南遺跡 (ME66-2128)

所在地：北上市立花第10地割55番ほか

事業者：岩手県警察本部会計課

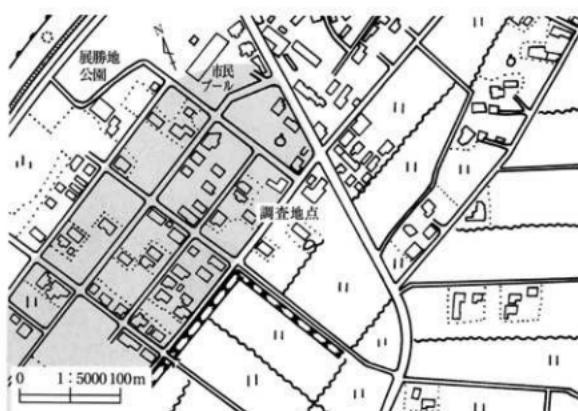
調査期日：平成14年8月20日～23日

遺跡は、JR東日本東北本線北上駅の東方約1.0kmに位置し、北上川左岸の沖積地上に立地する。調査区の標高は58m前後で、現況は宅地・畠地である。

今回は、平成13年度に実施した試掘調査を受けて、その際に検出した土抗2基・焼土2カ所について、記録保存を目的として発掘調査を行った。

精査した土抗2基は、いずれも平面形が円形を呈し、1号土抗は136×148cm、深さ40cm、2号土抗は直径88cm、深さ92cmあまりの規模であった。前者の断面形は皿状、後者はピーカー状である。1号土抗の埋土は黒褐色土の單層で、地山崩落土の小ブロックを含んでいる。出土遺物ではなく、時期・性格については不明である。2号土抗の埋土は上位が黒褐色土、中位が黄褐色土と黒褐色砂層の互層、下位がグライ化した粘土ブロックを含む黒色土からなる。遺物は、3層上部から縄文時代晩期後半の土器片（1）が、4層下部の底面付近からは木製品（5）の破片が出土した。この3点の木製品はいずれも同一の個体で、2点は接合した。これらは、材の縱方向に割れているが、両先端部にはゆはず状の切れ込みが入っている。明瞭な加工痕が観察される部分はこれ以外にはない。中世以降の井戸跡出土の木製品に類例があるようだが、それは不明木製品として報告されている。今回出土したものもこれに類似することから、2号土抗は造構上部が削平された井戸跡の可能性があるが、詳細な時期は不明である。焼土遺構2基は、洪水砂からなると思われる基本層序第3層中（暗褐色粘土質土）において検出された。試掘トレンチで一部を壊してしまったため、いずれも焼土の広がりは不明である。1号焼土は円形、2号焼土は不整形を呈するものと思われ、色調はいずれもぶい赤褐色である。焼けはあまり良好でない。時期は、確認され

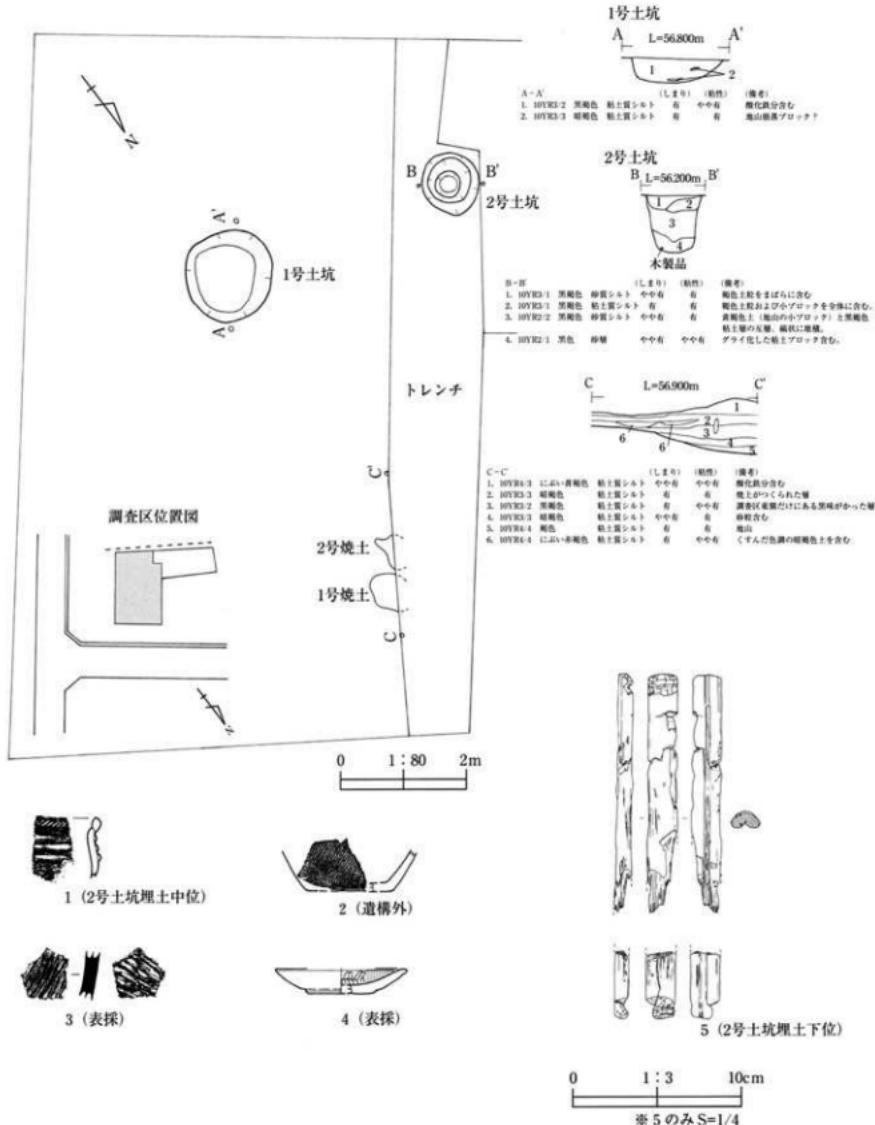
第61図 立花南遺跡位置図



第62図 立花南遺跡調査区位置図

た層位などから古代に属する可能性はあるが、詳細は不明である。

掲載した遺物は、1が2号土抗埋土中位出土の縄文晩期後半の土器片、2もその時期あたりの鉢の底部、3は内外面にタタキメの残る須恵器壺の体部破片、4は内面が黒色処理された土師器の小皿である。5は既述した木製品である。



第63図 立花南遺跡遺構図・出土遺物

19 宮古測候所構内宿舎排水施設改修工事関連調査

銚ヶ崎館山貝塚（L G24-2164）

所在地：宮古市銚ヶ崎下町2-33地内

事業者：盛岡地方気象台宮古測候所

調査期日：平成14年10月17日

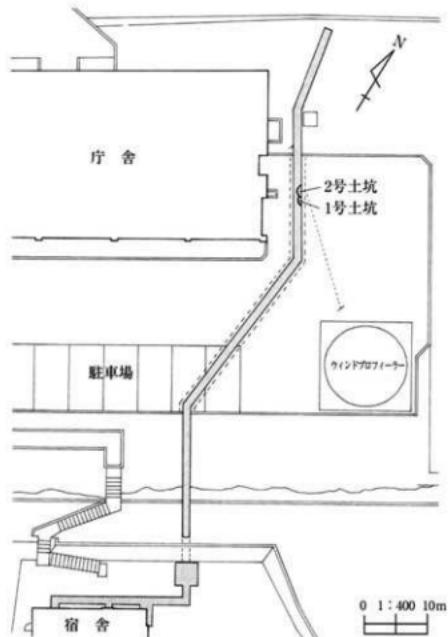
遺跡はJR東日本山田線宮古駅の北東約1.7kmに位置し、閉伊川の北側に存在する樹枝状に開析された千徳丘陵の最東端部に立地している。遺跡の標高は45m前後を測り、現況は宮古測候所敷地及び宅地となっている。

今回は宮古測候所構内宿舎排水施設改修工事に伴って、排水水管埋設箇所とポンプ槽設置箇所の調査を実施した。調査対象面積は約36m²である。なお、排水水管を埋設するために掘削する幅は約70cm、ポンプ槽設置場所は2×2mほどの大きさである。

調査の結果、庁舎北側の排水管埋設予定箇所で土坑が2基検出された。2基の土坑は、いずれも調査区域外に統くことから詳細は不明であるが、検出した部分から推定すると平面形は円形で、断面形はビーカー状を呈すると考えられる。規模は1号土坑が径100cm、深さ12cm、2号土坑が径90cm、深さ65cmである。いずれの土坑も地山の灰黄褐色土を掘り込んでいる。埋土の状況から2号土坑の方が1号土坑よりも構築時期は新しいものと推定される。2基の土坑からは縄文土器が出土しており、縄文時代の遺構と考えられる。



第64図 銚ヶ崎館山貝塚位置図



第65図 銚ヶ崎館山貝塚調査区位置図

なお、西側の草地部分では、水道管理設及び旧庁舎の排水工事による搅乱と盛土が確認された。ウインドプロファイラの南側の駐車場付近及びそれに統く草地は、旧庁舎の基礎等により搅乱を受けており、排水水管を埋設する深さでは遺構が確認されなかったことから、それ以上の掘削は行わなかった。ポンプ槽設置場所は擁壁工事による搅乱を受け、1m近い盛土の下は地山となっていた。

以上のことから、庁舎東側は旧庁舎建設により遺跡が破壊されている可能性が高いが、北側には遺構が残存していると推定される。



第66図 銀ヶ崎館山貝塚遺構図・出土遺物

20 は場整備事業下門岡地区間連調査

金附遺跡 (ME 76-2058)

所在地：北上市福瀬町下門岡地内

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日：平成14年3月5日～3月7日（3日間）

遺跡は、JR東北本線北上駅の南約3.5kmに位置し、北上川左岸の南北に細長く延びる自然堤防上に立地している。調査区域の標高は53m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査は、平成13年12月試掘調査を行ったところ、焼土が検出された地点について、遺構確認調査を実施したものである。調査対象区域は砂利敷きの農道となる部分で、対象面積は、約270m²である。

調査の結果検出された遺構は、土坑1基、堅穴住居跡1棟、溝跡1条である。調査区域東側北端で検出された土坑は、大半が調査区域外に結くため詳細は不明であるが、平面形は円形あるいは楕円形を呈すると推定される。大きさは検出規模から推定すると、径が2mを超えるものと思われる。

調査区中央部で検出された住居跡は、北側が調査区域外に続くものの、検出された部分から平面形は隅丸方形を呈すると推定される。規模は1辺が7m前後である。東壁と南壁からカマドの煙道部が検出されており、カマドの作り替えが考えられるが、新旧関係は不明である。この住居跡の埋土からは土師器・須恵器が出土しており、平安時代の遺構と推定される。また、遺物として南側のカマド部分から土錐が1点と「佛」と線刻してある砥石が1点出土している。

調査区西側で検出された溝跡は、北側と南側が調査区域外に続いており、長さは不明であるが、ほぼ南北方向に延びており、幅は50～80cmである。この溝跡は3層から掘り込まれている。土坑と溝跡からは遺物の出土がなく、構築時期を特定することはできない。

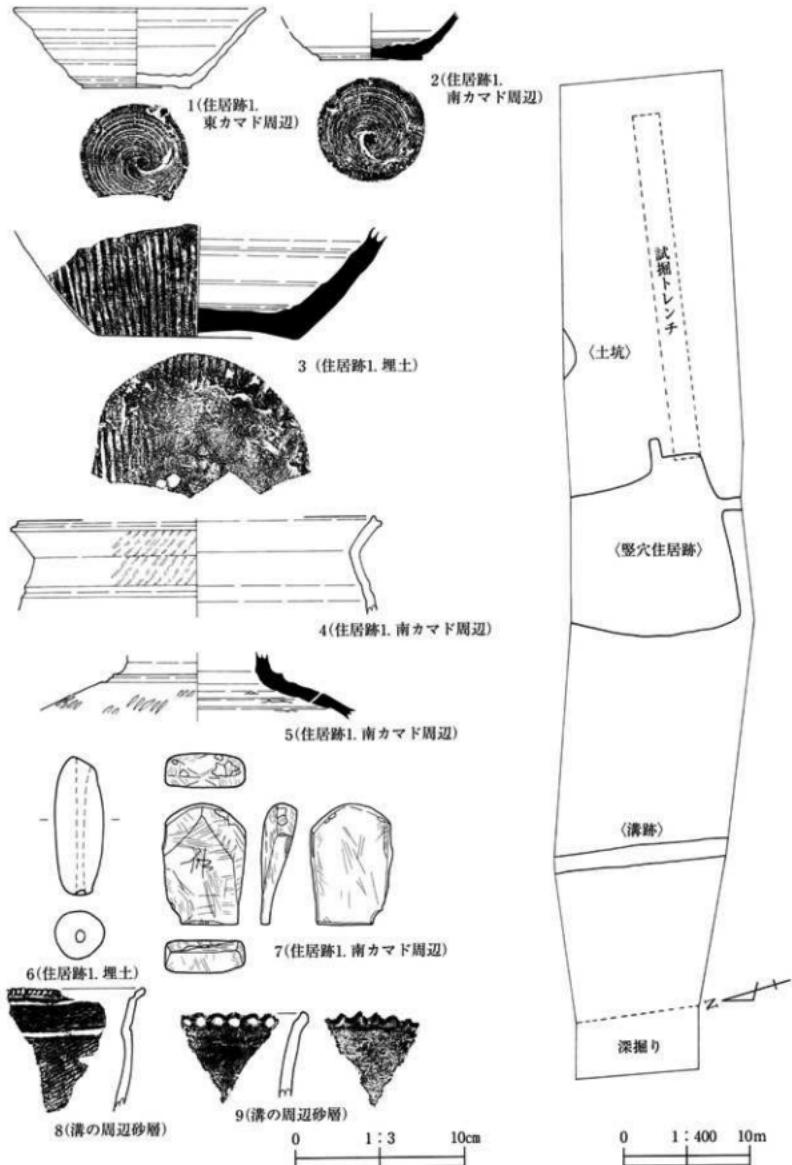
以上のことから、金附遺跡ではこれまでに縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構や遺物が確認されており、北上川の自然堤防に沿って、幾時代かにわたり、集落が営まれていたことが分かった。



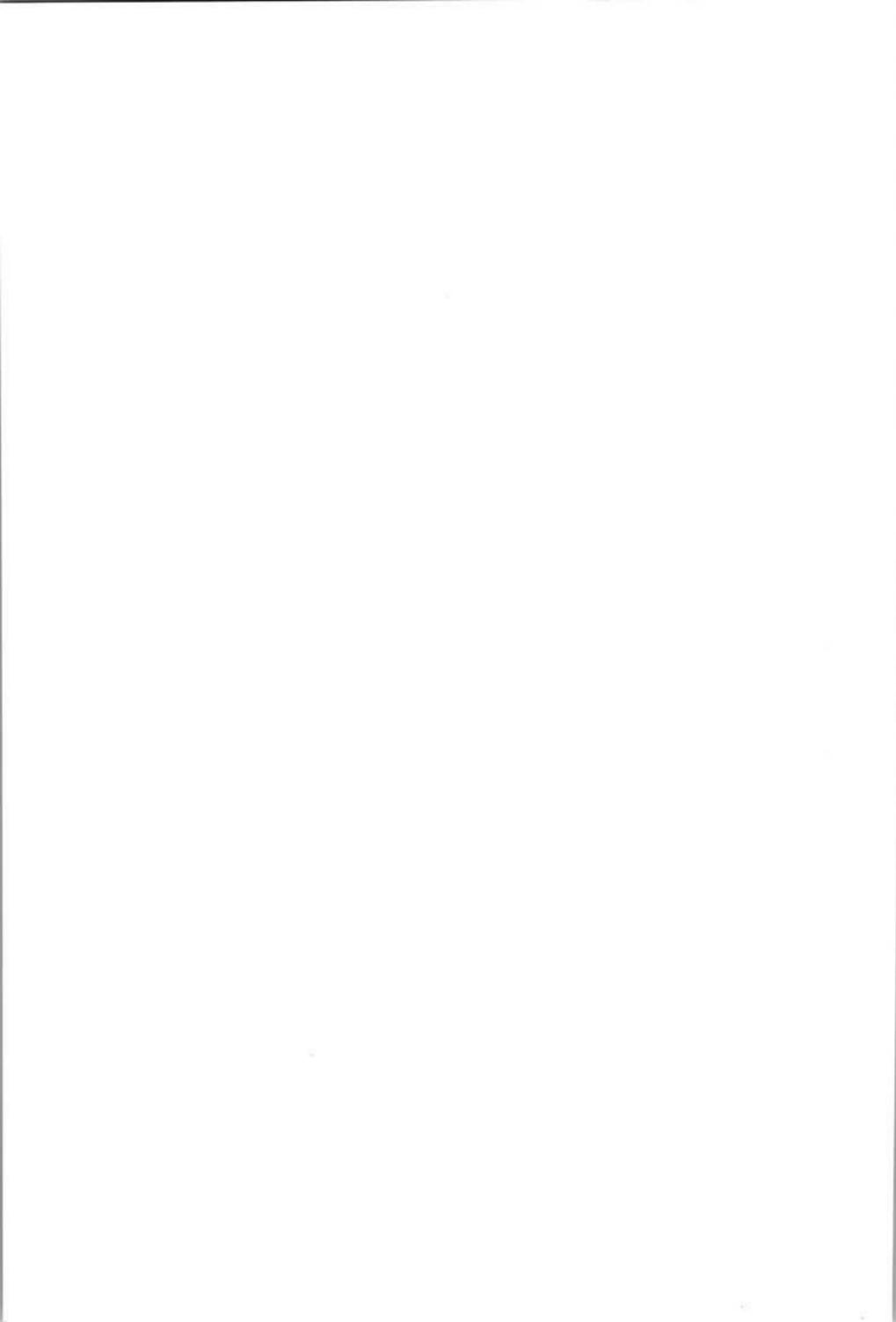
第67図 金附遺跡位置図



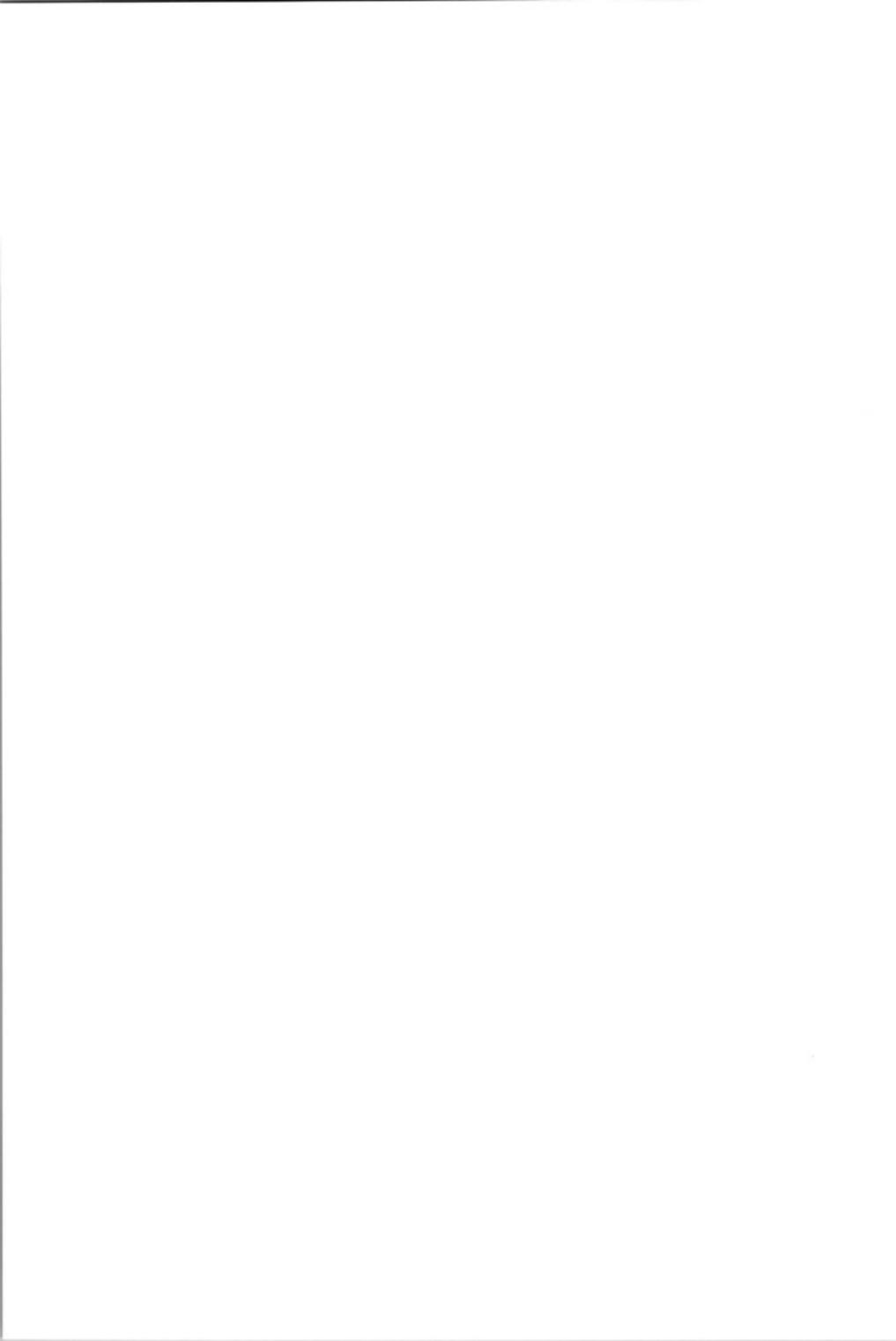
第68図 金附遺跡調査区位置図



第69図 金附遺跡遺構図・出土遺物



II 試掘調查



1 一般国道4号北上拡幅事業関連調査

滝の沢地区遺跡（ME75-0373）

所在地：北上市大堤地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日：平成14年2月25日（平成13年度）

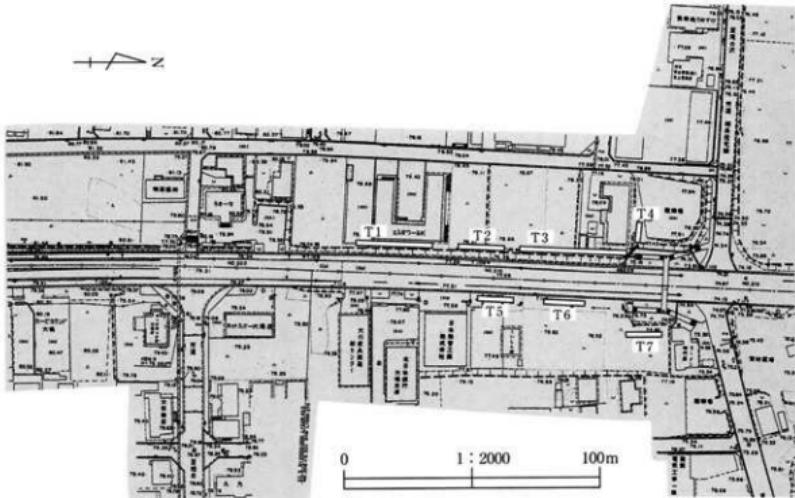
平成14年5月8日（平成14年度）

遺跡は、北上市役所より南南東約2.8kmに位置し、和賀川によって形成された河岸段丘面の縁辺部に立地している。遺跡は、国道4号線をはさむように広がっており、遺跡の北側は、丸子館遺跡に接している。本遺跡は、過去に北市教育委員会によって発掘調査が実施されており、縄文時代前期を中心とした土器及び石器が出土している。

調査は、現国道4号線の拡幅工事に伴うもので、国道東側の拡幅部分の調査は平成13年度に、西側は平成14年度に実施したものである。平成13年度の調査対象区は、過去に地形改変を受けていたため、遺構及び遺物は確認することができなかった。平成14年度の調査対象区の基本層序は、第Ⅰ層黒色土、第Ⅱ層暗褐色土、第Ⅲ層黄褐色粘土質シルトであった。精査の結果、T2では径40cm大の円形プランを持つ土坑が1基検出され、その埋土には炭化物粒が含まれ、土器片も確認できた。T3では径30cm大の円形土坑が検出された。調査時に駐車場として利用されていた部分に設定したT4では、表土から約1m下で25cm大の柱穴状ピットが1基検出された。遺物は、調査区内の表土内から、縄文土器2点、石器の剥片2点、磨石と思われる破片1点が出土している。T4を設定した場所は、旧地形が良好に残存しているため、遺構及び遺物が多く所在している可能性が高いと判断した。（平成14年度本発掘調査）



第70図 滝の沢地区遺跡位置図



第71図 滝の沢地区遺跡調査区位置図

2 一般国道4号花巻東バイパス改築工事関連調査

上台Ⅱ遺跡 (ME26-2340)

所在地：花巻市高木第19地割地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査日程：平成14年10月30日～31日（2日間）

遺跡は、JR東日本東北本線花巻駅の東南東約6.7kmに位置し、北上川によって開拓された沖積段丘上に立地している。遺跡の標高は78m前後を測り、現況は原野及び畑地となっている。調査区の基本土層は以下のとおりである。第1層；表土10~15cm、第2層；暗褐色土（粘土質）10~15cm、第3層；黄褐色土（地山）層厚不明。

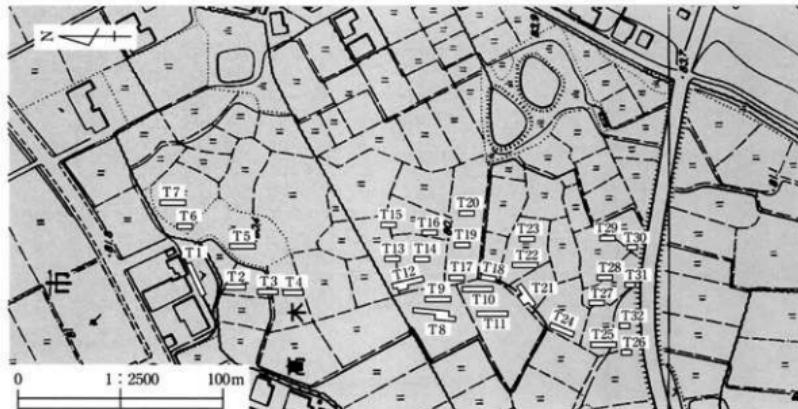
今回の調査では、新設道路となる部分に幅160cmほどのトレンチを32本設定した。

調査の結果、調査区西側の一段高い草地に入れたT8とT11において竪穴住居跡が検出された。T8で検出された住居跡は隅丸方形を呈し、規模は5×5mほどである。T11で検出された住居跡も同様のものと推定される。いずれの住居跡からも土師器が出土しており、古代の住居跡と考えられる。また、T8~T11・T21・T24において土坑が8基、柱穴状土坑16基検出されている。土坑は円形または楕円形を呈し、規模は径70cmほどのものが多い。柱穴状土坑の規模は、径20cmほどである。これらの遺構からは遺物は出土していないが、住居跡と同時期のものと推定される。

なお、今回の調査区域のうち西側の草地以外の場所は湿地となっており、重機の進入できる部分にのみトレンチを設定したが、草地に近いT21・T24で土坑が検出された以外、遺構は確認されなかった。湿地に入れたトレンチでは、表土の下は15~20cmの暗褐色土で、その下はグライ化した粘土層となっていた。トレンチを入れられなかった部分も同じ様相を呈すると考えられ、遺構は存在しないものと推定される。（平成15年度本調査予定）



第72図 上台Ⅱ遺跡位置図



第73図 上台Ⅱ遺跡調査区位置図

3 一般国道4号水沢東バイパス改築工事関連調査

杉の堂遺跡 (N E 27-0100)

跡呂井遺跡 (N E 17-2087)

所在地：水沢市神明町地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査日：平成14年12月25日

遺跡は、JR東日本東北本線水沢駅の東約1.4kmに位置し、胆沢扇状地水沢段丘上位面に立地している。遺跡の標高は41m前後を測り、現況は宅地及び畑地が主体である。杉の堂遺跡と跡呂井遺跡は、市道をはさんで隣接している。

今回の調査では、新設道路及び取付道路となる部分に、幅180cmほどのトレンチを杉の堂遺跡では17本、跡呂井遺跡では2本設定した (T1～T19)。調査の結果、跡呂井遺跡ではT1において溝跡2条と柱穴状土坑3基が検出された。西側で検出された溝跡は、やや南側に湾曲しながら東西方向に延びるもので、規模は幅90～110cmである。東側で検出された溝跡は幅が20～30cmで、東西方向に延びる。柱穴状土坑は径が40cmほどで、間尺220cmで東西方向に並ぶことから、掘立柱建物跡の可能性もある。

杉の堂遺跡では、遺跡北西側に入れたT3～T5において溝跡3条と土坑2基が検出された。T3で検出された溝跡は幅80～100cmで南北方向に延びている。土坑はほぼ円形で、規模は90×100cmである。T4で検出された溝跡は幅80～100cmで、東西方向に延びている。土坑は不整な楕円形を呈し、規模は60×100cmである。T5で検出された溝跡は北西～南東方向に延び、規模は幅20cmほどである。調査区西側中央部付近に入れたT9とT11においては溝跡3条と土坑1基が検出された。T9・T10で検出された3条の溝跡は幅が20～70cmで、北西～南東方向に延びる。T10の溝の付近で検出された土坑は、溝跡の可能性もある。

今回検出されたすべての遺構からは遺物が出土せず、構築時期は不明である。(平成15年度本調査予定)



第74図 杉の堂遺跡・跡呂井遺跡位置図



第75図 杉の堂遺跡・跡呂井遺跡調査区位置図

4 一般国道4号線渋民バイパス改築事業関連調査

芋田Ⅱ遺跡 (K E 47-2199)

所在地：玉山村大字芋田字芋田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日：平成14年10月24日・25日

本遺跡は、東日本旅客鉄道東北本線好摩駅の南東1kmにあって、北上川左岸の河岸段丘および東側の丘陵から延びる尾根上に立地している。遺跡の標高は200~230mを測り、現況は一部畠地として利用されるほかは、ほとんどが原野・山林である。

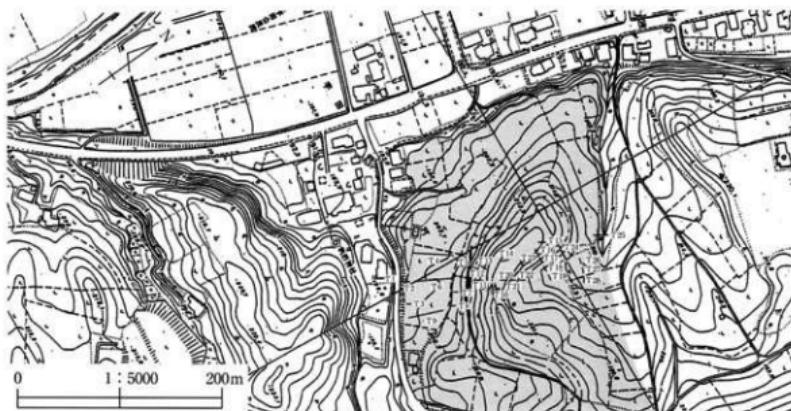
今回の調査は、一般国道4号線渋民バイパス改築工事に伴って実施したもので、予定路線は本遺跡を南北に縦断している。調査対象地点は、平場・尾根・沢地形を呈する箇所と複雑であったため、1.6m幅の試掘トレンチは28箇所に及んだ (T1~T28)。結果、村道脇のT1では道路建設の際の盛土が厚く施され、旧河道面まで掘削できなかった。T2・T3は法面に入れた基本層序確認のためのトレンチである。T4~T9は道路面より一段高い平場に設定したトレンチであるが、T4では3地点に土器が集中する箇所が、T6・T9では埋土に十和田a火山灰を含む一辺4m前後の方形プランが確認され、これらはいずれも平安時代の竪穴住居跡と思われる。また、T5・T8からは焼土構造が1基ずつ検出されたが、時期・性格は不明である。

東側から延びる尾根上に設定したT10~T15では、T10でのみ縄文時代中期の土器片が数点確認されたが、遺構は検出されなかった。T16~T28は、深い沢跡を埋め立てて播鉢状になっている箇所と、尾根から下がる北斜面に入れたものであるが、T25から現代の炭窯と思われる遺構が確認された以外は、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

今回の試掘調査から、平場には平安時代の集落跡が、尾根上には縄文時代の住居・土坑等の遺構が存在することが予想される。(平成15年度本調査予定)



第76図 芋田Ⅱ遺跡位置図



第77図 芋田Ⅱ遺跡調査区位置図

5 一般国道4号沿線バイパス改築工事関連調査

芋田V遺跡 (K E 47-2272)

所在地：玉山村大字芋田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査日：平成14年11月14日

遺跡は、JR東日本東北本線好摩駅の南東1kmほどの国道4号線沿いにあって、北上川左岸の河岸段丘上および東側の丘陵から延びる尾根とその間にに入る埋没沢部分に立地している。南側には芋田、遺跡が隣接している。調査区域の標高は217~220m前後で、現況はほとんどが山林・原野である。

今回の調査は一般国道4号線沿線バイパス改築工事に伴って行ったもので、その予定路線は遺跡の中央部を南北に縱断する。調査では、遺跡にかかる新設道路予定地に、地形の傾斜に沿った幅1.6mほどのトレーニチを9箇所設定し (T1~T9)、それぞれにおいて遺構遺物の有無を確認した。調査区域の基本土層は以下のとおりである。第1層：盛土（工場建設の際の盛土か？）200cm前後、第2層：黒色シルト質土（バミスの含有量で2層に分層される）20~40cm、第3層：暗褐色シルト質土（漸移層で浮石を含む）20~40cm、第4層：褐色土（地山）層厚不明。

調査の結果、調査区中央部付近の尾根の頂部に設定したT5において幅50cm、長さ3mほどの暗褐色土の広がりが検出された。この遺構は、形状から縄文時代の溝状の陥し穴状遺構と推定される。T6・T7は、陥し穴状遺構の広がりを想定して設定したトレーニチであるが、この他には検出されなかった。T1及びT3では盛土が2m前後確認されたが、これは付近の工場建設の際に盛土されたものと思われる。これ以外の埋没沢及び傾斜地に設定したトレーニチからは、遺構・遺物とも確認されなかった。(平成15年度本調査予定)



第78図 芋田V遺跡位置図



第79図 芋田V遺跡調査区位置図

6 一般国道4号渋民バイパス改築工事関連調査

芋田VI遺跡（K E47-2250）

所在地：玉山村大字芋田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日：平成14年11月14日

遺跡は、JR東日本東北本線好摩駅の南東1kmほどどの国道4号線沿いにあって、北上川左岸の河岸段丘上および東側の丘陵から延びる尾根とその間にに入る埋没沢部分に立地している。南側には芋田・遺跡が隣接している。

調査区域の標高は尾根頂部で225m前後を測り、現況はほとんどが山林・原野である。

今回の調査は一般国道4号線渋民バイパス改築工事に伴って行ったもので、その予定路線は遺跡の中央部を南北に縱断する。調査では、遺跡にかかる新設道路予定地に、地形の傾斜に沿った幅1.6mほどのトレンチを9箇所設定し（T1～T9）、それぞれにおいて遺構遺物の有無を確認した。調査区域の基本土層は以下のとおりである。第1層：表土（森林腐食土及び耕作土）20～30cm前後、第2層：黒色シルト質土（バミスの含有量で2層に分層される）20～30cm、第3層：暗褐色シルト質土（漸移層で浮石を含む）20～40cm、第4層：褐色土（地山・浮石を含む）層厚不明。

調査の結果、調査区中央部付近の尾根の頂部に設定したT4において幅90cm、長さ190cmほどの長方形を呈する土坑が1基検出された。この土坑は形状から墓坑の可能性もあるが、詳細は不明である。T3は、その周辺の状況を確認するために設定したトレンチであるが、この他には遺構が検出されなかった。これ以外の埋没沢及び傾斜地に設定したトレンチからは、遺構・遺物とも確認されなかった。（平成15年度本調査予定）



第80図 芋田VI遺跡位置図



第71図 芋田VI遺跡調査区位置図

7 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事

熊堂B遺跡 (L E 16-2107)

所在地：盛岡市本宮字熊堂地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

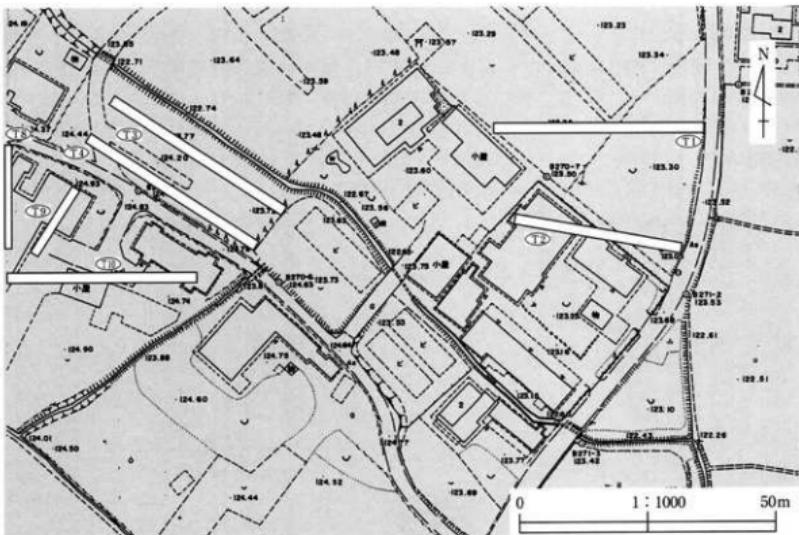
調査期日：平成14年10月9日（水）

本遺跡はJR東北本線仙北町駅の西約1.5kmに位置し零石川右岸の微高地に立地している。現況は宅地跡・畑地で、標高123～125mの平坦地である。今回の試掘調査では、未買収地を除く道路建設予定箇所に、10本の試掘トレンチを設定した（T1～T10）。

T1～2では、南北方向の小規模な溝跡3条を検出したが、トレンチ内では遺物は確認されなかった。T2の西側では旧河道に伴う低地となり、2層黒褐色土が比較的厚く堆積していた。水路に隣接する低地部分に設定したT3でも2層が厚く堆積し、遺構等は確認されなかった。調査地東側のT5では、竪穴住居跡1棟、溝跡3条、土坑2基を検出した。住居跡は一辺が4.5m程の方形を呈し、土師器片が出土していたことから、奈良～平安時代の遺構と推定される。T6～7は搅乱が多く遺構は検出されなかった。T8では方形の土坑1基と柱穴が検出された。古代の竪穴住居跡は、主に調査地西側に存在し、その周辺に溝跡や土坑等の関連遺構が分布していることが推定される。T3付近の低地は、中世以降に形成された旧河道と推定され、遺構等が遺存する可能性は低いと考えられる。（平成15年度本発掘調査予定）



第82図 本宮熊堂B遺跡位置図



第83図 本宮熊堂B遺跡調査区位置図

8 砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業

河崎の柵擬定地 (O E09-1173)

所在地：東磐井郡川崎村針山地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日：平成14年11月19日（火）

本遺跡はJR大船渡線陸中門崎駅の南東約1.6kmに位置し、北上川左岸の自然堤防上に立地している。本遺跡は、11世紀後半の安倍氏の城郭「河崎の柵」の擬定地であり、これまでの調査で中国産白磁・青磁、かわらけ等が出土している。また、平安時代前期の集落跡と縄文時代後期～晩期の遺物包含層も確認されている。

今回の調査は、平成14年度の財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査区で検出されている遺構（特に縄文時代の遺物包含層）の広がりを確認することを目的に実施したものである。調査対象地の畑地に、幅5.5mの試掘トレンチをL字形に設定した。

調査の結果、県道よりの箇所で、径80～200cmの土坑3基と、炭化物集中区1箇所を検出した。検出面は地表下約120cmの4層褐色粗砂層の上面である。埋土からは土師器片が出土しているが、検出面からみて遺構の年代は近世と推定される。4層で遺構が確認されなかった箇所については、更に掘り下げを行った。6層は炭化物を少量含む褐色砂質シルト層であり、これまでの調査結果から平安～中世の遺構面が含まれることが推測されたが、遺構・遺物は確認されなかった。7層褐色中砂混砂質シルト層より下層については、トレンチ内の3箇所で深掘りを行った。8層・10層・12層と炭化物を含む暗褐色砂質シルト層が確認されたがこの3枚の暗褐色土層については、平安時代の遺物包含層ないし遺構面の存在の可能性が考えられたが、調査範囲内では遺構・遺物は確認されなかった。更に14層では、暗褐色粘質土層が確認された。レベル的に隣接する埋蔵文化財センター調査区での縄文時代後期の遺物包含層に相当する層位と推測されたが、層厚は比較的薄いものであり、遺物や炭化物等は一切含まれていなかった。縄文時代の遺物包含層は今回の調査地までは広がらないものと推定される。14層の下層は、中砂・粗砂層が厚く堆積する状況であり、地表から540cm程掘り下げた段階で調査を終了した。（平成15年度本発掘調査予定）



第84図 河崎の柵擬定地位置図



第85図 河崎の柵擬定地調査区位置図

9 地域活性化支援道路整備事業関連調査

里古屋遺跡（N F 14-2005）

所在地：住田町世田米字里古屋地内

事業者：水沢地方振興局土木部

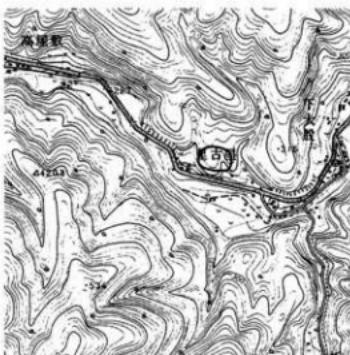
調査期日：平成14年11月8日

遺跡は、住田町世田米にある住田町役場の西約8km付近に位置し、気仙川の支流である大股川左岸の丘陵裾部に立地している。調査区域の標高は227m前後を測り、大股川との比高差は10~20mである。遺跡は南向きの緩斜面で、現況は高位面が水田・畑地で、低位面が宅地・道路である。

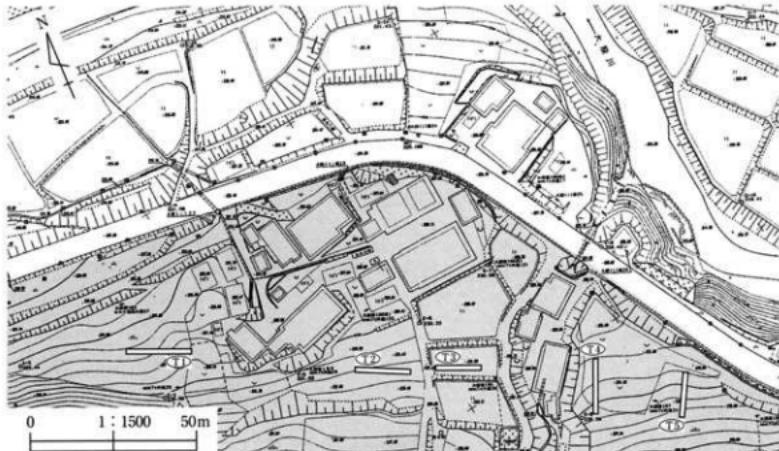
今回の調査は地域活性化支援道路整備事業に伴うもので、道路新設により掘削を受ける部分に、幅2mほどの

トレンチを4本設定して実施した（T2~T5）。なお、T1については平成13年12月に試掘調査を実施したもので、径45cmの焼土遺構1基と径60cmの土坑1基が検出されている。調査区域の基本土層は以下のとおりである。第1層；表土（耕作土）15cm、第2層；水田床土盛土15cm、第3層；黒褐色土（シルト）15cm、第4層；暗褐色土（遺構検出面）層厚不明、第5層；黄褐色土（疊を含む・地山）層厚不明。

調査の結果、畑地に入れたT2では、住居跡と推定される暗褐色土の広がりが2箇所で確認された。また、径25cmほどの柱穴状土坑が2基検出されている。水田に入れたT3では2棟、T4では3棟の住居跡が検出された。住居跡は円形を呈するもので、重複関係にある。規模は4~5mと推定される。T5では遺構は検出されなかったが、土器が出土していることから、付近に遺構が存在する可能性が高い。住居跡の構築時期は、出土した土器から、縄文時代中期後葉から後期前葉と考えられる。（平成15年度本調査予定）



第86図 里古屋遺跡位置図



第87図 里古屋遺跡調査区位置図

10 山本川筋通常砂防事業関連調査

中屋敷遺跡（ME91-1009）

所在地：江刺市米里字中屋敷地内

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期日：平成14年11月19日

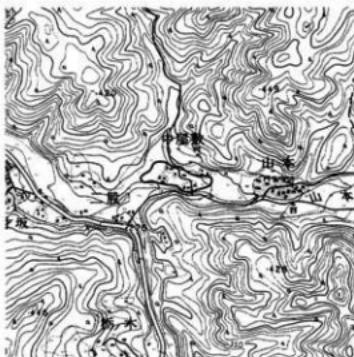
遺跡は、江刺市役所の東約15kmに位置し、人首川の支流である山本川右岸の緩斜面に立地している。調査区域の標高は285m前後を測り、現況は水田・畑地・原野である。

今回の調査は通常砂防事業伴うもので、遺跡内の河川改修工事により掘削を受ける部分に、幅120cmほどのトレンチを9本設定して実施した（T1～T9）。

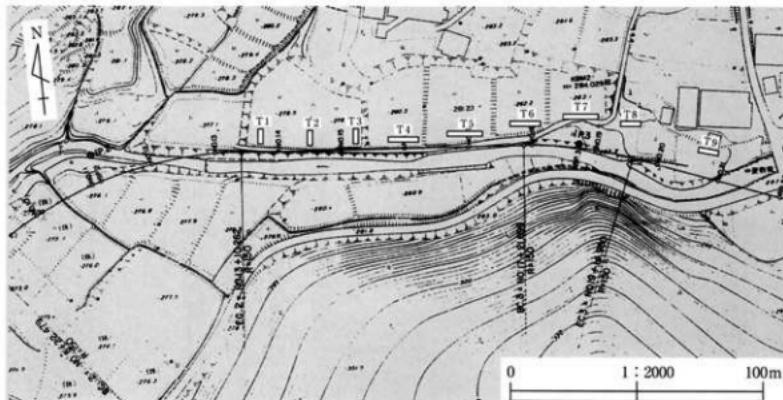
調査区域の基本土層は以下のとおりである。第1層：

表土（耕作土）15～20cm、第2層；盛土（疊を混入する）0～80cm、第3層；暗褐色土（土器を含むする・T5のみで確認）0～10cm、第4層；灰黃褐色砂質土（遺構検出面）層厚不明、第5層；砂礫層（地山）層厚不明。

調査の結果、調査区中央部付近に入れたT5において焼土遺構が2基検出された。検出された焼土は、いずれもやや不整な円形で、あまり発達しておらず、規模も1基は20×20cm、他の1基も10×15cmと小さい。焼土遺構の周辺からは縄文土器が数点出土している。他のトレンチからは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。トレンチを設定した場所により厚く盛土がなされてたり、表土直下がすぐに疊層となる場所があったりしたことから、耕地造成の際にかなり擾乱を受けていると推定される。今回の調査から、遺跡の中心はやや標高の高い山際の緩斜面の可能性が高い。（平成15年度本調査予定）



第88図 中屋敷遺跡位置図



第89図 中屋敷遺跡調査区位置図

11 緊急地方道路整備事業

大文字遺跡（ME96-0249）

所在地：江刺市福瀬町内

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期日：平成14年7月25日、8月5日（2日間）

遺跡は、JR東日本東北新幹線水沢江刺駅の北西約8kmに位置し、北上川と広瀬川に挟まれた沖積平野の自然堤防上に立地する。

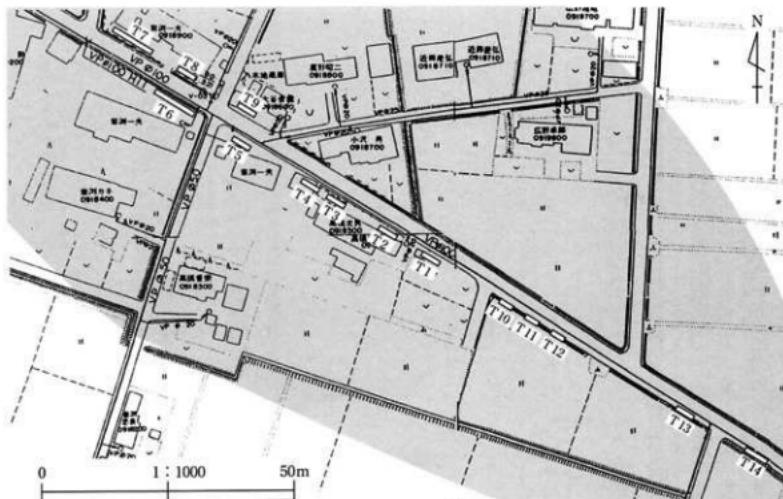
今回の発掘調査は県道改良工事に伴うもので、事業予定地内に15箇所の試掘トレンチを設定した。

基本層序は次のとおりである。第1層、表土、層厚0.2~0.3m、第2層、暗褐色砂質シルト、層厚0~0.2m、第3層、明黄褐色~褐色粘土質シルト、層厚0.5~0.6m、古代の遺構の検出面、第4層、明黄褐色粘土質シルト、層厚0.5~0.6m、縄文時代の遺構検出面、第5層、褐色砂質土、層厚1m、第6層、黄褐色砂質土、層厚不明である。

T2の4層上面で、竪穴住居跡1棟を検出し、縄文時代後期の土器が出土した。T3では2層上面で平安時代の竪穴住居跡1棟、南北方向の溝1条、柱穴、T4では層厚0.2mの炭化物を含む暗褐色土、T10~14では、地表下1.2~1.6mで縄文時代後期の遺物包含層が発見された。厚さは0.3~0.5m程と推定される。（平成14~15年度本調査予定）



第90図 大文字遺跡位置図



第91図 大文字遺跡調査区位置図

12 ほ場整備事業八重畠地区

宿遺跡 (MF17-0110)

宿館遺跡 (MF17-0111)

所在地：石鳥谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成14年5月27日～28日

7月30日、11月21日（4日間）

遺跡は、JR東日本東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部に立地している。現況は畑地、水田、宅地等である。

今回、ほ場整備事業に伴い、水路、切り土予定田面を中心に試掘トレンチを設定した。

試掘調査の結果、土坑類11基、溝・堀15条、陥穴状造構7基が発見された。

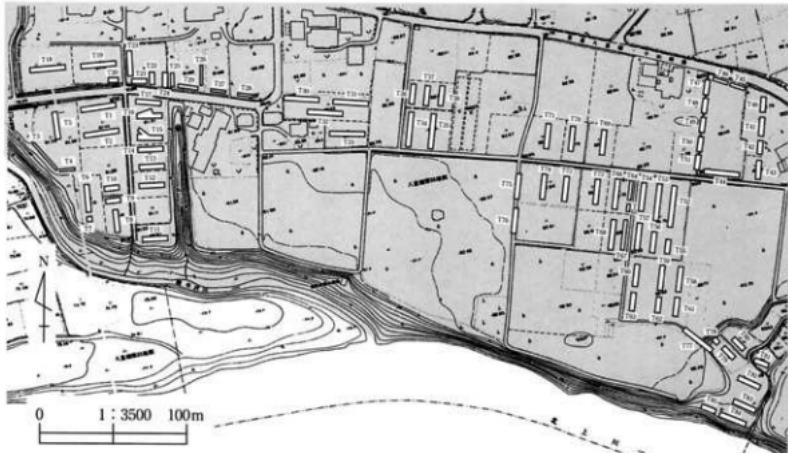
土坑類は、T16、52、56、67、70、71、73で1基づつ、T76で3基、T87で1基確認され、溝・堀跡はT21～22で1条、T28、30で1条、T33で2条、T55～57で2条、T52～53で2条、T64、54～75、74～75、87、95、104条で1条ずつ発見された。

陥穴状造構はT16で2基、T18、35、37、52、72で1基ずつ発見された。

平成14年度に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって、発掘調査が行われており、今回発見された溝・堀と一連の区画をなすことが予想される。溝・堀は方向にバラツキがあり、複数の時期のものがあると推定される。(平成15年度本調査予定)



第92図 宿・宿館遺跡位置図



第93図 宿・宿館遺跡調査区位置図

13 ほ場整備事業八重畠地区

高烟遺跡 (ME 17-0178)

所在地：稗貫郡石巻市八重畠地内

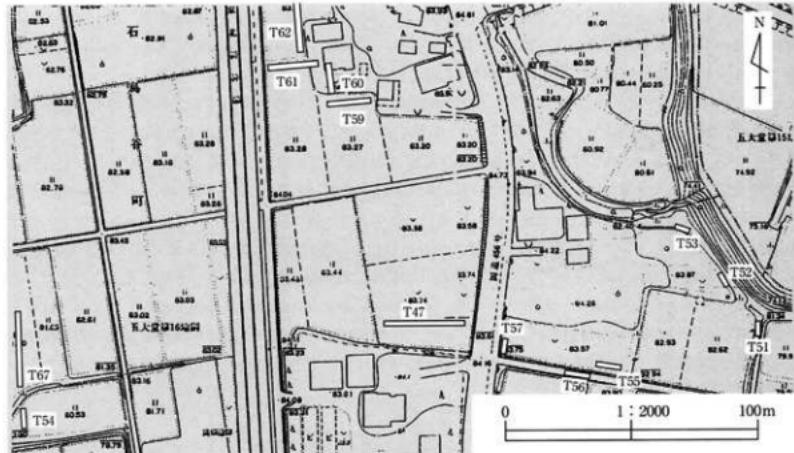
事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成14年11月1日（金）

本遺跡はJR東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置し、北上川と添市川の合流する河岸段丘縁辺部に立地している。北上川に面した箇所では、急峻な段丘崖となり、いくつかの旧河道を挟んでやや起伏のある地形を呈している。遺跡の現況は、宅地・水田・畑地・果樹園である。本遺跡は、昭和49年に東北新幹線建設工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期末葉の集落跡の一部を確認している。また、ほ場整備事業に伴う試掘調査を昨年度実施しており、新幹線西側の調査区から縄文時代中期頃の竪穴住居跡や陥入穴等の遺構を確認している。今回の調査は、昨年度の試掘調査で調査未了になっていた箇所と、事業者の計画変更等に伴い新たに試掘調査が必要となった箇所を対象に、17本の試掘トレーンチを設定した（T51～67）。東側の段丘縁付近に設定したT51～53では、耕作土下層に黄褐色ロームの地山面がくる状況であり、遺跡の東側については、旧河道による削平を受けていることが推測された。農道変更箇所に設定したT55では、暗褐色土上面から径約120cmの円形の土坑2基を検出した。土坑の黒色を呈する埋土中には、多くの縄文土器片が含まれており、今年度財団文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査区で検出されている縄文時代前期末～中期初頭の集落跡と関連する遺構と推測される。現道部分に設定したT57～58では、遺物包含層や黒褐色土層は確認されなかった。T59～63でも、土器片が少量出土したもののが検出された。



第94図 高烟遺跡位置図



第95図 高烟遺跡調査区位置図

14 ほ場整備事業八重畠地区

蛇鰐姐遺跡 (ME 17-1046)

所在地：稗貫郡石鳥谷町字五大堂地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成13年11月6日（火）

平成14年2月27日（水）、同10月31日（木）

本遺跡はJR東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置し、北上川左岸の河岸段丘縁辺部に立地しており、北上川に面した箇所では急峻な段丘崖となっている。遺跡の現況は、宅地・水田・畑地・果樹園である。平成13～14年度に実施した3度の試掘調査で、計50本の試掘トレンチを設定した（T1～50）。

遺跡の南端付近に設定したT1～3では、耕作土下層に比較的厚い暗褐色土層があり、その下層に地山の褐灰色～青灰色粘土層があった。暗褐色土層は水田盛土層であり、遺跡内では相対的に標高が低い場所であることから推測される。T28～31は、現在の水田よりも一段高い草地で、自然地形が残存することが予想された箇所であったが、遺構・遺物は確認されなかった。T33～40では、耕作土直下が地山ローム下層の砂層ないし砂質シルト層となることから、この箇所の水田面については、旧河道等による微地形ではなく、近年の開田等による削平を受けていることが推測される。

T26・27は、北上川段丘崖に隣接する一段高い畑地に設定したトレンチであるが、方形の竪穴住居跡や土坑等が検出された。黒褐色を呈する土坑の埋土中からは、内外面無調整の土師器片が少量出土している。また、T27では、陥し穴状遺構と1基と柱穴状土坑を検出した。陥し穴状遺構は、長さ270cm×幅30cmの溝状を呈するタイプである。柱穴状土坑はトレンチ内から4個検出したが、いずれも径20cm前後の円形を呈し、埋土に土器片を含むものである。北上川沿いに設定したT26では、土坑を2基検出した。土坑には、平面形が円形を呈するものと、梢円形を呈するものがあった。円形のものは、直径が120cm程度で、埋土中から内外面無調整の土師器が数個体分出土した。梢円形のものは、長軸120cm×短軸60cm程度である。2つの土坑は隣接しており、検出面及び埋土の状況からはほぼ同じ時期の遺構と推測される。

円形の土坑埋土から出土した土師器は、小形の皿状のものと、壺形の高台の付く大形のものがあった。いずれも内外面無調整のもので、小形の皿については底部に回転糸切痕が残るものである。出土した土器は、器厚はやや厚めであり、滝沢村大釜館遺跡や金ヶ崎町鳥海柵跡等で出土している土師器と形態及び製作技法が類似している。大釜館遺跡や鳥海柵跡は11世紀頃の遺跡と推測されており、土器の年代も11世紀頃の年代であると推測される。T26・27を設定した一段高い畑地全体は、绳文時代の陥し穴状遺構を除いては、11世紀頃の遺構群が存在すると推測される。畑地より1m程度低い田面に設定したT41・42では、耕作土下層は、削平された砂質土の地山面になっていた。耕作土中に磨耗した土器の小片がいくつか混入することから、この箇所については、本来遺跡の一部であったが、近年の削平等により遺構の多くが失われてしまった箇所と推測される。旧河道状の低地に設定したT47・48では、10世紀頃の赤焼き土器片を含む遺物包含層を検出した。包含層の層厚は、25cm前後であり、北上川沿いの平安時代の遺跡を起源とする遺物包含層であることが推測される。



第96図 蛇姫姐遺跡位置図



第97図 蛇竜塚遺跡調査区位置図

15 は場整備事業八重畠地区関連調査

大西遺跡（ME 06-2345）

所在地；石鳥谷町八重畠地内

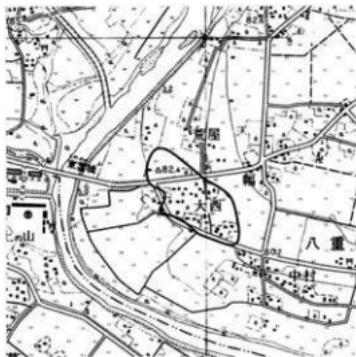
事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日；平成14年11月21日・22日・25日

遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東約2.2kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。調査区域の標高は80m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査はは場整備事業に伴うもので、切り土となる田面・パイプライン埋設部分・支線道路部分・水路部分に幅160cmほどのトレンチを30本設定して実施した。調査区域の基本土層は以下のとおりである。第1層；表土（耕作土）20cm、第2層；黒褐色土20~25cm、第3層；暗褐色土25~30cm、第4層；暗褐色土0~15cm（部分的に存在）、第5層；黄褐色土（砂質・T14でのみ検出）30cm、第6層；褐色~黄褐色土（地山）層厚不明。

調査の結果、北側の調査区域に入れたT14において焼土が1基、T21において土坑が3基と陥し穴状遺構が1基、南側の調査区域に入れたT27とT29において陥し穴状遺構がそれぞれ1基検出された。T14で検出された焼土は20×30cmほどの規模で、あまり発達していない。T21で検出された土坑は梢円形を呈し、規模は1.0×1.4m、0.3×1.1m、1.1×2.0mほどである。T21の陥し穴状遺構は溝状を呈し、規模は3.0×0.4mである。T27とT29で検出された陥し穴状遺構は溝状のもので、いずれも3.5×0.4mほどの規模である。遺物は縄文土器がT2・T3・T14・T15で数点出土している。今回の調査から、段丘縁辺部には縄文時代の遺構が存在する可能性が高い。



第98図 大西遺跡位置図



第99図 大西遺跡調査区位置図

16 ほ場整備事業八重畠地区

大西橋Ⅱ遺跡 (ME 17-0007)

所在地：稗貫郡石巻谷町字八重畠地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成13年11月21日（木）～11月22日（金）

本遺跡はJR東北本線花巻空港駅の東南東約3.2kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部に立地している。現況は主に水田・畑地・宅地である。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、切土予定の田面と道路・管水路予定箇所を対象に21本の試掘トレンチを設定した。

遺跡西側に設定したT1～2では、耕作土床土下層は褐色粘土質シルトの地山面となっていた。畠地に設定したT3～4では、耕作土下層に暗褐色粘土質シルト層が60cm程あり、その下が褐色地山面となっていた。T5～7では、耕作土下層に暗褐色～黒褐色土が厚いところで130cm程堆積していたことから、低湿地か旧河道状の低地であったと推定される。一方、遺跡西側のT8～9及びT11では遺物包含層を検出している。遺物包含層中には、繩文土器片と炭化物粒が含まれていた。遺物包含層の層厚は20cm前後であり、範囲も限られることから、旧河道状の低地への流れ込み等によって形成されたと層と推測される。T12では表土から-105cmの地山面で、径50cmの円形の土坑1基を検出した。検出面の状況から大きな掘方をもつ柱穴の可能性も考えられる。遺跡北側の一段低い田面に設定したT14～21では、繩を多く含む水田床土層があり、その下層は青灰色砂質シルト面となっていた。有機物・小穀等を多く含む層が地表面よりかなり深い位置であったことから、この箇所については、比較的新しい時期の旧河道ないし低湿地であったと推測される。



第100図 大西橋Ⅱ遺跡位置図



第101図 大西橋Ⅱ遺跡調査区位置図

17 ほ場整備事業二子地区関連調査

堰向Ⅱ遺跡 (ME 56-0189)

所在地：北上市二子町西川目64番地2ほか

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

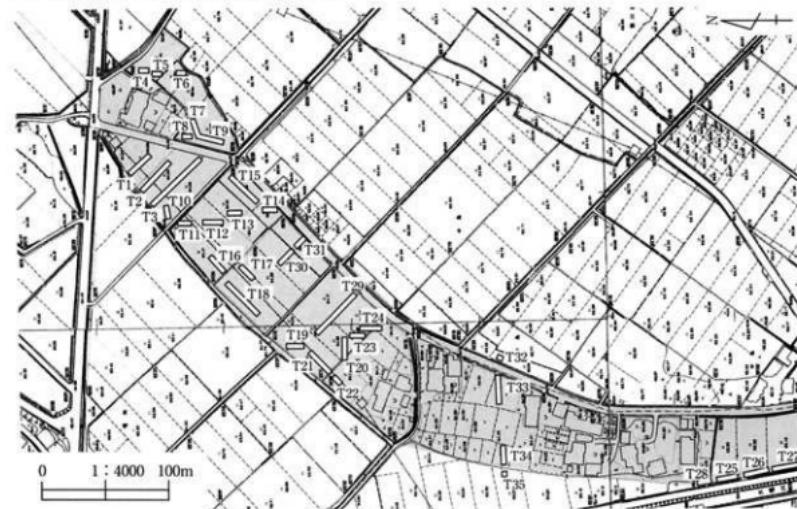
調査期日：平成14年12月3日

本遺跡は、JR東北本線村崎野駅の南東約1km、北上川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡の西側は南東方向に流れる大堰川によって区切られ、旧地形面が残る標高の高い部分が遺跡範囲として細長く括られている。調査区の標高は64m前後で、現況は水田・畑地・宅地となっているが、一部東側の舗装路を含んでいる。

今回は二子地区のは場整備事業に伴って、舗装される支道および掘削される排水路部分を中心に、大区画となる水田面についても試掘調査を実施した。試掘トレンチは35箇所 (T1~T35) 設置したが、多くのトレンチから竪穴住居跡をはじめとする遺構や土器類・須恵器等の遺物が確認された。T1・T2の北西側は大堰川旧河道部への落ち際であり、これより西側 (T13・T16・T29など) に広く平安時代の住居跡が存在しているものと考えられる。その規模は、一辺が3.5~4.0m前後と若干小さめである。確認された住居跡 (T7・T9) の中には、カマドの燃焼部が露出しているものもあって、かつての開田時に造拂上部が削られていた様相も見受けられた。検出された土坑・柱穴および溝跡の大半は、その所属時期等が不明であるが、T18で確認された溝跡の1条はその埋土の状況から、古代に属する可能性を有する遺構である。また、T4~T6付近は深い谷地となっており、ここより北東側には居住域が広がらなものと考えられる。(平成15年度本調査予定)



第102図 堰向Ⅱ遺跡位置図



第103図 堰向Ⅱ遺跡調査区位置図

18 ほ場整備事業二子地区

西川目遺跡 (ME56-1101)

所在地：北上市二子町字鳥喰地内

事業者：北上地方振興局土木部

北上農村整備事務所

調査期日：平成14年10月17日、18日、

12月3日（3日間）

遺跡はJR東日本東北本線村崎野駅の南東約1.2kmの北上川右岸の微高地上に立地する。

標高は61～63mであり、現況は畑地、水田、宅地である。

今回の試掘調査はほ場整備事業に伴うもので、切り土予定の田面、水路、パイプライン埋設予定の農道敷地を中心に戸塚を設定した。

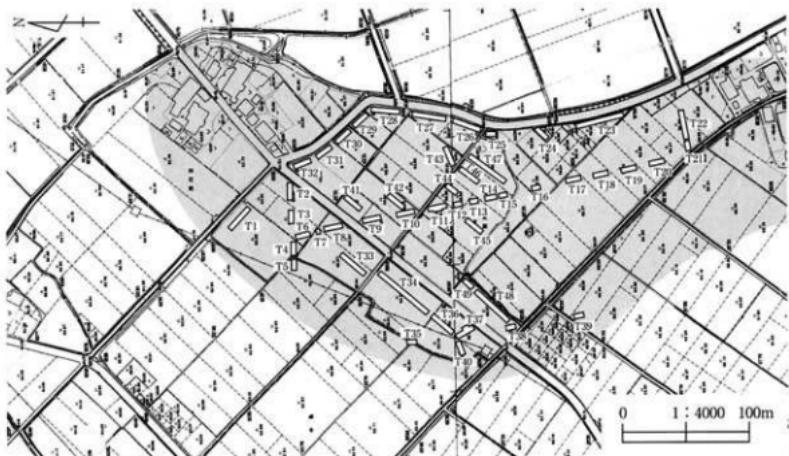
基本層位は第1層；表土、黒褐色土、層厚は35～40cm、第2層；茶褐色土、層厚不明、遺構検出面であった。

その結果、T2、3、6では竪穴住居跡が計3棟、T8では溝1条、T11では竪穴住居跡1棟、T34ではピット1基、T37では竪穴住居跡1棟、ピット2基、T40ではピット5基、T41では前後関係のある溝2条、T42では竪穴住居跡1棟、ピット2基、T49では周溝1条が発見された。遺物は平安時代の土師器が遺構周辺から出土した。また繩文土器、石器、近世陶磁器も出土している。

のことから、今回の事業予定地は平安時代の集落の一部と考えられた。（平成15年度本調査予定）



第104図 西川目遺跡位置図



第105図 西川目遺跡調査区位置図

19 ほ場整備事業二子地区

中島遺跡 (ME56-1263)

所在地：北上市二子町字中島地内

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日：平成14年12月3日（火）

本遺跡はJR東北本線北上駅の北北東約4kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は宅地・水田・畑地である。遺跡の標高は61～62mの平坦面であり、周辺の低地とは0.5～1.5mの比高がある。今回の調査では、切土予定の田面と道路・排水路予定箇所に24本の試掘トレーニングを設定した（T1～24）。

遺跡北側のT1～5では、耕作土及び盛土層が120cm前後であった。T6～11では、耕作土層が15～20cm程度で、その下層は黄褐色ロームの地山面となっていた。遺構は検出されなかったが、T11の耕作土中から土師器小片が出土している。この箇所については、開田の際の削平が推測される。T12～18では、耕作土と地山面の間に暗褐色～黒褐色土層があり、東側の大堀川に向かって層厚を増す状況であったが、T14の南東側で円形の竪穴住居跡1棟を検出した。住居跡の直径は5m程度、埋土中に繩文土器片が含まれていた。検出面は褐色ロームの地山面であったが、竪穴住居跡周辺の遺物の分布は比較的希薄であった。遺跡南側の排水路予定箇所の法面に設定したT19～24では、T21の耕作土下層の黒褐色土層から土師器・須恵器の破片が比較的多く出土した。層位からみて、開田時の擾乱に伴う遺物と考えられる。遺跡南側については、平安時代前期の集落が所在しているものと推測される。



第106図 中島遺跡位置図



第107図 中島遺跡調査区位置図

2 ほ場整備事業新里地区関連調査

香取根館遺跡 (N E 14-2314)

所在地：胆沢町若柳地内

事業者：水沢地区振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月21日

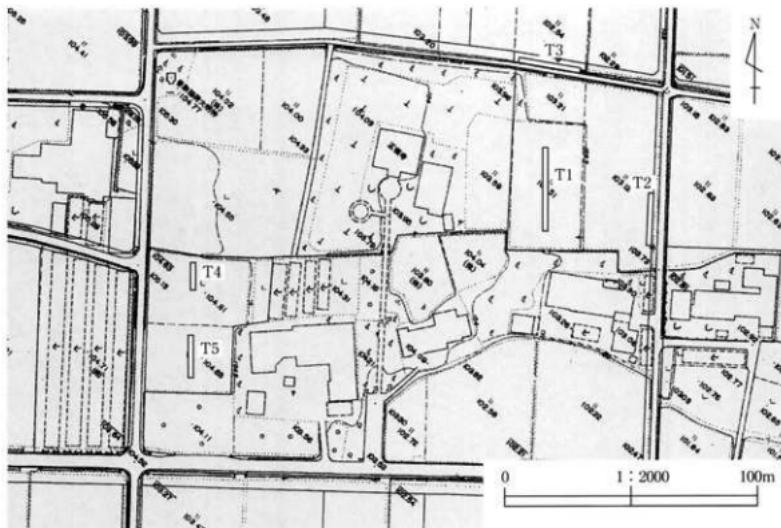
遺跡は、JR東北本線水沢駅の西約8kmに位置し、胆沢川が形成した胆沢扇状地の水沢段丘に立地している。遺跡の現況は、寺院・水田・畠地である。遺跡の標高は102~104mであり、ほぼ平坦である。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、切土予定の田面と道路拡幅箇所に6本の試掘トレンチを設定した（T1~T6）。

T1の田面は、周辺の田面よりも40cm程高くなっている、造構の存在する可能性が予想されたが、現在の耕作土に30~40cm程の盛土をした箇所であることを確認した。道路拡幅箇所に設定したT2とT6では、耕作土と盛土の下層に黒色土の比較的厚い堆積状況が確認された。位置的にみて、堀跡等の可能性が考えられたが、土層の状況から自然の低地と判断した。また、T6の箇所については、周辺の地形から旧河道の存在が推測された。T5では、現在の耕作土の下層に黒色土が10~30cm程あり、地山面から径60cm前後の柱穴2基と、径30cm前後の柱穴7基を検出した。

遺物の出土はなかったために、造構の構築時期は不明であるが、本遺跡は中世～近世にかけての城館跡として周知されている遺跡であることから、当該期の堀立柱建物跡の柱穴の可能性が推測される。



第108図 香取根館遺跡位置図



第109図 香取根館遺跡調査区位置図

21 県営ほ場整備事業満倉地区

中半入遺跡 (N E 15-0264)

所在地：水沢市佐倉河字半入地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月23日～24日

本遺跡はJR東北本線水沢駅の北西約6kmに位置し、肥沢扇状地の水沢段丘高位面に立地している。遺跡の調査地の標高は70～71mのはば平坦面であり、遺跡北端は段丘崖を呈している。今回の調査は、排水路及び農道拡幅箇所に16本の試掘トレンチを設定した（前回からの通算でT130～145）。

T131では現在の耕作土下層に、2層灰褐色砂質シルト層と3層にびい黄褐色砂質シルト層があった。2層中には灰白色火山灰小ブロックと須恵器片・内黒土師器片が含まれていた。3層下層にびい黄褐色土層（4層）では、トレンチの断面から畦畔と水路跡を確認することができた。2～4層については水田耕作土層の可能性が高く、これまでの調査成果から2・3層は平安時代前期の水田跡、4層については古墳時代の水田跡と推測される。T132でも、現在の耕作土下層に2層水田跡と、2×1m程の楕円形の土坑1基を検出した。土坑埋土中には土師器等の破片が多量に含まれていた。一段低い田面に設定したT133では2～4層が希薄となり、更に低い田面に設定したT134では水田耕作土層は残存せず、現在の耕作土直下が6層暗灰褐色土面となっていた。T135～138でも2～4層水田跡を検出したが、T139で希薄となりT140では水田跡は存在しなかった。（平成15年度本発掘調査予定）



第110図 中半入遺跡位置図



第111図 中半入遺跡調査区位置図

22 は場整備事業 満倉地区

兵法田遺跡 (N E 15-0311)

所在地：水沢市佐倉河字西田中地内

事業者：水沢地方振興局

水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月23日、12月14日（2日間）

遺跡はJR東日本東北本線水沢駅の西約3kmの胆沢扇状地上に立地する。

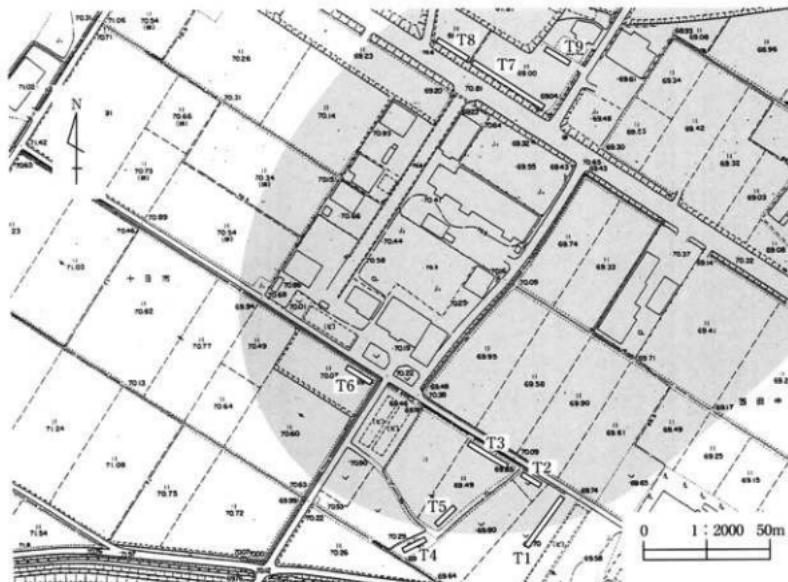
今回はは場整備事業に伴い、切り土予定の田面、水路等に試掘トレレンチを入れ、遺構、遺物の有無を確認した。

その結果、次の基本層序が確認された。第1層、耕作土、層厚0.18m、第2層、茶褐色シルト、層厚0.14m、遺構確認面、第3層、黒褐色土、層厚0.18m、第4層、茶褐色シルト、層厚0.2m以上。

T1では、第2層上面で、27基以上のピットが発見された。遺構埋土は灰褐色土が多く、土器器、炭化物を含んでいた。直径は0.2~0.5mのものである。また溝2条が確認された。遺構が確認された面から、さらに掘り下げを行い遺構、遺物の確認を行ったが、確認できなかった。T2でも、同様のピット2基が発見された。T3、4、5では、耕作土下に粘土層が堆積しており、遺構等は確認できなかった。T6では表土下の粘土層から近世陶器片が出土した。T7~9では遺構、遺物とも発見されなかった。（平成15年度本調査予定）



第112図 兵法田遺跡位置図



第113図 兵法田遺跡調査区位置図

23 ほ場整備事業寺領小林地区

古城上野遺跡 (N E 46-1109)

所在地：前沢町古城字寺領上野地内

事業者：水沢地方振興局

水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月15日～16日

12月6日（3日間）

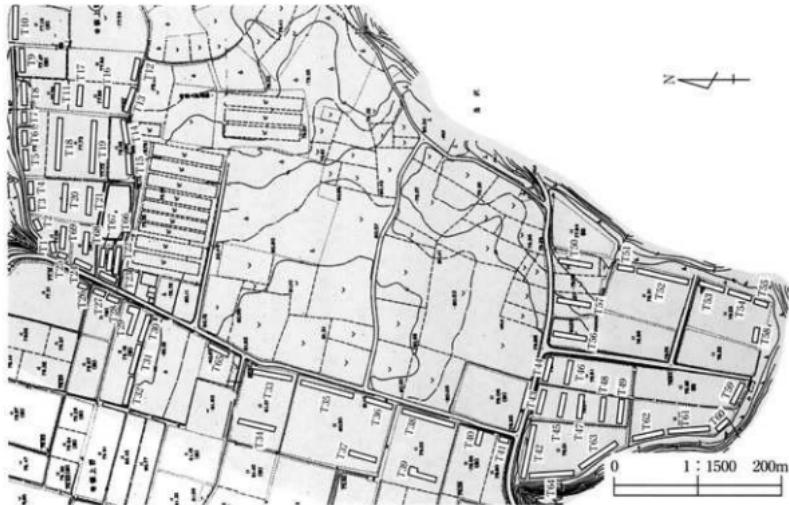
遺跡はJR東日本東北本線前沢駅の北約3kmの丘陵先端に位置する。

ほ場整備にあたり、水路、道路、切り土田面予定地に試掘トレンチを入れ、遺構、遺物の有無を確認した。

その結果、T7では坑1基、T8、12では溝跡、T42では、縄文時代前期の遺物包含層、ピット1基が発見された。T43ではピット1基が発見された。T48では石器、土器を含む遺物包含層1枚、ピット2基が発見された。T49では2枚の遺物包含層が発見された。T52では褐色土の耕作土0.15m、盛土0.35mの下から褐色土を埋土とする遺構群が発見された。断面観察により深さ0.5mの竪穴住居、ピット2基、T50ではピット2基が発見された。T39では、ピット2基が発見された。T56ではピットが3基、T57では竪穴住居跡2棟、ピット8基が見つかった。T59ではピット2基が発見された。T63では遺物包含層であることが確認された。縄文時代中期と思われる。（平成15年度本調査予定）



第114図 古城上野遺跡位置図



第115図 古城上野遺跡調査区位置図

24 ほ場整備事業寺領小林地区関連調査

NE46-0198遺跡

所在地：前沢町古城字寺領上野地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月15日

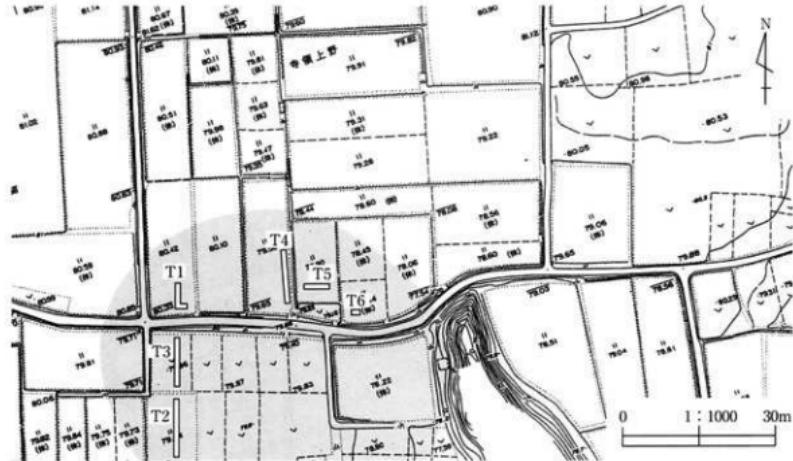
遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南西約2kmに位置し、胆沢川によって形成された胆沢扇状地中位段丘である横道段丘上に立地している。この段丘面の東端には、古城上野遺跡が所在し、本遺跡に近接して、NE46-0165遺跡等が所在している。

本遺跡の標高は、78~80m前後を測り、現況は、主に水田及び畑地となっている。

今回の試掘調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の田面及び拡幅される農道部分が調査対象区域である。調査対象区域に、6本の試掘トレンチを設定した(T1~T6)。今回の調査範囲内の土層は、いずれのトレンチにおいても次の層序であった。第Ⅰ層は現在の耕作土である表土(層厚15cm)、第Ⅱ層は黒色粘土層(層厚15cm)、第Ⅲ層は地山である黄褐色～灰褐色粘土(層厚不明)であった。精査の結果、T1において、表土下20cmにおいて溝1条が検出された。この溝は、幅50cmであり、深さは20cm以上であることを確認している。埋土は、茶褐色を呈していた。土器等の遺物は遺構及び遺構周辺からは確認できなかつたため、溝の構築時期は不明である。T2においては、トレンチ南端にかけて造成時のものと思われる盛土層が厚くなっていた。T3~T6においては、過去の造成時に行われたと思われる地形変更が著しく、現耕作土直下に基盤層である黄褐色～灰黃褐色粘土層があらわれた。今回の調査では、土器等の遺物は確認できなかつた。



第116図 NE46-0198位置図



第117図 NE46-0198調査区位置図

25 ほ場整備事業寺領小林地区関連調査

N E 46-0165遺跡

所在地：前沢町古城字寺領上野地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月15日～16日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南西約2kmに位置し、胆沢川によって形成された胆沢扇状地中位段丘である横道段丘上に立地している。標高は80m前後を測り、現況は、畑地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の田面、畑地と排水路敷設予定箇所及び遺跡隣接区域に、11本の試掘トレンチを設定した（T1～T11）。

精査の結果、T1において第Ⅲ層上面で土坑1基が検出された。その規模は、126cm×50cmであり、楕円形のプランを呈している。土坑埋土表面には、炭化物粒が認められたが、検出遺構周辺からは、土器等の遺物は確認できなかったため、遺構の構築時期は不明である。T1において、この遺構以外の遺構は検出されなかった。T2～T11のトレンチにおいては、遺構及び遺物は確認できなかった。いずれのトレンチにおいても、層序は、第Ⅰ層表土（現耕作土）、第Ⅱ層黒みがかった黄褐色土（漸移層）、第Ⅲ層黄褐色土（地山）であり、表土から検出面までの深さは約25cm程度であった。

過去において、現在畑地となっているところから、近世陶器の破片が表面採集されているが、それ以外の遺物等は、今回の調査範囲内も含めて確認されていないため、本遺跡の性格及び時期等について確定することは、現在のところ難しい。



第118図 NE46-0165位置図



第119図 NE46-0165調査区位置図

26 は場整備事業明後沢上野地区

明後沢遺跡群 (NE36-2175)

所在地；胆沢郡前沢町古城字明後沢他

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

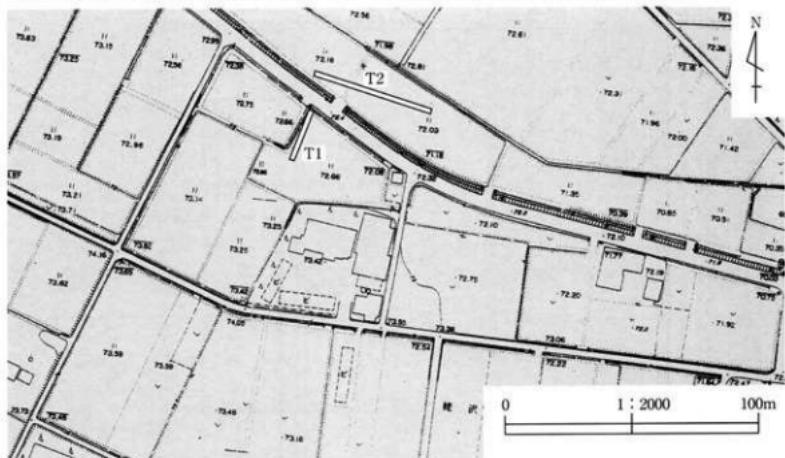
調査期日；平成14年6月20日(木)

本遺跡はJR東北本線前沢駅の北約4.5kmに位置し、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘縁辺部に立地する。この中位段丘は北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析され、舌状台地を呈する。遺跡の中央部は主に水田として利用され、散居を呈する宅地と畠地が点在している。一方、段丘縁辺部は主に畠地として利用されている。今回の調査は、排水路設置箇所の変更に伴うものであり、設置予定箇所に2本の試掘トレンチを設定した(T1~2)。

T1では、トレンチ中央で溝跡1条を検出した。溝跡の幅は85cm程で、検出面は地山の黄褐色ローム面である。更に、溝跡の周辺から土坑1基と柱穴状の小土坑5基を検出した。造構埋土や周辺から遺物や火山灰等が確認されなかったことから造構の年代は不明であるが、溝跡と柱穴状土坑等の埋土の状況が類似していることから、これらの造構は同様の年代が想定される。この箇所については、現在の耕作土直下が黄褐色ローム面であったことから、以前のは場整備等で削平が行われていたと考えられる。T2では、現代の耕作土の下層に盛土層があり、旧水田耕作土を挟んで地山ローム面となっていた。この箇所については低湿地状を呈しており、造構・遺物は確認されなかった。今回の試掘調査で造構が確認された箇所については、平成14年度財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの本発掘調査区に組入れることになった。



第120図 明後沢遺跡群位置図



第121図 明後沢遺跡群調査区位置図

27 は場整備事業一関第1地区

高玉遺跡 (NE 76-2163)

所在地：平泉町長島字高玉地内

事業者：一関地方振興局

一関農村整備事務

調査期日：平成14年11月11日～13日

12月12日（4日間）

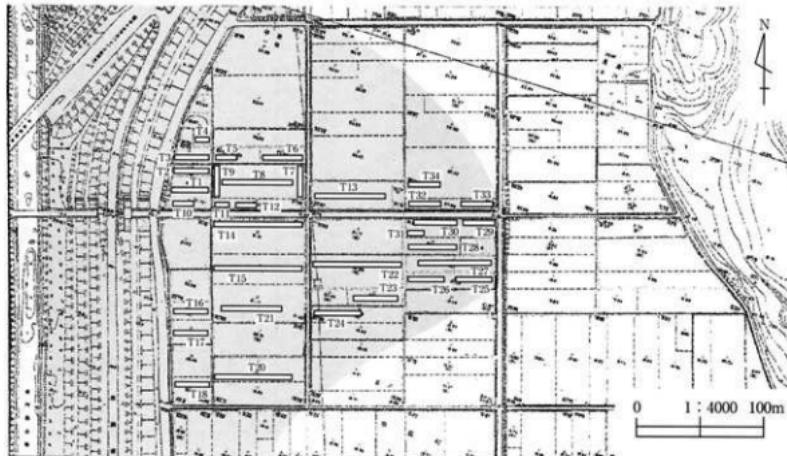
遺跡はJR東日本東北本線平泉駅の南東約1.5kmの北上川右岸に立地する。現況は畑地、水田、宅地である。

今回の発掘調査はは場整備事業に伴い、水路、道路、切り土予定田面を中心に試掘トレンチを入れ、遺構、遺物の有無を確認した。溝はT2で2条、T14で2条、T15で11条、T18で2条、T21で1条、T22で10条、T23で2条が発見された。埋土には火山灰（十和田a）が含まれるものと、明黒褐色土があり、埋土の違いから時期差があるものと思われる。ピットはT8で2基、T10で1基、T11でピット3基、T12で1基、T13で3基、T14で15基、T17で4基、T21で3基、T22で4基が確認された。T27では、竪穴住居跡2棟、ピット7基、焼土5基、T28では、溝1条、ピット2基、焼土1基、T30では溝1条、T31では、焼土1基が発見された。遺構の所属時期は、出土遺物から平安時代、12世紀代と判断した。

こうしてみると、現農道を中心に12世紀代の遺構が集中し、その周囲に平安時代の溝状遺構が分布していることが判明した。12世紀代の遺構の下には平安時代の集落跡があり、一部で重複していると考えられた。（平成16年度本調査予定）



第122図 高玉遺跡位置図



第123図 高玉遺跡調査区位置図

28 は場整備事業渋民地区関連調査

水無 I 遺跡 (N F 61-1137)

所在地：大東町渋民字水無地内

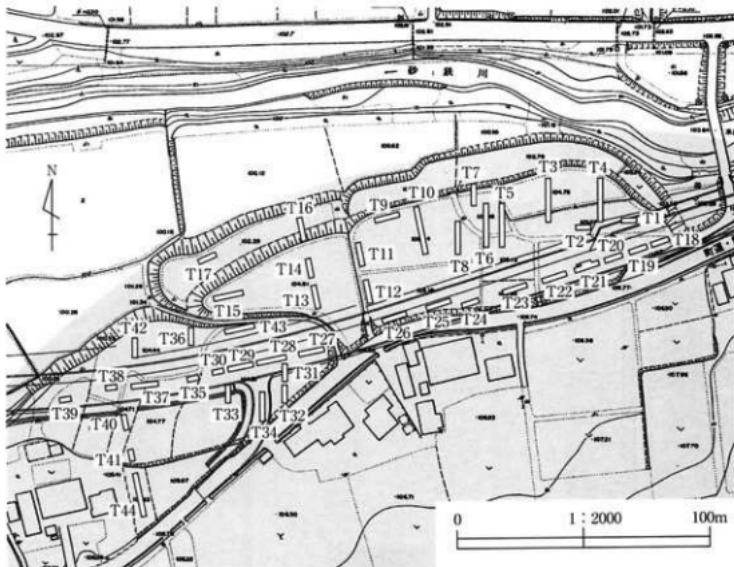
事業者：千賀地方振興局千賀農村整備事務所

調査期日：平成14年11月18日～19日（2日間）

遺跡は、大東町役場より西南西約6.0kmの砂鉄川左岸にある河岸段丘上の立地し、標高は104m前後を測り、現況は主に水田となっている。今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、切土となる田面、農道及び排水路敷設箇所及び新設道路建設予定箇所が対象である。調査対象区及び遺跡隣接箇所に、トレンチを44本設定した（T1～T44）。今回の調査区における基本層序は、第I層水田耕作土、第II層灰褐色土（水田床土）、第III層黒褐色土、第IV層黒色土、第V層灰褐色～灰褐色粘土質土（地山）、第VI層黄褐色砂層、第VII層黄褐色砂礫層となっている。今回の調査区において、最上位の段丘縁辺部に設定したT3、T10、T14、T36では、基本層序の第VII層にあたる黄褐色砂礫層が、表土下わずか40cmであらわれたこと、段丘斜面に設定したT16における層序から、比高差2mもある下位の段丘面はすでに地形が改変されていることがわかったために、トレンチを設定しなかった。調査の結果、T4、T5、T22、T23及びT37から土坑が検出された。T28では、その埋土に繩文土器を含む260cm×90cm大の長楕円形のプランを呈する土坑が検出された。T5では、65cm×180cm大の長方形の土坑が検出され、繩文時代の墓壙と考えられる。T42では、竪穴住居が1棟検出された。その埋土には大量の炭と焼土が認められたこと、埋土上面から土師器が出土していることから、平安時代の焼失住居であると判断される。



第124図 水無 I 遺跡位置図



第125図 水無 I 遺跡調査区位置図

29 ほ場整備事業浜民地区関連調査

伊勢堂Ⅲ遺跡（N F61-1007）

所在地：大東町浜民字伊勢堂地内

事業者：千葉地方振興局千葉農村整備事務所

調査期日：平成14年12月25日～26日（2日間）

遺跡は、大東町役場より西約4kmの砂鉄川右岸にある河岸段丘低位面に立地し、標高は99m～100m前後を測り、現況は主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土となる田面、農道（灌水路敷設）設置箇所が対象である。調査対象区に、試掘トレンチを31本設定した（T1～T31）。調査中に、旧来の遺跡範囲を越えて構造が確認されたため、新規遺跡「伊勢堂Ⅲ遺跡」として調査を進めた。今回の調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土（水田耕作土）、第Ⅱ層暗褐色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層砂層（地山）となっている。

精査の結果、T20、T23、T25、T27、T28において、縄文時代晩期の土器を含む遺物包含層を確認した。遺物包含層は基本層序の第Ⅱ層～第Ⅳ層にあたり、その厚さはT20において約60cmであり、特に第Ⅲ層～第Ⅳ層にかけて大量の土器が含まれていた。T21では土器が2点出土したが、包含層は確認できなかった。遺物包含層は、T28及びT24でも確認できた。T28北端部での遺物包含層は、30cmの厚さであったが、トレンチ中央部付近にかけてその遺物包含層が徐々に薄くなり、第Ⅱ層直下で地山が認められた。T25では、表土下20cmに遺物包含層が認められたが、トレンチの東端部にかけて薄くなり地山である砂層があらわれた。今回の調査で確認された遺物包含層は、旧河道の流れが緩くなった部分に形成されたものであると考えられる。



第126図 伊勢堂Ⅲ遺跡位置図



第127図 伊勢堂Ⅲ遺跡調査区位置図

30 は場整備事業渋民地区関連調査

佐野脇遺跡 (NF61-0194)

所在地：東磐井郡大東町渋民字佐ノ脇地内

事業者：千葉地方振興局千葉農村整備事務所

調査期日：平成14年12月17日・18日・25日

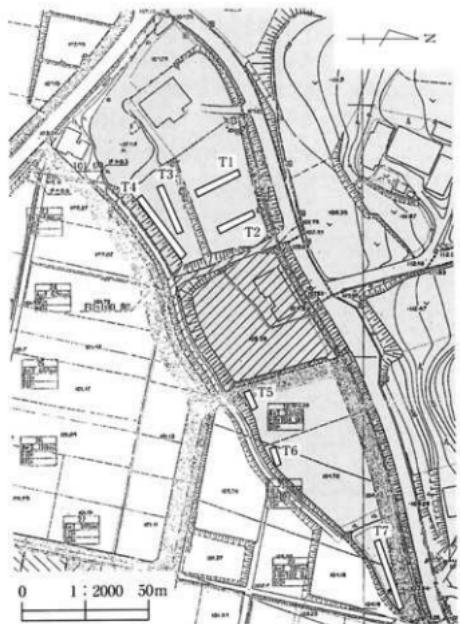
本遺跡は、東日本旅客鉄道大船渡線沼沢駅の北東約3.5km付近にあって、砂鉄川右岸の河岸段丘上に立地する。現況は、主に水田・宅地・山林となっており、調査対象箇所の標高は104.5m前後である。

今回の調査は、県営は場整備事業に係るもので、主に切土予定の田面を対象として、7本の試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した(T1~T7)。

T1では構造は確認されなかったが、耕作土中から縄文土器片が出土した。T2からは直径20~40cmほどの柱穴2基が検出されたが、時期は不明である。T3の南端、耕作土下20cmの砂層からは竪穴住居跡1棟が確認され、埋土に土師器が含まれていたことから、古代(平安時代)に所属するものと思われる。規模は確認できなかった。段丘縁に設定したT4・T5・T6では、円形プランを呈する縄文時代の竪穴住居跡がそれぞれ1棟ずつ検出された。T4で確認された住居跡の規模は直径4mほどと推測され、埋土には炭化物や晩期の遺物が含まれていた。T5・T6における住居跡の検出状況もT4と同様で、出土した遺物から時期は、縄文時代晩期と思われる。T7では耕作土下がすぐ砂礫層となり、東側に向かって傾斜する地形であることが確認された。



第128図 佐野脇遺跡位置図



第129図 佐野脇遺跡調査区位置図

これらのことから、縄文時代の集落は、主に遺跡南端の段丘縁に細長く、古代のそれは北側の一段高い面を中心に展開するものと考えられる。

なお、本遺跡は、今回の試掘調査を受けて、遺跡範囲が大きく拡大されたが、それについては、第128図に示したとおりである。

31 ほ場整備事業大川目地区関連調査

外里遺跡 (JF38-0255)

所在地：久慈市大川目町地内

事業者：久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日：平成14年11月11日・12日

遺跡は、東日本旅客鉄道八戸線久慈駅の西南西約4.8kmに位置し、久慈川左岸の丘陵緩斜面に立地している。遺跡の東側には久慈川の支流である田子内川が南流している。遺跡の標高は25m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。

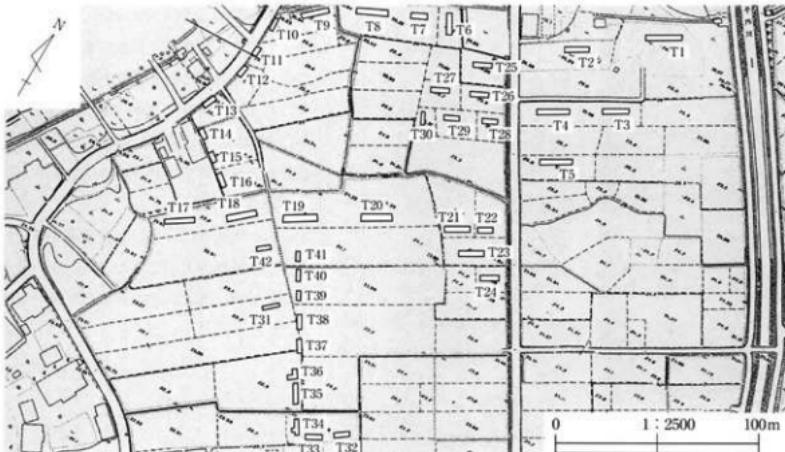
今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、新設水路部分・新設農道部分・切り土になる田面に幅約180cmのトレンチを42本設定して実施した (T1~T42)。

調査の結果、T34・T40において土坑が検出された。T34の土坑は平面形が円形で、規模は径が90cmほどである。T40の土坑は焼土粒・炭化物を伴い、焼土遺構の可能性もある。規模は径が約60cmである。また、T36において焼土遺構が検出されている。規模は120×130cmほどである。単独の焼土遺構であるか住居跡に伴うものであるかはトレンチからは確認できなかった。遺物はT7・T18・T19・T20・T21・T34・T35・T36・T40・T42で縄文土器が少量出土しているほか、T6で古錢が5枚出土した。

今回の調査から、調査区北側はグライ化した層が存在し、旧河道と思われる落ち込みが見られたことから遺構の存在する可能性は低いが、調査区中央部付近から南側にかけては、開田の影響があるものの遺構が存在する可能性がある。また、遺跡全体で見た場合、付近の住民からの話によると、事業区域外の北側緩斜面の畑地において土器の散布が見られるということから、遺跡の主体部はその緩斜面付近と推定される。



第130図 外里遺跡位置図



第131図 外里遺跡調査区位置図

32 中山間地域総合整備事業鹿蹄の郷地区関連調査

和野ソマナイ遺跡 (K G 22-1355)

所在地：田野畠村和野599番地の3ほか

事業者：宮古地方振興局農政部

調査期日：平成14年8月27日

遺跡は、三陸鉄道北リアス線田野畠駅の西南西約2.5~3.0kmにあって、海側に向かって緩く傾斜する海岸段丘上に立地する。遺跡の標高は211~223mほどで、現況は畠地および山林である。

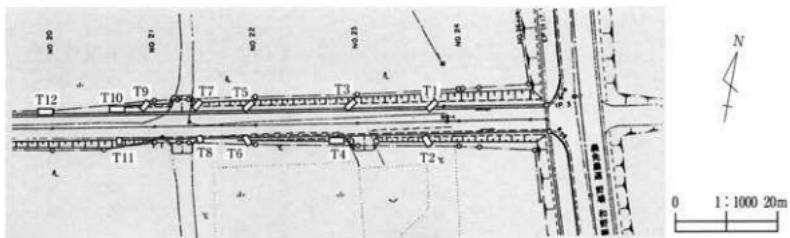
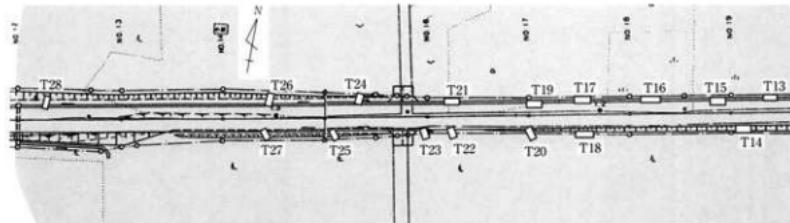
調査は、中山間地総合整備事業に伴う道路側溝設置箇所について実施した。設置予定地内の試掘トレンチは、幅0.8~1.5m、長さ1.5~4.0mのものを28本設定した。同じく調査を行った和野新懇神社遺跡とは、沢によって区切られているが、その沢地形部分にもトレンチを1本設定し、遺構・遺物の有無を確認した。

その結果、T9・T10・T12・T13・T19において住居跡・土坑等の遺構が検出された。T9では、古代に属する可能性のある炭化物を含む方形プランと、それと重複する遺構（土坑？）が、T10・T12・T13では、縄文時代の竪穴住居跡と思われる円形のプランが確認された。いずれも、規模等はトレンチが小さく不明であった。また、T26では配石様の礫集中箇所が認められた。配石となるかは不明であるが、ボーリング調査によると、周辺数mの範囲に礫は散在するようであった。遺物は、T15・T18で縄文時代中期と思われる土器片が出土しており、当該期の集落が存在することを窺わせた。本遺跡は、隣接する和野新懇神社遺跡同様、縄文時代中期を主体とする集落跡と思われるが、古代の遺構も存在する可能性がある。

なお、二つの遺跡を区切る沢部分からは、遺構・遺物は確認されなかった。（平成15年度本発掘調査予定）



第132図 和野ソマナイ遺跡位置図



第133図 和野ソマナイ調査区位置図

33 中山間地域総合整備事業鹿蹄の里地区関連調査

和野新塹神社遺跡 (K G 22-1262)

所在地：田野畠村和野地内

事業者：宮古地方振興局農政部

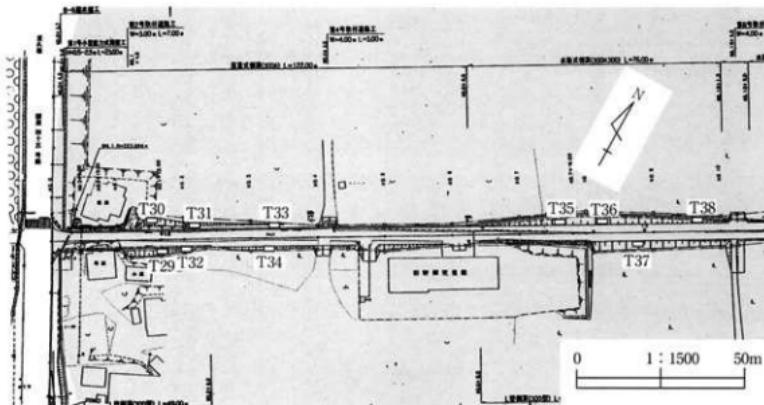
調査期日：平成14年8月27日・9月6日（2日間）

遺跡は、三陸鉄道北リアス線田野畠駅の西南西約2.5～3kmに位置し、太平洋側に向かって緩やかに傾斜する海岸段丘上に立地している。遺跡の標高は、211～223mほどで、現況は主に畠地及び山林である。

今回の調査は、中山間整備事業に伴うもので現農道に隣接して敷設予定の道路側溝設置予定箇所が対象である。現農道は、本遺跡と隣接する和野ソマナイ遺跡のはば中央を横切っており、和野ソマナイ遺跡とは、本遺跡東端部にある沢で区切られてはいるが、調査は、和野ソマナイ遺跡の調査に連続させて行い、試掘トレンチも連続して設定した（T29～T38）。調査区の基本層序は、現表土である第Ⅰ層（森林腐食土）、黒褐色シルト質土（部分的に存在）、縄文時代の遺物包含層と思われる第Ⅲ層褐色シルト質土、第Ⅳ層黄褐色粘土質シルト（地山・花崗岩を含む）となっている。現農道は、国道45号線に西接しているが、農道入り口付近は道路が切土されて作られていた。その他の部分は、旧地形が良好に残っていたが、精査の結果、遺構は確認できなかった。遺物は、T33及びT34の第Ⅲ層から出土した。また、農作物があつて調査できなかったT34とT35間の畠地部分で、縄文時代中期を主体とする土器や磨製石斧が採取された。T39の埋没沢付近は、地形が改変されており、遺構・遺物は確認できなかった。（平成15年度本発掘調査予定）



第134図 和野新塹神社遺跡位置図



第135図 和野新塹神社遺跡調査区位置図

34 畑地帯総合整備事業舌崎地区関連調査

釜沢館跡 (IE 79-1077)

所在地：二戸市釜沢字上野平50番地 2地先ほか

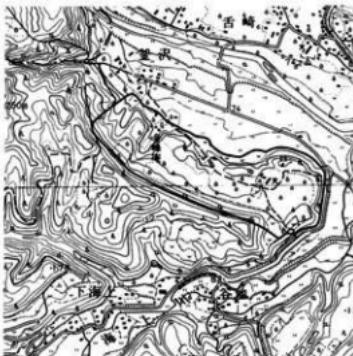
事業者：二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日：平成14年11月11日・12日

本遺跡は、いわて銀河鉄道東北本線金田一温泉駅の北西約3.7km付近に位置し、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地する。このうち、馬淵川に面した箇所では、比較的急峻な段丘崖となって、いくつかの旧河道を挟みながら起伏に富んだ地形を呈している。遺跡の大部分は、りんご畠として利用されている。

今回の調査は、畑地帯総合整備事業に伴って、農道および管水路設置予定箇所を対象に、55本の試掘トレンチを設定した (T1~T55)。その結果、T52では中揮面に径90cmあまりのフラスコ土抗1基を検出した。断面形状から、绳文時代に属する遺構と思われる。隣接するT48でも径120cmの土抗1基を検出したが、時期は不明である。T54では、幅10~15mほどの黒色土の落ち込みを確認し、最大で厚さ50cmあまりの灰白色火山灰が堆積していた。自然の埋没沢の可能性もあるが、平安時代以降の溝等の可能性も残される。T55より西側については、灌木が多く調査が行えなかったが、T55よりも一段高い面に幅3~4mほどのテラス状に張り出す平坦地が確認された。これが、城館に関連する遺構か否かは今回明らかにできなかった。

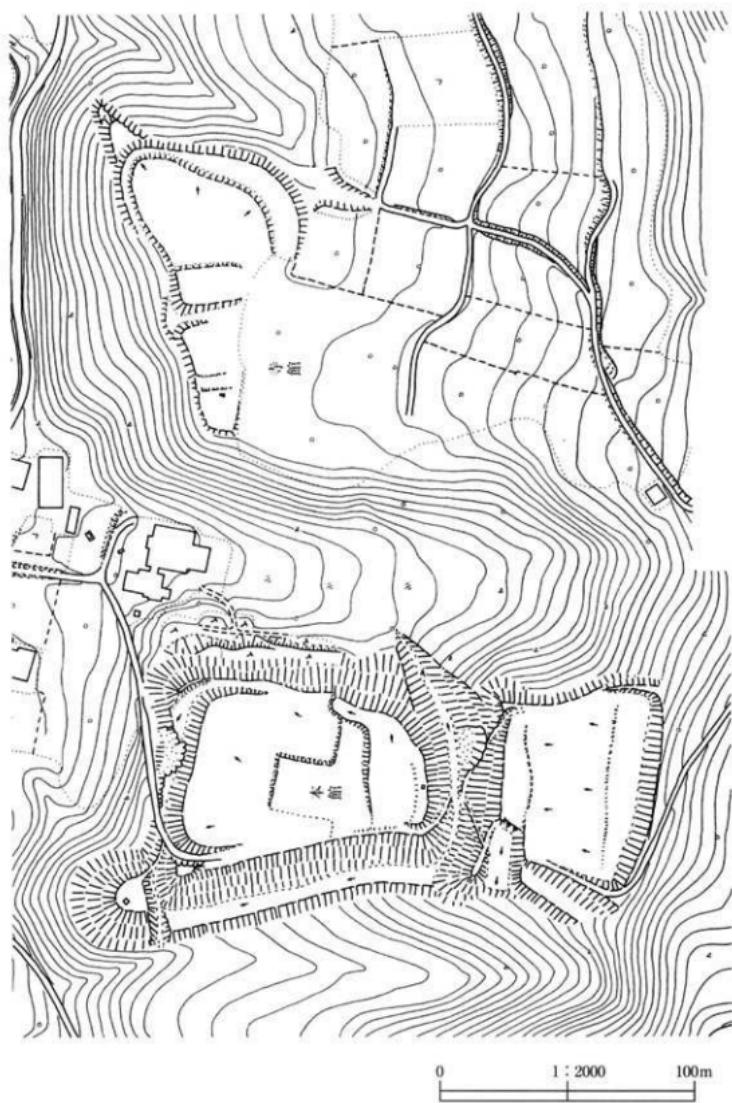
遺跡西側は、現地踏査および第138図の縄張図にあるように、館の中枢部が含まれていることは明らかであり、現況で大規模な堀跡と方形の平場が確認できた。一方、遺跡の東側については、本来起伏がある地形を平原に造成し畑地とした様相が観察された。(平成15年度本調査予定)



第136図 釜沢館位置図



第137図 釜沢館調査区位置図



第138図 金沢館網張図（室野秀文氏作成）

35 畑地帯総合整備事業舌崎地区

雨滝遺跡（IE 79-1126）

所在地：二戸市金田一字雨滝地内

事業者：二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日：平成14年11月14日～15日

本遺跡はIGRいわて銀河鉄道金田一温泉駅の北西約2.9km付近に位置し、馬淵川右岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は宅地・畠地・リンゴ畠であり、馬淵川に向かって南下がりの緩斜面となっている。本遺跡は昭和30年代に明治大学が学術調査を実施し、縄文時代晚期の定形土器や土偶等が多数出土したことで著名である。今回の調査は、管水路予定箇所を対象に11本の試掘トレンチを設定した（T1～11）。

遺跡北東部の生活道路に設定したT3～4から遺物包含層と土坑を検出した。遺物包含層には縄文時代晚期の土器が多数含まれていた。包含層下層の中揮浮石層上面では、径80cmの円形の土坑と、径50×70cmの楕円形の土坑を検出した。T3～4の地点は、明治大学の調査地点の南側に隣接している。T5では、地表下45cmで灰白色火山灰ブロック層を確認したもの、T3～4から連続するような遺物包含層は検出されず、中揮浮石層も確認されなかった。T7では、耕作土下層に黒褐色土中に多量の土器片を包藏する遺物包含層を検出した。遺物包含層の層厚は35cm前後で、縄文時代晚期の土器が主体であった。遺物包含層の下層は中揮浮石を含む暗褐色土層となっており、遺構検出面の可能性が考えられたが、トレンチ内では遺構は確認されなかった。一方、遺跡西側の農道部分に設定したT1～2とT10では、中揮浮石層が確認される遺構・遺物等は確認されなかった。今回の調査範囲のうち、北東側の標高の比較的高い箇所（明治大学の調査地点周辺）が遺跡の中心であったと推測される。



第139図 雨滝遺跡位置図



第140図 雨滝遺跡調査区位置図

36 土地改良総合整備事業

大文字遺跡 (ME96-0249)

所在地：江刺市福瀬町地内

事業者：水沢地方振興局

水沢農村整備事務所

調査期日：平成14年10月21日～22日

(2日間)

遺跡はJR東日本東北新幹線水沢江刺駅の北北東約9kmに位置し、北上川と広瀬川に挟まれた沖積平野の中の微高地に立地する。

標高は44m前後であり、現況は畑地、水田、宅地となっている。

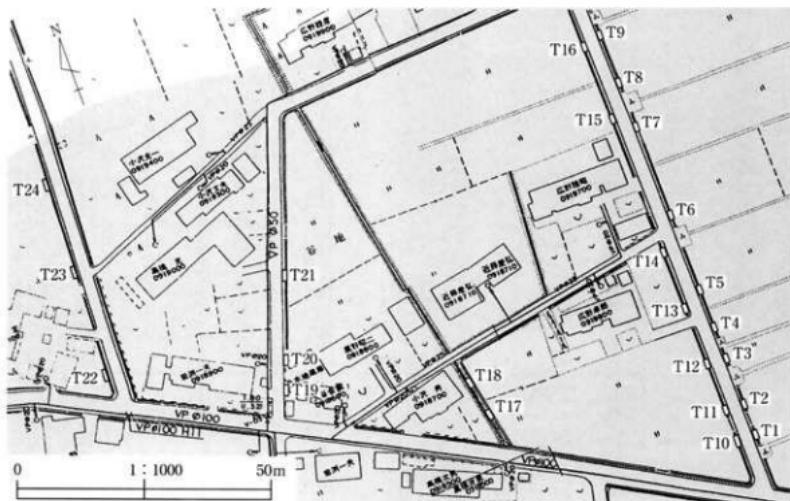
今回は農業用パイプライン設置のため、事業予定地内の遺構、遺物の有無を確認するために試掘トレンチを設定した。

調査の結果、T3では住居跡が1棟、T19では土坑が1基と完形に近い土師器の甕が出土した。T1～3、T6、T10～12、T17、T19からは繩文土器、土師器、須恵器が出土した。

のことから、事業予定地において埋蔵文化財が確認された。これを受け、工事内容の一部を変更し、地下の遺構、遺物に影響がでないように、設計、工法を変更した。



第141図 大文字遺跡位置図



第142図 大文字遺跡調査区位置図

37 土地改良総合整備事業江刺西部地区

鶴羽衣遺跡 (ME96-0223)

所在地：江刺市稻瀬町鶴羽衣台地内

事業者：水沢地方振興局

水沢農村整備事務所

調査日：平成14年10月21日

遺跡はJR東日本東北新幹線水沢江刺駅の北北東約9.5kmに位置し、北上川と広瀬川に挟まれた沖積平野中に立地する。

標高は45m前後であり、現況は水田、新幹線用地となっている。昭和40年代後半には新幹線建設に先立ち発掘調査が実施されている。

今回は農業用パイプライン設置のため、事業予定地内

の遺構、遺物の有無を確認するために試掘トレンチを設定した。

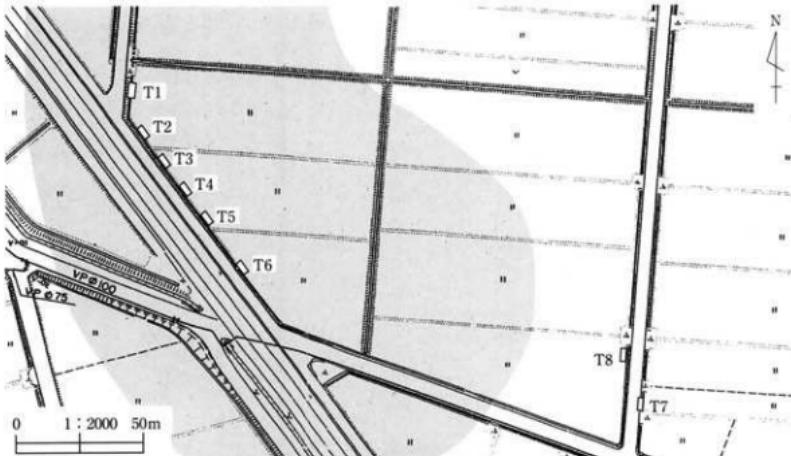
基本層序は第1層、耕作土、褐色土、層厚0.3m、第2層、褐色粘土層、層厚不明、遺構確認面であった。

調査の結果、T3、T4では住居跡が各1棟、遺物は、土器片の出土があった。住居跡埋土は赤色粒子、炭化物が混じる灰褐色土であった。T2、T5では遺構、遺物の出土は見られなかったので、遺構、遺物はここまで広がらなかったと考えられる。T6とT7間の県道沿いは、過去に試掘調査が終了し、遺構、遺物が確認されなかった道路拡幅敷地内をパイプが通るため、試掘トレンチを設定しなかった。

のことから、事業予定地内的一部分において埋蔵文化財が確認された。これを受け、工事内容の一部を変更し、地下の遺構、遺物に影響が出ないように、設計、工法を変更した。



第143図 鶴羽衣遺跡位置図



第144図 鶴羽衣遺跡調査区位置図

38 土地改良総合整備関連調査

田屋館遺跡（L E23-1129）

所在地：半石町西安庭地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成14年10月5日

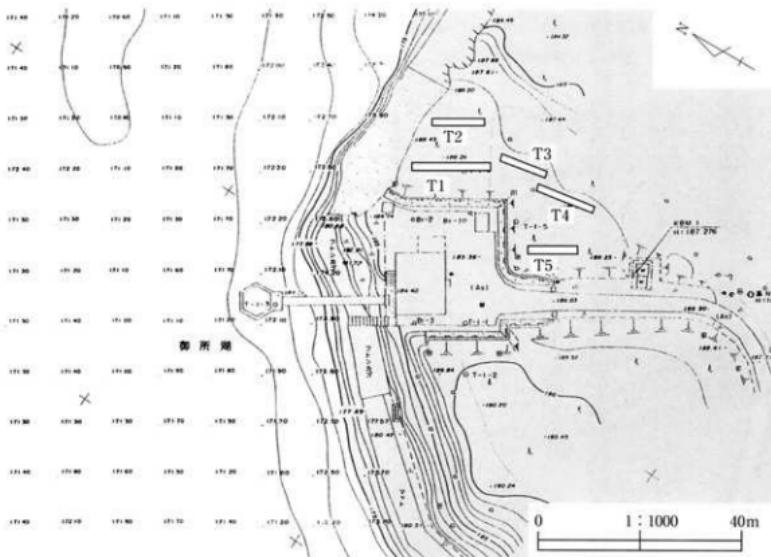
本遺跡は、JR秋田新幹線・田沢湖線半石駅の南東約3.2kmに位置し、御所湖に舌状に突き出す丘陵上に立地する。遺跡の一部は、かつての御所ダム建設の際に発掘調査が実施され、その箇所は既に水没している。遺跡の標高は185m前後で、現況は山林および水田である。

田屋館跡は城主不明の中世城館で、堀と土塁によって区切られる2つの曲輪を有しているが、今回の対象箇所は、北側の曲輪と思われる平坦地部分である。

調査は、既設の揚水機改修工事の仮設ヤードとなる箇所に、幅1.2m・長さ6.5~10mの試掘トレンチを5本設定して行った（T1~5）。結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物が確認され、前者ではT2・T3・T4から縄文時代に属すると思われる竪穴住居跡が計3棟、T1・T2・T5からは直径40~50cmほどの柱穴が直線状に検出された。柱間は1.9~4.4mと区々であるが、城館期の掘立柱建物を構成する柱穴群の可能性もある。この他、柱穴はT3・T4においても検出された。また、T3では直径70cmほどの土坑が2基確認されているが、その検出面から時期は縄文時代と考えられる。後者では、縄文時代前・中期を主体とする土器片と石器剥片が出土し、このことからも周辺に該期の遺構が存在する可能性は高いものと考えられる。また、城館期に属する可能性のある柱穴が存在することから、本遺跡は縄文時代と中世の複合遺跡であることが明らかとなった。



第145図 田屋館遺跡位置図



第146図 田屋館遺跡調査区位置図

39 地域振興支援道路ネットワーク整備事業

清田台遺跡 (N F91-1291)

所在地；千葉町清田字台2-3ほか

事業者；千葉地方振興局千葉農村整備事務所

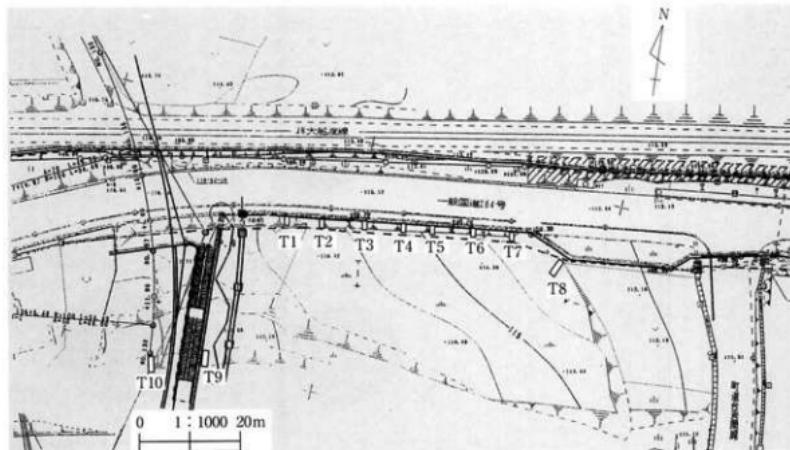
調査期日；平成14年10月4日

本遺跡は、JR大船渡線千葉駅の東約1.5kmにあって、千葉川の支流、金田川右岸の斜面上に立地している。遺跡の標高は112~120mほどで、現況は水田・畑地・道路となっている。平成11年度にはふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期を主体とする遺構・遺物が数多く確認されている。今回の試掘調査は、国道284号線に沿って設置されている側溝の入れ替え工事に伴って実施したもので、トレンチは幅0.7m×長さ0.5~12m程度のものを10本 (T1~T10) 設定した。このうちT9・T10は、平成11年度の調査以降法面となって残っていた箇所に急速設けたトレンチであるが、遺構・遺物は確認されなかった。

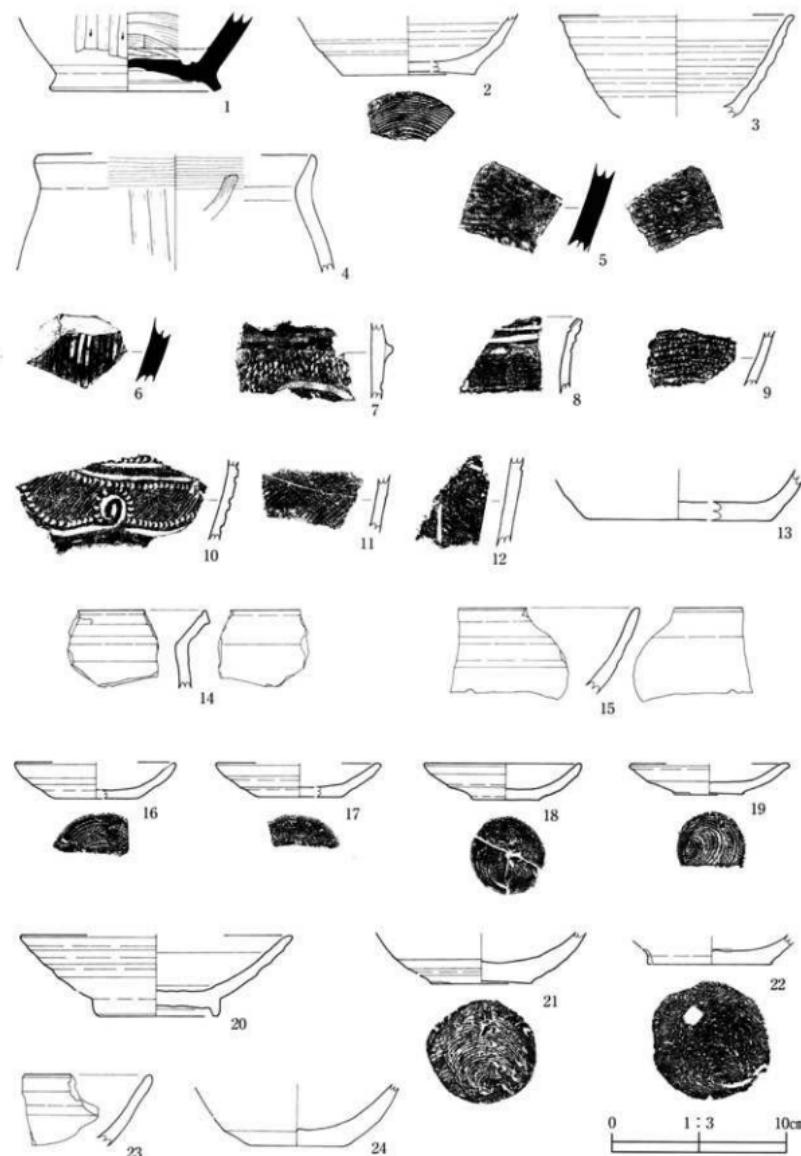
調査は、既設の側溝を取り除いた後に、括げられる側溝部分を重機によって掘削し、断面による遺構の確認を中心に行った。その結果、T2~T7からは縄文時代中期後半を主体とする遺物が多く出土し、T2では堅穴住居跡2棟（1つは土坑の可能性もあり）が重複する様相が断面で確認された。それ以外のT3~T7においても、炭化物粒を含む遺物包含層あるいは遺構の埋土（第Ⅲ層・第Ⅳ層）と思われる層が認められ、これらの状況から、今回の調査区のはば全域に遺構が広がることが予想された。なお、T8から東側は深い沢地形を呈し、かつて厚い盛土がなされたとのことで、その地点にはトレンチを設定しなかった。（平成14・15年度本調査予定）



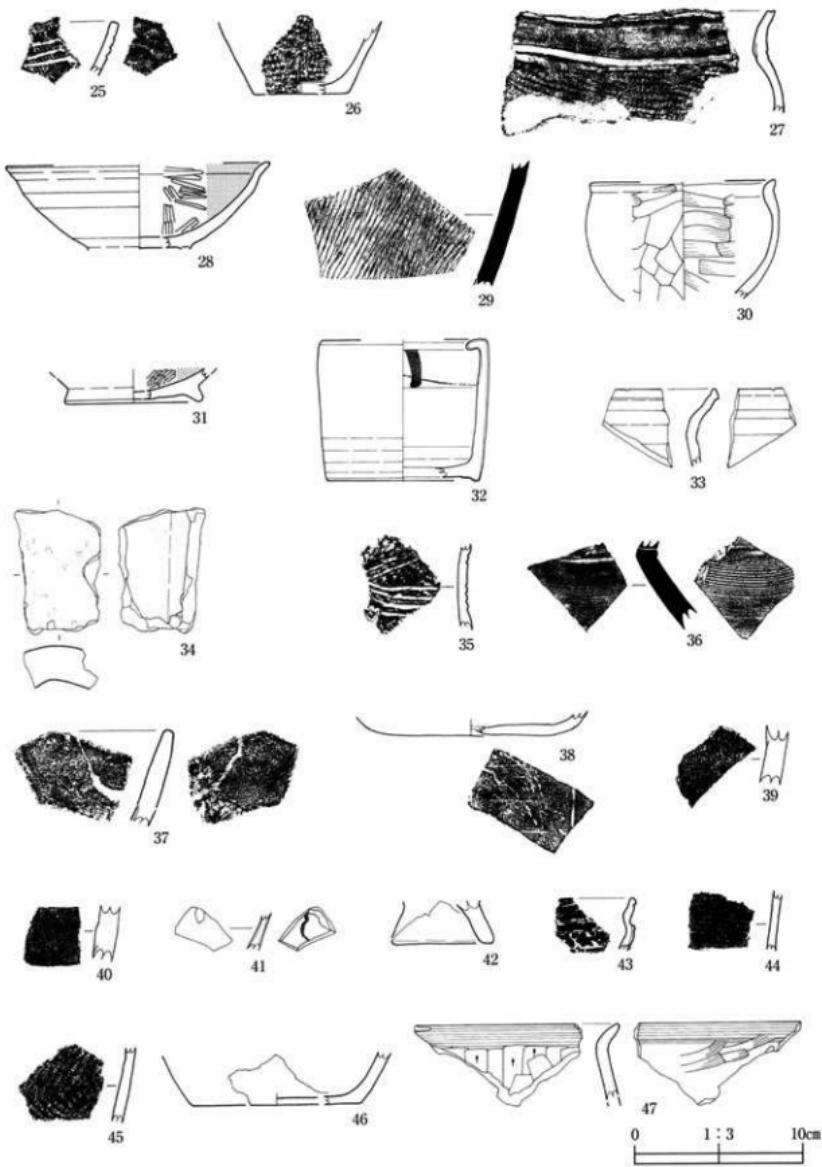
第147図 清田台遺跡位置図



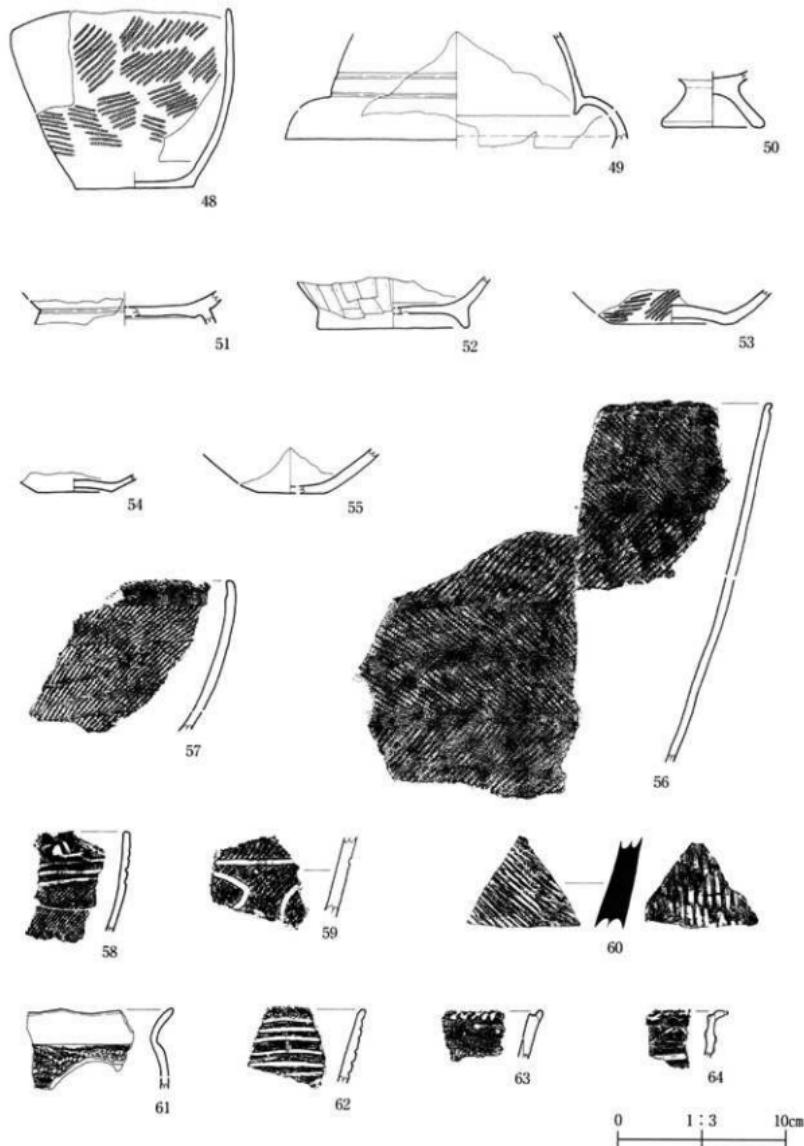
第148図 清田台遺跡調査区位置図



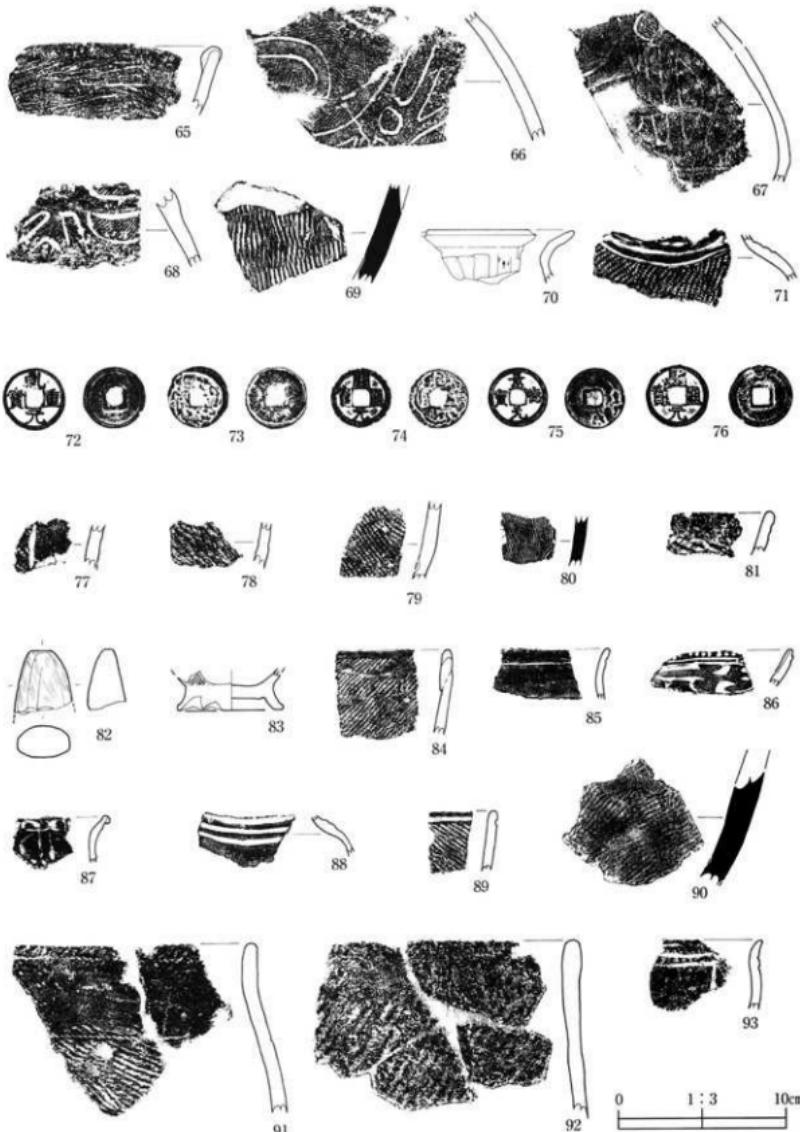
第149図 県内遺跡試掘調査出土遺物 1



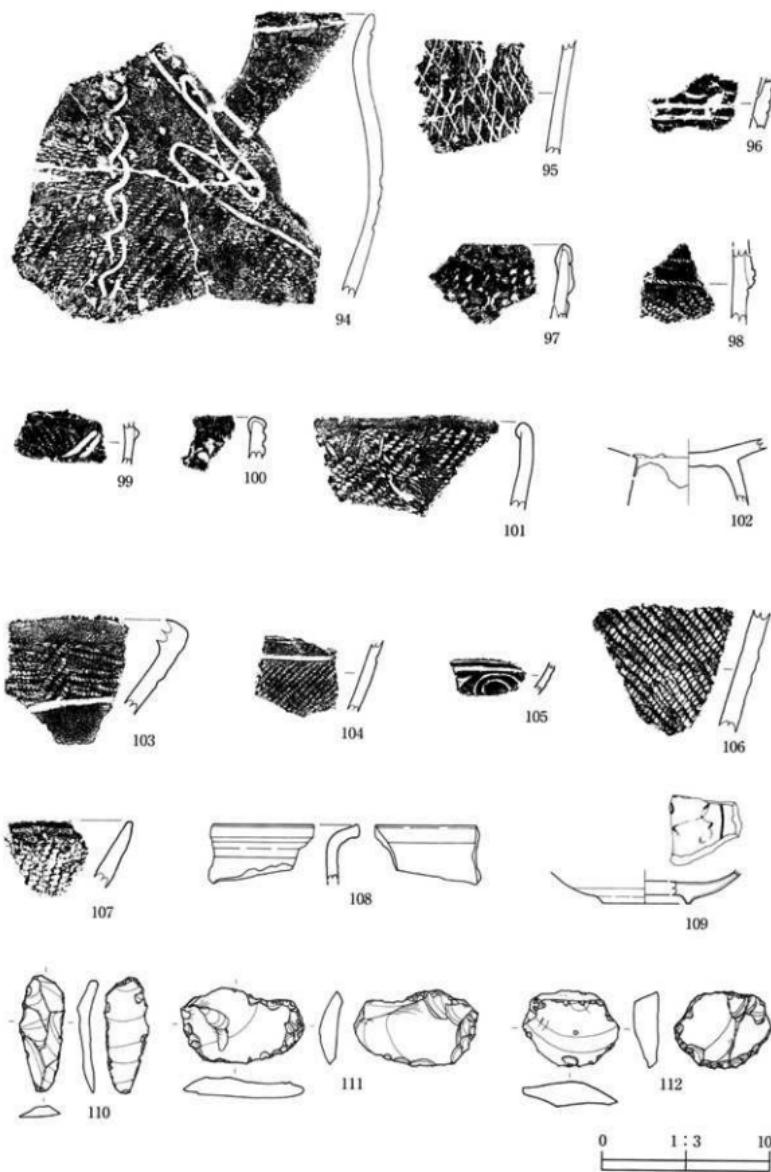
第150図 県内遺跡試掘調査出土遺物 2



第151図 県内遺跡試掘調査出土遺物 3



第152図 県内遺跡試掘調査出土遺物 4



第153図 県内遺跡試掘調査出土遺物 5

県内遺跡試掘調査出土遺物

番号	遺跡名	出土地点	番号	遺跡名	出土地点
1	上台Ⅱ遺跡	T 3 3層下面	57	伊勢堂Ⅲ遺跡	T 20 2層~4層
2	芋田Ⅱ遺跡	T 4	58	*	*
3	*	T 6 Ⅱ層検出面	59	*	*
4	*	*	60	*	T 5 最下層地山面
5	*	T 9 Ⅱ層	61	吉野鳥遺跡	T 4 中央部構造埋土
6	*	*	62	*	*
7	*	T 10 Ⅱ層下	63	*	T 5
8	中屋敷遺跡	T 5	64	*	隣接地耕作土
9	*	T 5	65	外里遺跡	T 7
10	大文字遺跡	T 1	66	*	T 7 暗褐色土
11	*	T 1	67	*	T 7 *
12	*	T 2	68	*	T 7 *
13	*	T 2	69	*	T 19
14	*	T 3	70	*	T 21 褐色土
15	宿館遺跡	T 2 トレンチ3層	71	*	T 29
16	蛇腹組遺跡	T 26 黒色土	72	*	T 6 褐色砂層
17	*	T 26 *	73	*	*
18	*	T 26 土坑	74	*	*
19	*	T 26 土坑	75	*	*
20	*	T 26 土坑	76	*	*
21	*	T 26 土坑	77	和野ソマナイ遺跡	T 15 Ⅲ層
22	*	T 26	78	*	T 18 Ⅲ層中
23	*	T 26	79	*	T 24
24	*	T 26	80	*	耕作土中 I ~ II 層
25	大西遺跡	T 12 暗褐色土	81	和野新聖神社遺跡	T 34~35
26	*	T 14 *	82	*	T 34 灰地表探~T 35開
27	大西橋Ⅱ遺跡	T 9	83	南堀遺跡	T 7
28	坂向Ⅱ遺跡	T 13 住居内	84	*	T 7
29	*	T 14 土坑内	85	*	T 7
30	*	T 26 溝埋土中	86	*	T 7
31	*	T 26 *	87	*	T 7
32	西川目遺跡	T 8	88	*	T 7
33	*	T 13	89	大文字遺跡	T 1
34	*	T 44	90	*	T 2
35	古城上野遺跡	T 56, 57	91	大文字遺跡	T 6
36	*	T 56, 57	92	*	T 6
37	*	T 63	93	*	T 6
38	高玉遺跡	T 10	94	田屋船遺跡	T 3
39	*	T 10	95	*	T 2
40	*	T 10	96	清田台遺跡	
41	*	T 10	97	M E 77-2296	T 3
42	水無Ⅰ遺跡	T 4 黒褐色土	98	*	T 17
43	*	T 26 暗褐色土	99	*	T 17
44	*	T 28 黒色土	100	*	T 24
45	*	T 35 灰褐色土	101	*	*
46	*	T 37 黒色土	102	渋民遺跡	T 9
47	*	T 42 住居埋土	103	*	T 9
48	伊勢堂Ⅲ遺跡	T 20 2層~4層	104	*	T 9
49	*	*	105	*	T 9
50	*	*	106	刈屋中里Ⅱ遺跡	包含層
51	*	*	107	夏明遺跡	T 13
52	*	*	108	中井遺跡	T 4
53	*	*	109	北田遺跡	T 3 灰山灰層の貞土
54	*	*	110	杉林遺跡	
55	*	*	111	*	
56	*	*	112	*	

分布調査一覧

1. 鉄道交通安全施設設備(1種) 事業者：北上地方振興局・本部					
No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	備考
1					遺構・遺物 所在地 高田町向本野第2地割
2					遺構・遺物 所在地 高田町向本野第2地割
3					遺構・遺物 所在地 九川村人字江利家23地割
4					遺構・遺物 所在地 九川村人字長野寺第2地割
5					遺構・遺物 所在地 高田町今子長谷
6					遺構・遺物 所在地 高田町今子長谷
7					遺構・遺物 所在地 高田町今子長谷
8					遺構・遺物 所在地 山形町今子大矢

9 納物事変

事業者：滋賀地方振興局上木原

調査期日：平成14年8月27日

No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	特徴	所在地	備考
1						宮守町下宮守	遺跡なし

10 玄界川一夕平原高原（保津）豪華作業

事業者：滋賀県所那部地場施設課

調査期日：平成14年10月9日

No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	特徴	所在地	備考
1						島田町山崎	遺跡なし

11 貨用地盤企画監理事務

事業者：滋賀県公团組合会社下山村生涯食生活所

調査期日：平成14年11月21日

No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	特徴	所在地	備考
1						代代木字白居	遺跡なし

12 住民活動拠点事務所

事業者：滋賀地方振興局上木原

調査期日：平成14年12月11日

No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	特徴	所在地	備考
1	N E89-1055	野井清水道路	中世			東山町野井字御入道寺内	

試験調査一覧

No.	調査期日	事実要案	所在地	事実者名	通称
1	平成14年4月10日	上場地方道路開閉費賃借地地方道路整備事業 滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園 滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園	滋賀市	施設局	施設局
2	平成14年4月12日	滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園 滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園	石川町	施設局	施設局
3	平成14年4月12日	滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園 滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園	石川町	施設局	施設局
4	平成14年4月12日	滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園 滋賀県立城山市計画及び石垣市計画公園事業第71号新所賀谷城公園	石川町	施設局	施設局
5	平成14年4月15日	一般国道 1 号 東近畿バイパス	木津川市	施設局	施設局
6	平成14年4月16日	木津川市役所(特種別事業) 中谷地区(特種別事業)	木津川市	施設局	施設局
7	平成14年4月16日	大蛇川流域河川整備事業	木津川市	施設局	施設局
8	平成14年4月22日	一般国道 1 号 山田路	山田町	施設局	施設局
9	平成14年4月23日	一般国道 1 号 滝原谷川市道	大和高田市	施設局	施設局
10	平成14年5月 8 日	一般国道 1 号 北上高架橋	北上町	施設局	施設局
11	平成14年5月13日	静川川床(排水)工事緊急事業	木津川市	施設局	施設局
12	平成14年5月16日	静川川床(排水)工事緊急事業	木津川市	施設局	施設局
13	平成14年5月17日	黒瀬川河川整備事業	木津川市	施設局	施設局
14	平成14年5月27日 - 28日	(社)一般財団法人(西日本)八重垣会	木津川市	施設局	施設局
15	平成14年5月27日 - 28日	(社)一般財団法人(東日本)八重垣会	木津川市	施設局	施設局
16	平成14年5月31日	北上管轄施設運営事業元本部	北上町	施設局	施設局
17	平成14年6月11日	北上管轄施設立柱(河川)防護施設事業	北上町	施設局	施設局
18	平成14年6月20日	北上管轄施設(排水)河川(西日本)越見川野地区	北上町	施設局	施設局
19	平成14年6月21日	一般国道 1 号 沖氷(バス)改善事業	玉山村	施設局	施設局
20	平成14年6月21日	一般国道 1 号 沖氷(バス)改善事業	玉山村	施設局	施設局
21	平成14年7月 1 日	坂場原定期整備事業 岐阜西尾地区	中京村	施設局	施設局
22	平成14年7月 2 日	磐梯地方道路整備事業	磐梯町	施設局	施設局
23	平成14年7月 4 日	因賀・さくら山地整備事業	磐梯町	施設局	施設局
24	平成14年7月 4 日	因賀・さくら山地整備事業	磐梯町	施設局	施設局
25	平成14年7月 4 日	坂場原定期整備事業	中京村	施設局	施設局
26	平成14年7月 11 日 - 12日	因賀・さくら山地整備事業	中京村	施設局	施設局
27	平成14年7月11日	校舎建設費	木津川市	施設局	施設局
28	平成14年7月17日	村松施設(特種別事業)	木津川市	施設局	施設局
29	平成14年7月22日	道路歩道整備事業	木津川市	施設局	施設局
30	平成14年7月23日	地域活性化支援整備事業	木津川市	施設局	施設局
31	平成14年7月25日 - 8月 5 日	一般地方道路整備(ハイウェイバス改善事業)	木津川市	施設局	施設局
32	平成14年7月29日	一般国道 1 号 沖氷(バス)改善事業	木津川市	施設局	施設局
33	平成14年7月29日	八重垣会	木津川市	施設局	施設局
34	平成14年7月30日	八重垣会	木津川市	施設局	施設局
35	平成14年7月30日	八重垣会	木津川市	施設局	施設局
36	平成14年7月30日	佐久間道具販賣 中野地区	木津川市	施設局	施設局
37	平成14年8月 5 日 - 6 日	(社)一般財団法人(西日本)石岡会	木津川市	施設局	施設局
38	平成14年8月 5 日 - 6 日	(社)一般財団法人(西日本)石岡会	木津川市	施設局	施設局

No	年月日	調査周辺	事業者名	事業者種別	事務所名	通称	所在地
39	平成11年8月5日 - 6日	[1]地盤整備事業 (組) [2]施設 (組) [3]施設 (組)	石岡地区	本社・販賣・倉庫	本社・販賣・倉庫	M.E. - 2774	江戸川区
40	平成11年8月7日	一般社団法人東京衣被店改修整理事業		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務課		千葉市
41	平成11年8月21日	東京都立農芸試験水利事業		本社・販賣・倉庫	本社・販賣・倉庫		千葉市
42	平成11年8月23日	千鳥治山事業		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
43	平成11年8月27日	中山明地盤合營地盤事業 地盤の整備 (組)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
44	平成11年8月27日	中山明地盤合營地盤事業 地盤の整備 (組)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
45	平成11年8月29日	クロスロードセーフティ事業		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
46	平成11年8月30日	貴賀リサイクル資源処理地盤事業		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
47	平成11年8月30日	特定地盤整備事業 (子) [1]地盤 (工事事業)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
48	平成11年9月4日	甲斐ダム改修事業 (子) [1]地盤 (工事事業)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
49	平成11年9月4日	野川ダム改修事業 (子) [1]地盤 (工事事業)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
50	平成11年9月5日	笠置山地盤整備事業		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
51	平成11年9月6日	中山明地盤合營地盤事業 前原の整備 (組)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
52	平成11年9月6日	中山明地盤合營地盤事業 前原の整備 (組)		千葉県地方税局税務課	千葉県地方税局税務		千葉市
53	平成11年9月10日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	下川内川土木施設水道 企ヶ崎橋施設 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
54	平成11年9月17日	北上川土木施設水道 企ヶ崎橋施設 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
55	平成11年9月20日	佐久引谷地盤事業		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
56	平成11年10月2日	井川川底改修工事		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
57	平成11年10月2日 - 3日	須田地盤整備事業 下川内川伊北小瀬		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
58	平成11年10月2日 - 3日	須田地盤整備事業 下川内川伊北小瀬		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
59	平成11年10月4日	地域振興ネットワーク整備事業		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
60	平成11年10月9日	川内川沿岸地盤改良工事		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
61	平成11年10月10日	土木さとと金矢矢・大河原駅急停車場整備事業		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
62	平成11年10月15日	道場改修事業		北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
63	平成11年10月15日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
64	平成11年10月15日 - 16日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
65	平成11年10月15日 - 16日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
66	平成11年10月16日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
67	平成11年10月17日 - 18日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
68	平成11年10月17日 - 18日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
69	平成11年10月18日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
70	平成11年10月18日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
71	平成11年10月21日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
72	平成11年10月21日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
73	平成11年10月21日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
74	平成11年10月21日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
75	平成11年10月21日 - 22日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県
76	平成11年10月23日	[1]地盤 (組) [2]施設 (組)	道場改修事業 (組) [1]地盤 (組)	北上・販賣・倉庫	北上・販賣・倉庫	マナカ道跡	北上・山形県

No	調查日期	事業名	所在地	地名	備註
77	平成14年10月23日	赤川農業經營立木本業特許事業	中治地地區	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	上忍野路
78	平成14年10月23日	磐田市公所看守施設監視事業	中治地地區	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	保 護
79	平成14年10月23日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所長の通路
80	平成14年10月23日 - 24日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	中央の通路
81	平成14年10月24日	磐田市交通安全部機械整備事業	本 部	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	本 部
82	平成14年10月24日 - 25日	一般国道 108号(改修工事)	土佐営業所	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	土佐営業所
83	平成14年10月25日	土佐営業所合併整備事業(省力化型) 中治地地区	中治地地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	1,196-1146
84	平成14年10月25日	中治改修工事場整備事業(省力化型) 中治地地区	中治地地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
85	平成14年10月25日	中治改修工事場整備事業	中治地地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	平 原 町
86	平成14年10月25日	(社)鳥取県立(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	江 稲 町
87	平成14年10月25日 - 26日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	江 稲 町
88	平成14年10月26日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
89	平成14年10月29日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所
90	平成14年10月29日 - 30日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所管部の通路
91	平成14年10月29日 - 30日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所
92	平成14年10月29日 - 30日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所
93	平成14年10月30日 - 31日	一般国道 108号(改修工事)	土佐営業所	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	上白山
94	平成14年10月31日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
95	平成14年10月31日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
96	平成14年10月31日 - 11月 1日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
97	平成14年10月31日 - 11月 1日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
98	平成14年11月 1日	(社)鳥取県立(公財)千代城(公財)酒食地(公)	酒食地(公)	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	石鳥谷町
99	平成14年11月 5日	磐田市公團團體事業	上白山	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所管部の通路
100	平成14年11月 5日	磐田市介護施設事業	上白山	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所管部の通路
101	平成14年11月 5日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
102	平成14年11月 5日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
103	平成14年11月 5日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
104	平成14年11月 5日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
105	平成14年11月 6日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
106	平成14年11月 6日	磐田市介護施設事業	坂井内原地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	坂井内原地区
107	平成14年11月 8日	地域活性化支援活動整備事業	大船渡地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所管部の通路
108	平成14年11月 8日	地域活性化支援事業 大川地区	大川地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	大川地区
109	平成14年11月11日	(社)鳥取県立(公財)大川地区	大川地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	所外通路
110	平成14年11月11日	(社)鳥取県立(公財)大川地区	大川地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	久慈市
111	平成14年11月11日 - 13日	(社)鳥取県立(公財)大川地区	大川地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	平 原 町
112	平成14年11月11日 - 12日	(社)鳥取県立(公財)手賀地区	手賀地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	二 戸 市
113	平成14年11月13日	(社)鳥取県立(公財)手賀地区	手賀地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	二 戸 市
114	平成14年11月14日 - 15日	(社)鳥取県立(公財)手賀地区	手賀地区	水呑 貞 村 慶 優 事 務 所	二 戸 市

No.	調査期間	事業者名	事業者登録番号	所在地
115	平成14年11月13日	中山間地域総合整備事業 計画地(斜面地) 施設運営事業	北上 原 村 教 備 事 務 所	ME52-1388 北上 市
116	平成14年11月14日	松尾川村 教育委員会 下り道	松尾 村	
117	平成14年11月14日	国土交通省東地方整備局岩手工事事務所 国土交通省東地方整備局岩手工事事務所	玉山 村	
118	平成14年11月14日	国土交通省東地方整備局岩手工事事務所	玉山 村	
119	平成14年11月14日	国土交通省東地方整備局岩手工事事務所	玉山 村	
120	平成14年11月15日	国土交通省東地方整備局岩手工事事務所	花巻 市	
121	平成14年11月15日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	花巻 市	
122	平成14年11月18日	花巻市立学校施設運営事業 計画地(斜面地)	矢巾 町	
123	平成14年11月18日・19日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	矢巾 町	
124	平成14年11月19日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	大東 町	
125	平成14年11月19日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	大東 町	
126	平成14年11月19日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	川崎 村	
127	平成14年11月19日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	川崎 村	
128	平成14年11月21日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	大庭 町	
129	平成14年11月21日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	大庭 町	
130	平成14年11月21日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
131	平成14年11月21日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
132	平成14年11月21日・22日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
133	平成14年11月22日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
134	平成14年11月22日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
135	平成14年11月22日・25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
136	平成14年11月25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
137	平成14年11月25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
138	平成14年11月25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
139	平成14年11月21日・22日・25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
140	平成14年11月22日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	宮古 市	
141	平成14年11月22日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	宮古 市	
142	平成14年11月25日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	住田 町	
143	平成14年11月26日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	花巻 市	
144	平成14年11月26日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	山形 村	
145	平成14年11月26日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	山形 村	
146	平成14年11月27日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	静波寺 町	
147	平成14年11月27日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	石鳥谷 町	
148	平成14年11月28日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	施野 町	
149	平成14年11月28日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	施野 町	
150	平成14年11月28日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	施野 町	
151	平成14年11月28日	花巻市立学校(斜面地) 施設運営事業	施野 町	
152	平成14年11月29日	地方特定文化社会事業	施野 町	

No.	事 業 名	事 業 所 在 地	道 路 名	事 業 所 在 地	事 業 名
153	平成14年12月2日 1現場整備事業 (組)・1・販成(区画整理事業)	黒岩第一地区	港島1号線	北上市	北上市
154	平成14年12月3日 組田地盤改良合意整備事業 開拓地(区)	組田地盤改良合意整備事業 開拓地(区)	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市
155	平成14年12月3日 1現場整備事業 (組)・1・販成(区画整理事業)	二子地区	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市
156	平成14年12月3日 1現場整備事業 (組)・1・販成(区画整理事業)	二子地区	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市
157	平成14年12月3日 1現場整備事業 (組)・1・販成(区画整理事業)	二子地区	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市
158	平成14年12月3日 1現場整備事業 (組)・1・販成(区画整理事業)	二子地区	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市	北上市 北上市 北上市
159	平成14年12月5日 1・販成(区画整理事業) 1・販成(区画整理事業) 1・販成(区画整理事業)	北巻地区 北巻地区 北巻地区	川内港 川内港 川内港	北巻 北巻 北巻	北巻 北巻 北巻
160	平成14年12月5日 1・販成(区画整理事業) 1・販成(区画整理事業)	川内港 川内港	川内港 川内港	川井村 川井村	川井村 川井村
161	平成14年12月5日 1・販成(区画整理事業) 1・販成(区画整理事業)	川内港 川内港	川内港 川内港	衣川村 衣川村	衣川村 衣川村
162	平成14年12月6日 1・販成(区画整理事業)	南川内地区	川内港	常流町	常流町
163	平成14年12月6日 1・販成(区画整理事業)	南川内地区	川内港	水沢町	水沢町
164	平成14年12月6日 1・販成(区画整理事業)	南川内地区	川内港	水沢町	水沢町
165	平成14年12月9日 馬鹿川河川環境改善本部事業	馬鹿川河川環境改善本部事業	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
166	平成14年12月9日～10日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	本高木町	花卷市	花卷市
167	平成14年12月10日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	本高木町	花卷市	花卷市
168	平成14年12月11日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	本高木町	本沢市	本沢市
169	平成14年12月11日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	本高木町	本沢市	本沢市
170	平成14年12月12日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	本高木町	本沢市	本沢市
171	平成14年12月13日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	千厩 千厩	伊野空港 伊野空港	大東町
172	平成14年12月16日～18日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	千厩 千厩	伊野空港 伊野空港	大東町
173	平成14年12月16日～18日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	千厩 千厩	伊野空港 伊野空港	大東町
174	平成14年12月16日～18日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	千厩 千厩	伊野空港 伊野空港	大東町
175	平成14年12月18日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	馬鹿川河川環境改善本部事業	千厩 千厩	伊野空港 伊野空港	大東町
176	平成14年12月18日 主要地盤工事内附地盤工事代森地区工事施設運搬事業	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
177	平成14年12月20日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
178	平成14年12月30日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
179	平成14年12月25日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
180	平成14年12月25日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
181	平成14年12月25日～26日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
182	平成14年12月25日～26日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
183	平成15年1月8日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
184	平成15年1月9日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
185	平成15年1月14日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
186	平成15年1月15日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
187	平成15年1月20日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
188	平成15年1月20日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
189	平成15年1月22日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地
190	平成15年1月25日 1・駒岡山 分社化事業 (C)・1・バス改築・事	北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地	北上港跡地 北上港跡地

No.	調査期間	事業者名	事業者所在地	地主名	地主所在地	通路名	所在地
191	平成15年1月30日	一般店販直面 三ヶ尻駅周辺地区道路改良（下盤工）工事	木 沢 地 方 旅 館	馬 土 木 局	可見性あり	江刺市	
192	平成15年2月3日	小泊浜海岸周辺道路整備事業	岩 石 地 方 施 工	馬 土 木 局	船橋通路	海 石 市	
193	平成15年2月4日	北上川上流域下水道事業 玉山の谷整備造7-5工区（管渠工）工事	北 上 川 上 流 流 域 下 水 道 事 業 所	金沢保道路	境 沢 村		
194	平成15年2月4日	北上川上流域下水道事業 玉山の谷整備造7-5工区（管渠工）工事	北 上 川 上 流 流 域 下 水 道 事 業 所	野沢IV通路	境 沢 村		
195	平成15年2月4日	北上川上流域下水道事業 玉山の谷整備造7-5工区（管渠工）工事	北 上 川 上 流 流 域 下 水 道 事 業 所	野沢IV通路	境 沢 村		
196	平成15年2月6日	特定交通令施設等整備事業	木 沢 地 方 旅 館	馬 土 木 局	長田山通路	木 沢 市	
197	平成15年2月7日	14場整備事業（組合・千成区側整備） 黒岩第1街区	北 上 川 上 流 流 域 下 水 道 事 業 所	港上1通路	北 上 市		
198	平成15年2月12日	特定交通令施設等整備事業	久 里 地 方 旅 館	馬 土 木 局	野野地通路	野 田 村	
199	平成15年2月25日	地方特定路整備事業	宮 古 地 方 旅 館	馬 土 木 局	大木通路	川 井 村	
200	平成15年2月25日	道路改善事業	宮 古 地 方 旅 館	馬 土 木 局	茅原通路	折 里 村	
201	平成15年3月4日	施野第一・二段築替事業	通 野 地 方 旅 館	馬 土 木 局	船橋通路	通 野 山	
202	平成15年3月7日	中山間地域総合整備事業 畠名北地区	通 野 地 方 旅 館	馬 土 木 局	向代通路	高 司 町	
203	平成15年3月10日	主要地元活性化券人頭税改修地区事業	北 佐 貝 地 方 旅 館	馬 土 木 局	船橋通路	北 佐 町	
204	平成15年3月13日	14場整備事業（組合・千成区側整備） 人吉地区	北 佐 貝 地 方 旅 館	馬 土 木 局	石鳥谷町		
205	平成15年3月13日	14場整備事業（組合・千成区側整備） 人吉地区	北 佐 貝 地 方 旅 館	馬 土 木 局	石鳥谷町		
206	平成15年3月13日	14場整備事業（組合・千成区側整備） 人吉地区	北 佐 貝 地 方 旅 館	馬 土 木 局	石鳥谷町		
207	平成15年3月13日	14場整備事業（組合・千成区側整備） 人吉地区	北 佐 貝 地 方 旅 館	馬 土 木 局	石鳥谷町		
208	平成15年3月18日	14場整備事業 金沢河川防護区	-	北 佐 貝 地 方 旅 館	中村地通路	花 果 町	
209	平成15年3月25日	施野第一・二段築替事業	通 野 地 方 旅 館	馬 土 木 局	船橋通路	通 野 山	
210	平成15年3月25日	施野第一・二段築替事業	通 野 地 方 旅 館	馬 土 木 局	船橋通路	通 野 山	



III 写真図版

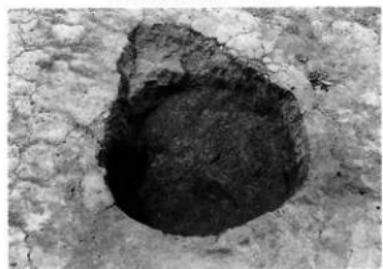




鳥田IV遺跡調査区 全景



鳥田IV遺跡 1号竪穴住居跡



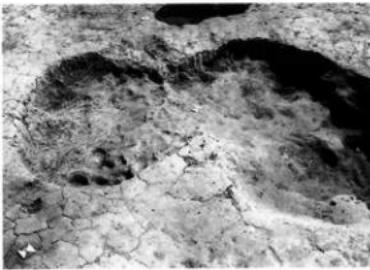
鳥田II遺跡26号土坑 平面



鳥田I遺跡26号土坑 断面



鳥田II遺跡 8号土坑 断面



鳥田II遺跡22号・34号土坑 平面



藏屋敷遺跡 1号竪穴住居跡 ベルト断面 (1)



藏屋敷遺跡 1号竪穴住居跡 ベルト断面 (2)

写真図版1 県内遺跡調査状況1



藏屋敷道路 1号竪穴住居跡 平面



九郎館遺跡 遺構検出状況



寺ノ上遺跡 遺構検出状況(1)



寺ノ上遺跡 遺構検出状況(2)



林崎館遺跡 1号竪穴住居跡 石圓炉 断面



林崎館遺跡 1号竪穴住居跡 平面



根蕉遺跡 北側調査区遺構検出状況

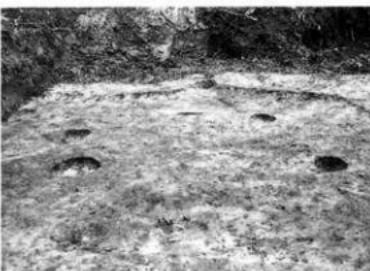


根蕉遺跡 南側調査区遺構検出状況

写真図版 2 県内遺跡調査状況 2



中半入遺跡 2号溝跡 平面



NE65-1163 1号竪穴住居跡 平面



明後沢遺跡群 遺構検出状況(1)



明後沢遺跡群 遺構検出状況(2)



月ヶ森II遺跡 1号土坑 断面



NE34-2172 2号陥し穴状遺構 断面



NE34-2172 3号陥し穴状遺構 平面



立花南遺跡 1号土坑 断面

写真図版3 県内遺跡調査状況3



立花南遺跡 2号土坑 断面



立花南遺跡 2号土坑 平面



寺ヶ前II遺跡 1号竪穴住居跡 断面



寺ヶ前II遺跡 2号溝跡 平面



寺ヶ前II遺跡調査区 全景東から



水ノ口前東遺跡 1号竪穴状造構南北ベルト 断面



水ノ口前東遺跡 1号竪穴状造構東西ベルト 断面



水ノ口前東遺跡 1号竪穴状造構 完成平面

写真図版4 県内遺跡調査状況4



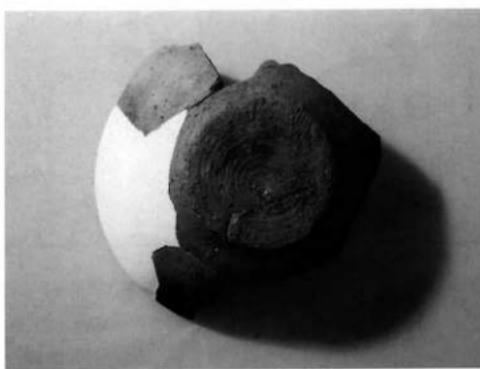
1 烏田IV遺跡
(第17図 11)



2 烏田IV遺跡
(第18図 18)



3 烏田IV遺跡
(第17図 4)

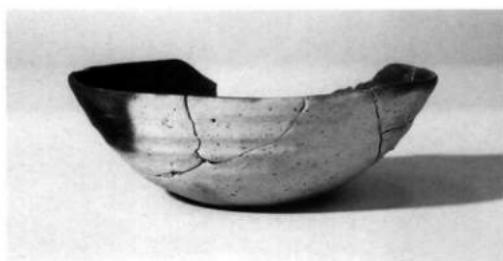


4 烏田IV遺跡
(第17図 10)

写真図版5 県内遺跡調査出土遺物1



5 島田Ⅱ遺跡
(第22図 1)



6 島田Ⅱ遺跡
(第25図 47)



7 島田Ⅱ遺跡
(第22図 2)



8 島田Ⅱ遺跡
(第22図 8)

写真図版 6 県内遺跡調査出土遺物 2



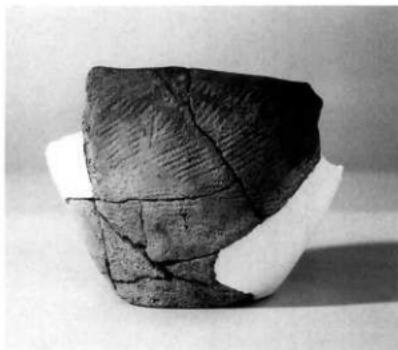
9 蛇瓶組遺跡（第149図 20）



10 水ノ口前東遺跡（第32図 1）



11 蛇瓶組遺跡（第149図 18）



12 伊勢堂Ⅲ遺跡（第151図 48）



13 金附遺跡（第69図 1）



14 金附遺跡（第69図 7）

写真図版7 県内遺跡調査出土遺物3

岩手県文化財調査報告書第116集
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成14年度）

発行日 平成15年3月31日

発 行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局

生涯学習文化課

印 刷 株 杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。